4-247-824-**03**(2)

マイクロハイファイコンポーネントシステム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

CMT-SE9

目次

接続と準備

DVD・ビデオ CD・CD・スーパーオーディオ CD・MP3・JPEG — 再生

DVD — いろいろな機能

MD — 再生

MD — 録音

MD — 編集

ラジオ

テープ — 再生

テープ — 録音

音の調整

タイマー

表示

パソコンにつないで使う

別売りの機器を使う

故障かな？と思ったら

その他

ドルビーラボラトリーズの米国及び外国特許に基づく許諾製品。

録音についてのご注意

- 大切な録音の場合は、必ず事前にためし録りをし、正常に録音されていることを確認してください。
- システムステレオやミニディスクなどを使用中、万一これらの不具合により録音されなかった場合の録音内容の補償については、ご容赦ください。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法上の定めにより、私的録音補償金が含まれております。
（お問い合わせ先：（社）私的録音補償金管理協会 Tel. 03-5353-0336）

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、となり近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。
窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

正常な使用状態で本製品に故障が生じた場合、当社は本製品の保証書に定められた条件にしたがって修理を致します。ただし、本製品の故障、誤動作または不具合により、録音、再生などにおいて利用の機会を逸したために発生した損害等の付随的損害の補償については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この取扱説明書の使いかた

- この取扱説明書では、主にリモコンによる操作を説明していますが、本体の同じ、または類似した名前のボタンを使っても同様の操作ができます。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。

記号	意味
DVD	DVDで使える機能です。
VIDEO CD	ビデオCDで使える機能です。
CD	CDで使える機能です。
SA-CD CD	音楽用CDまたはスーパーオーディオCDで使える機能です。
MP3	MP3*で使える機能です。
JPEG	JPEG画像で使える機能情報です。

* MPEG1 Audio Layer3：MPEGによって規定された音声のデジタル圧縮規格のひとつです。

再生できるディスクについて

本機では次のディスクを再生できます。次のディスク以外は再生できません。

再生できるディスクの一覧

ディスクの種類	ディスクに付いているマーク（ロゴ）
DVDビデオ	DVD VIDEO
ビデオCD	COMPACT disc DIGITAL VIDEO / VIDEO CD
音楽用CD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO TEXT
スーパーオーディオCD	SUPER AUDIO CD
MD	Mini Disc
CD-R/CD-RW（音楽データ、MP3ファイル、JPEGファイル）	COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable / COMPACT disc DIGITAL AUDIO ReWritable / COMPACT disc Recordable / COMPACT disc ReWritable

“ DVD VIDEO ” ロゴは商標です。

本機はNTSCカラーテレビ方式に対応しています。NTSC以外のカラーテレビ方式（PAL、SECAM）対応のディスクは再生できません。

再生可能なDVDの地域番号（リージョンコード）について

DVDには ② のように地域番号が表示されているものがあります。表示中の数字は再生できるプレーヤーの地域番号を表わしています。この表示に「2」が含まれていない、または ALL の表示のないDVDは、本機で再生できません。このようなDVDを再生しようとしたときは、「このディスクは地域制限により再生を禁止されています」と画面に表示されます。また地域番号の表示がないDVDでも地域制限されている場合があり、本機で再生できないことがあります。

DVDに表示されているマークの説明

DVDのディスクやパッケージに表示されているマークには以下のようなものがあります。それぞれのマークはそのディスクに記録されている内容や、使える機能を表しています。
ただし、それらの機能が使えても、以下のマークが表示されていないDVDもあります。

マーク	意味
3	音声のトラック数を表します。
2	字幕の数を表します。
3	アングル数を表します。
16:9 LB	選択可能な画像のたて横比を表します。
2	再生可能な地域番号を表します。

次のページへつづく

再生できないディスクについて

本機では次のディスクなどを再生できません。

- CD-ROM（拡張子「.MP3」、「.JPG」または「.JPEG」が付いたファイルを除く）
- CD-R/CD-RW
  ただし、以下のフォーマットで記録したCD-R/CD-RWは再生できます。
  ー音楽用CDフォーマット
  ービデオCDフォーマット
  ーISO9660*[1]レベル1/レベル2/Joliet/マルチセッション*[2]準拠のMP3、JPEGファイル
- CD-EXTRAのデータ部分
- スーパーオーディオCDのEXTRAデータ部分
- DVD-ROM、DVD-RAM
- DVDオーディオ
- VRモードで記録されたDVD-RW
- 本機では再生できない地域番号（リージョンコード）のDVD
- MP3PROで記録されたMP3ファイル
- NTSC以外のカラーテレビ方式（PAL、SECAM）対応のディスク（本機がNTSCカラーテレビ方式対応のため）
- 円形以外の特殊な形状（カード型、ハート型など）をしたディスク
- 紙やシールの貼られたディスク
- セロハンテープやレンタルディスクのラベルなどののりがはみ出したり、はがしたあとがあるディスク
- 市販されているシールやリングなどのアクセサリーを取りつけたディスク
- 8cmディスクを標準ディスクに変換するアダプターを使用したディスク

*[1]ISO9660フォーマット
国際標準化機構（ISO）が制定したCD-ROMの論理フォーマット。
数段階の交換レベルが設けられています。
Level1では、ファイル名が8.3形式（ファイル名は最大8文字、「.MP3」や「.JPG」などの拡張子は最大3文字まで）で、すべて大文字を使うという制約があります。また、フォルダ名も最大8文字まで、フォルダの階層は8までという制約もあります。Level2ではファイル名、フォルダ名の長さの制約が31文字にまで緩和されています。
Jolietでは最大64文字までのファイル名、フォルダ名を利用することができます。

*[2]マルチセッション
1枚のCDに複数のセッションを記録することができる記録方式。
従来のCDが「リードイン～データ～リードアウト」で構成されるセッションを1つしか持たないのに対し、マルチセッションCDは、複数のセッションを持っています。
CD-EXTRA：第1セッションに音声データを、第2セッションにコンピュータ用のデータを収録します。

CD-R/CD-RW/DVD-R/DVD-RW/DVD＋R/DVD＋RWについてのご注意

- 本機はお客様が編集したCD-R/CD-RW/DVD-R/DVD-RW（Ver.1.1）/DVD＋R/DVD＋RWディスクに再生対応しています（DVD-R/DVD-RW（Ver.1.1）/DVD＋R/DVD＋RWはビデオモードのみ）。ただし、録音に使用したレコーダーやディスクの状態によっては再生できない場合があります。
- ファイナライズ処理（通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理）をしていないCD-RおよびCD-RWディスクは再生できません。
- 拡張子「.MP3」が付いていないMP3形式のファイルは、再生できないことがあります。
- MP3形式以外のファイルに拡張子「.MP3」が付いていると、そのファイルを再生してしまうため、雑音や故障の原因となります。
- MP3音声とJPEGファイルがアルバムに記録されていないときはスキップします。

- 拡張子「.JPG」または「.JPEG」が付いていないJPEG形式のファイルは、再生できないことがあります。
- プログレッシブJPEG形式のファイルは再生できません。
- 縦が1ドットのJPEG画像は表示できません。
- 縦または横が4720ドット以上のJPEG画像は表示できません。
- アルバムの最大数は99です（MP3、JPEGアルバムに記録されるトラック数の最大数は250です）。
- パケットライト方式で記録されたディスクは再生できません。

マルチセッションについて

- 本機ではマルチセッションで記録したディスクも再生できます。
  記録方式について詳しくは、CD-R/CD-RWドライブまたは書き込み用ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
- MP3音声がディスクの最初のセッションに記録されているときは、その他のセッションのMP3音声も再生します。
- JPEG画像がディスクの最初のセッションに記録されているときは、その他のセッションのJPEG画像も再生します。
- 音楽用フォーマットまたはビデオCDフォーマットで記録したディスクの音声や画像が最初のセッションに記録されているときは、最初のセッションだけを再生します。

CD再生時のご注意

本製品は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本製品で再生・録音できない場合があります。

DVD、ビデオCD再生操作について

DVD、ビデオCDはソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機ではソフト制作者が意図したディスク内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに機能が働かない場合があります。再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

著作権について

本機は、米国特許権及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンの許諾が必要であり、マクロビジョンが特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。改造または分解は禁止されています。

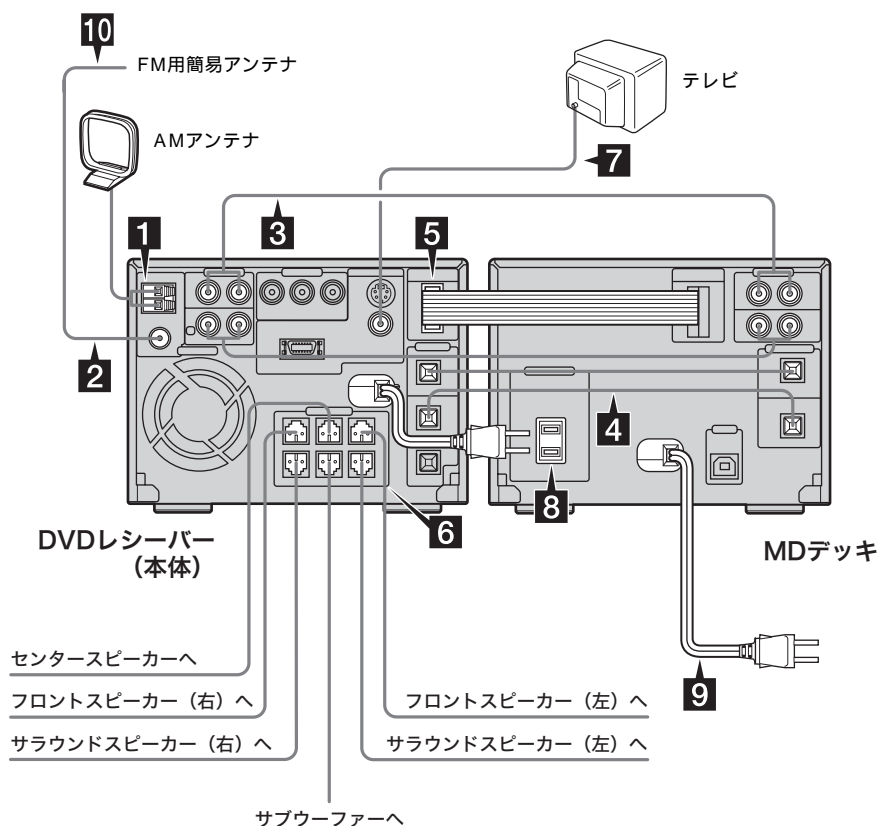
本機はドルビー *[1]デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（II）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS*[2]デコーダーを搭載しています。
ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

*[1]Dolby、ドルビー、Pro Logic、“ AAC ” ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下が米国AACパテントナンバーです。
Pat. 5,848,391; 5,291,557; 5,451,954; 5,400 433; 5,222,189; 5,357,594; 5,752,225; 5,394,473; 5,583,962; 5,274,740; 5,633,981; 5,297,236; 4,914,701; 5,235,671; 07/640,550; 5,579,430; 08/678,666; 98/03037; 97/02875; 97/02874; 98/03036; 5,227,788; 5,285,498; 5,481,614; 5,592,584; 5,781,888; 08/039,478; 08/211,547; 5,703,999; 08/557,046; 08/894,844

*[2]Digital Theater Systems, Incからの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDigital Theater Systems, Incの商標です。

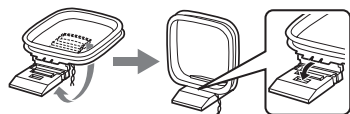
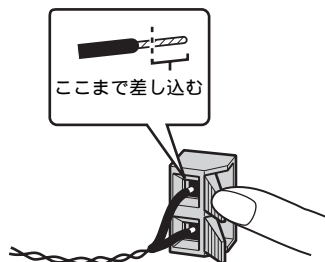
準備1：本機をつなぐ

付属のアンテナやコードを1～10の順につなぎます。
付属のアンテナは室内用です。安定した受信のためには市販の外部アンテナの接続をおすすめします。
外部アンテナを含め、別売り機器の接続については、116ページをご覧ください。

ご注意
正面から見てDVDレシーバーを右に、MDデッキを左に置いてください。

1 AMアンテナをつなぐ

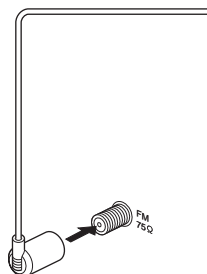
1 ループ（）になっている部分のみをプラスチックスタンドからはずす。

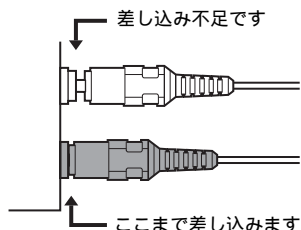
2 スタンド状に組み立てる。

台を起こし、溝にはめます

3 AMアンテナ端子にアンテナコードをつなぐ。

4 アンテナコードを軽く引いてみて、しっかり接続されたことを確認する。

2 FMアンテナをつなぐ

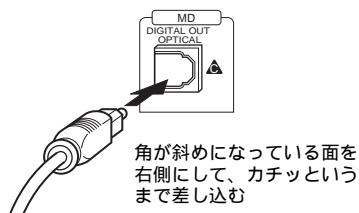
FMアンテナ端子をつなぐ

次のページへつづく

3 オーディオ接続コード（2本）をつなぐ

各機器についているアルファベット（A、B）が同じ端子どうしをつなぎます。端子とプラグの色を合わせ、プラグは根元までしっかり差し込んでください。

ちょっと一言

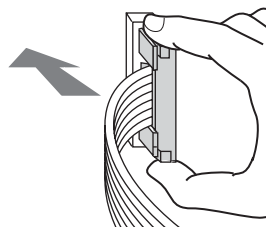
オーディオ接続コードをつなぐのは、各機器どうしでアナログ信号を送るためです。
信号は次のように送られます。
A端子： CDやDVD、ラジオの音がMDデッキに送られる
B端子： MDやテープ、PCの音がDVDレシーバーに送られる

4 デジタル接続ケーブル（2本）をつなぐ

各機器についているアルファベット（C、D）が同じ端子どうしをつなぎます。

ちょっと一言

デジタル接続ケーブルをつなぐのは、各機器どうしでデジタル信号を送るためです。
信号は次のように送られます。
C端子： CDの音がMDデッキに送られる
D端子： MDの音がDVDレシーバーに送られる

5 システムケーブルをつなぐ

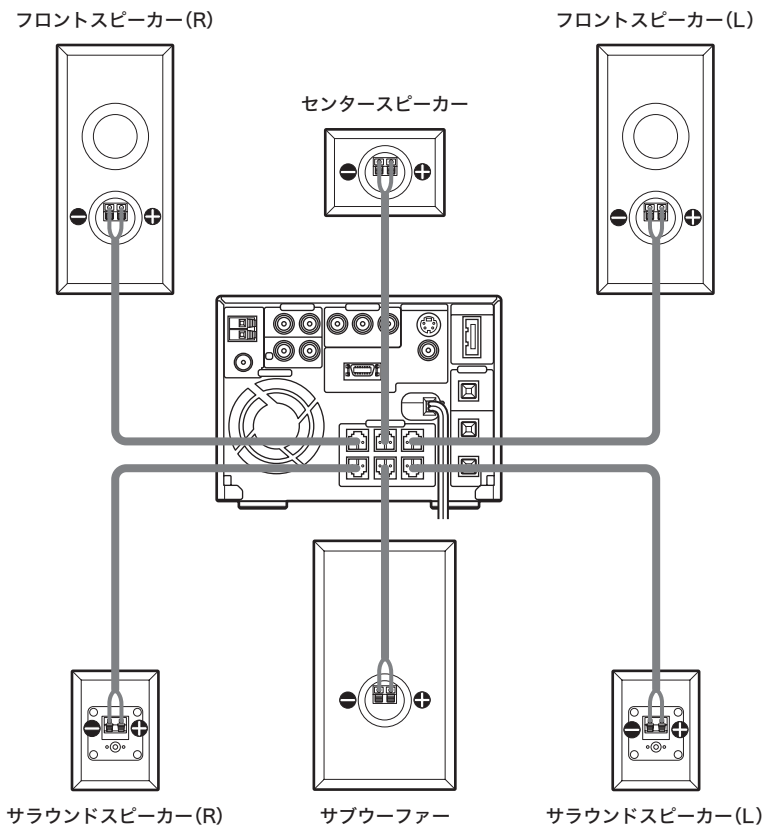
DVDレシーバーのシステムコントロール端子にしっかりと差し込みます。
端子の向きを合わせ、カチッと音がするまで差し込んでください。

ご注意

システムケーブルは、DVDレシーバーとMDデッキを連動して動かすための信号送信用のケーブルです。しっかりと差し込まれていないと、正しく動作しません。

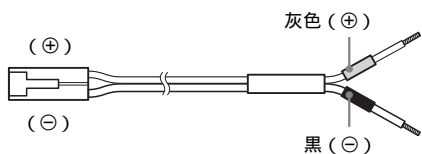
6 スピーカーをつなぐ

フロントスピーカー(R)　フロントスピーカー(L)

センタースピーカー

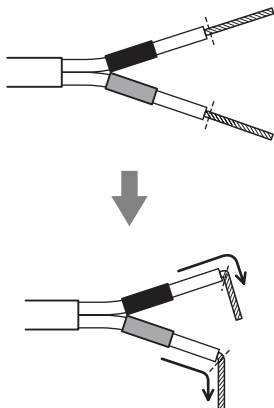
サラウンドスピーカー(R)　サブウーファー　サラウンドスピーカー(L)

つなぐもの	つなぐ端子
フロントスピーカー	SPEAKERS FRONT L（白）/R（赤）端子
サラウンドスピーカー	SPEAKERS SURROUND L（青）/R（灰）端子
センタースピーカー	SPEAKERS CENTER（緑）端子
サブウーファー	SPEAKERS WOOFER（紫）端子

必要な接続コード

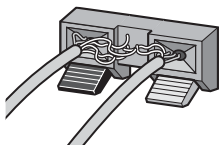
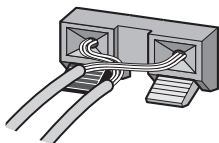
- スピーカーコード（付属）

ご注意

- スピーカーコードの被覆部を各スピーカーのスピーカー端子に挟み込まないようにつないでください。
- スピーカーコードのプラグ部を本機のスピーカー端子に差し込むときは、カチッと音がするまで押し込んでください。また抜くときは、プラグ部の突起を押しながら抜き取ってください。

次のページへつづく

ちょっと一言
下図のようにスピーカーコードの先端を被覆がむけている根本の部分で折り曲げてからスピーカー端子につなぐと、被覆部を挟み込みにくくなります。

スピーカーのショートを防止する

スピーカーをショートさせると本機の故障の原因になります。
ショートを防ぐために、スピーカーを接続するときは以下のことに十分注意してください。
スピーカーコードの両端の被覆がはがれている部分が、他のコードの先端と接触しないように気をつけてください。

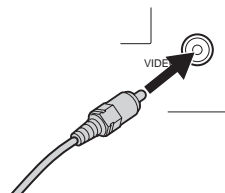
スピーカーコード接続の悪い例

スピーカーコードの先端が他のコードと接触している。

スピーカーコードの先端が端子から大幅にはみ出し、他のコードと接触している。

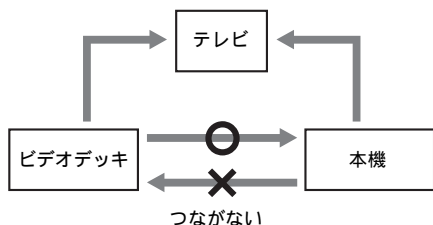
すべての機器、スピーカーコードの接続が完了したら、電源コードをコンセントへ接続し、すべてのスピーカーが正しく接続されているかを確認するため、テストトーンを出します。テストトーンの出しかたは46ページをご覧ください。
テストトーンを出力中、何も聞こえなかったり、本機のディスプレイに表示されているスピーカー名と一致しないスピーカーからテストトーンが出たときは、スピーカーがショートしている恐れがあります。このときはもう一度スピーカーコードの接続を確認してください。

ご注意
- スピーカーコードはスピーカー端子の極性に合わせて＋は＋どうし、−は−どうしでつなぎます。極性を間違えると、音が歪んだり低音不足に聞こえます。
- スピーカーに対して過大入力にならないように、本機の音量を調節してください。

ちょっと一言
フロントスピーカーを床より高い位置に設置するときは、スピーカースタンドWS-MC1（別売り）を使うと便利です。

7 テレビとつなぐ

映像接続コードを、本機のMONITOR OUT VIDEO端子（黄）とテレビの映像入力端子（黄）につなぐ。プラグは奥までしっかりと差し込んでください。

ビデオデッキをつなぐときは

下記のようにテレビとビデオデッキを、映像・音声コード（別売り）を使ってつないでください。

ビデオデッキを経由して本機の映像を見ると、映像が乱れることがあります。ビデオデッキを経由して本機とテレビをつながないでください。
また、本機とビデオ一体型テレビをつないだ場合にも、映像が乱れることがあります。

ご注意

本機の上にテレビを置かないでください。

ちょっと一言

- D映像入力端子付きのテレビをお使いのときは、D映像コード（別売り）を使ってつなぐと、映像本来の色が楽しめます。プログレッシブ方式に対応したテレビとこの接続をしたときは「テレビの画面を調節する（画面設定）」（37ページ）で「コンポーネント出力」を「プログレッシブ」に設定してください。
- S映像入力端子付きのテレビをお使いのときは、S映像コード（別売り）を使ってつなぐと、鮮明な画像が楽しめます。
- 外部の映像機器をVIDEO/SAT IN端子につないだ場合は、MONITOR OUT VIDEO端子（黄）からのみ映像が出力されます。

8 DVDレシーバーの電源コードをつなぐ

MDデッキの電源コンセントへDVDレシーバーの電源プラグを差し込みます。

9 MDデッキの電源コードをつなぎ、I/⏻（電源）を押して電源を入れる

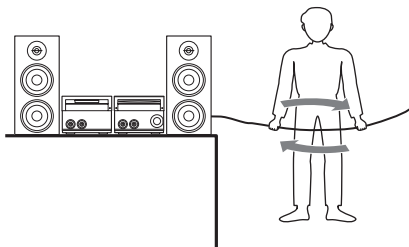
すべての接続を終えたら、壁のコンセントへ電源プラグを差し込みます。

ご注意

本機の電源を入れた後、表示窓に「No Disc」が表示されるまでディスクは引き込まれません。「No Disc」が表示されるまでは、ディスクを無理に押し込まないでください。「No Disc」が表示される前にディスクを無理に押し込むと、本機の故障の原因になることがあります。

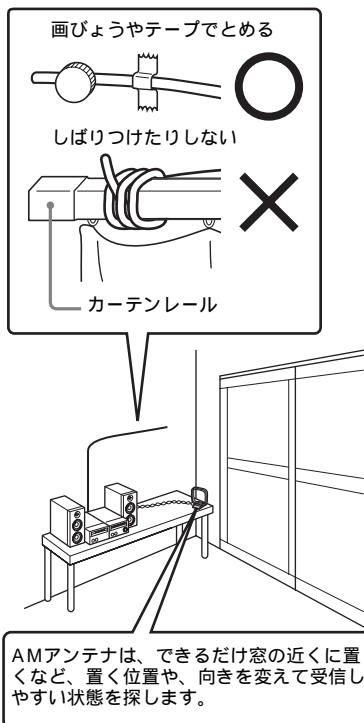
10 FMアンテナをはる

「手動受信してプリセットする」（88ページ）の手順3でFM局を選んで受信した後、次のようにアンテナを壁や天井にはってください。

1 両手でアンテナの先を持ち、体の向きを変えながら受信状態のよい向きを探す。

壁にはるときは、受信状態のよい壁面を探してください。

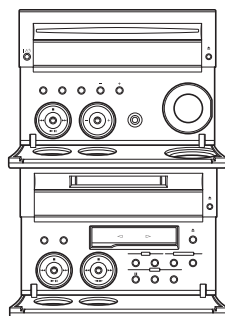
次のページへつづく

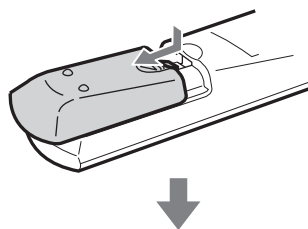
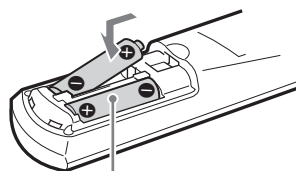
2 方向が決まったら、画びょうやテープではりつける。

AMアンテナは、できるだけ窓の近くに置くなど、置く位置や、向きを変えて受信しやすい状態を探します。

設置時のご注意

- 付属のアンテナは全体で受信しています。まっすぐに伸ばした状態が最も良い受信状態となりますので、余分に感じる部分も巻き取ったりせず、そのまま垂らしてお使いください。
- アンテナはできるだけスピーカーコードから離してください。ラジオ受信時の雑音の原因になります。
- 付属のアンテナは簡易アンテナです。窓の近くや窓の外に置くなどして、できるだけ受信状態のよい場所に設置してください。また、鉄骨造りのマンションなどの場合、付属のアンテナでは十分に受信できないことがあります。置き場所を変えても受信状態がよくならないときは、市販の外部アンテナの使用をお勧めします（118ページ）。

本機を重ねて置く

DVDレシーバーとMDデッキを重ねて置くときは、必ずDVDレシーバーを上に置いてください。

リモコンに電池を入れる

必ずイラストのように⊖極側から電池を入れてください。

⊖側から乾電池を入れます。

ご注意

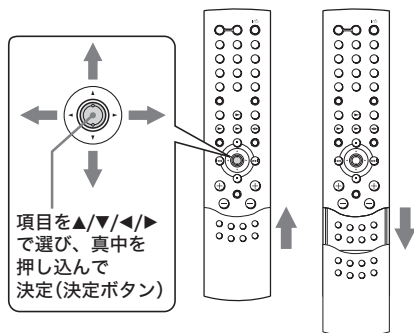
- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
  - ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
  - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  - 液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。

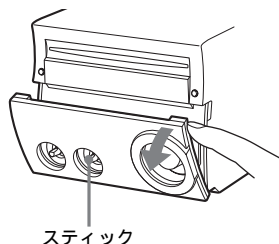
- リモコンを使うときは、リモコン受光部*に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
  * リモコン受光部の位置は、152ページを参照してください。

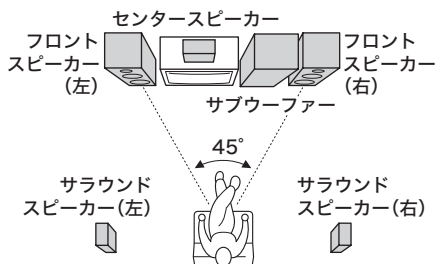
ちょっと一言

電池の交換時期は約6か月です。リモコンを本体に近づけないと操作しづらくなったら、2個とも新しい乾電池に交換してください。

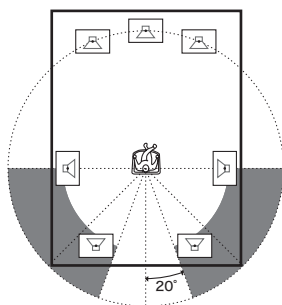
リモコンの使い方

- ▲/▼/◀/▶で項目を選び、真中を押し込んで決定します。
  この取扱説明書では、「真中を押し込んで決定」する操作を、「決定ボタンを押す」と表現しています。
- フタは通常閉じて使います。フタの内部のボタンを操作するときのみ開きます。

本機のフタの開け方

フタの上端を手前に引いて開けます。

準備2：スピーカーを配置する

1 2台のフロントスピーカーを下図のように45度で置く

2 センタースピーカーをフロントスピーカーとほぼ同じ高さに置く

センタースピーカーはフロントスピーカーと一直線上に並べるか、少し後ろに下げます。

3 サラウンドスピーカーを置く

グレーの範囲にそれぞれ設置します。両方のサラウンドスピーカーを視聴する位置からそれぞれ同じ距離に設置すると効果的です。

次のページへつづく

4 サブウーファーを置く

よりよい低音を楽しむには、反響が発生しないよう、固い床に置くことをおすすめします。

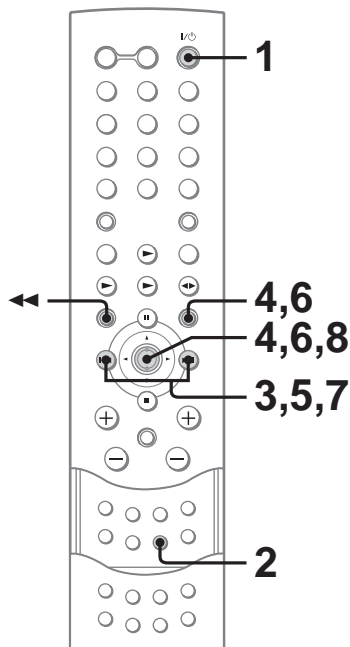
ご注意

- サブウーファーは壁から数センチ離して垂直に置いてください。
- サブウーファーを室内の中央に置くと、室内に定常波が生じるため、低音が極端に弱くなります。このような場合には、サブウーファーを中央から移動させるか、あるいは壁面に本棚を置くなどして、定常波が発生しないようにしてください。

スピーカーの設定について

DVDやスーパーオーディオCDなどをマルチチャンネルで楽しんだり、ドルビーサラウンドを十分に楽しむために、スピーカーの調節が必要となります。リスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定し、バランスやレベルを設定します。テストトーンを使って、各スピーカーの音量が同じレベルになるように調節します。
詳しくは、「スピーカーを調節する」（44ページ）をご覧ください。

準備3：時計を合わせる

タイマー録音などのタイマー機能を使うためにも、あらかじめ時計を合わせておきます。

1 電源を入れる

2 時計/タイマーの設定ボタンを押す

時計が表示され、「曜日」が点滅します。

3 ⏮または⏭を押して、「曜日」を合わせる

4 決定ボタンまたは▶▶を押す

「時」と「AM」が点滅します。

5 I◀◀ または▶▶Iを押して、「時」を合わせる

正午は0:00PM、真夜中は0:00AMです。

6 決定ボタンまたは▶▶を押す

「分」が点滅します。

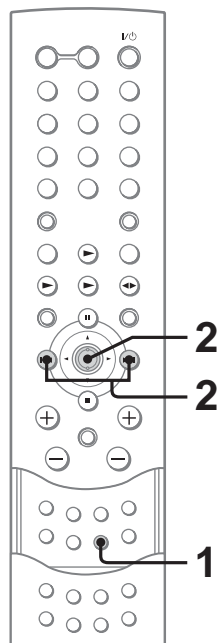
7 I◀◀ または▶▶Iを押して、「分」を合わせる

8 決定ボタンを押す

時計が動き始めます。

設定の途中で間違えたときは

◀◀または▶▶をくり返し押して、変更したいところ（曜日、時、分）を点滅させ、合わせ直す。

設定した時刻を変更する

1 時計/タイマーの設定ボタンを押す

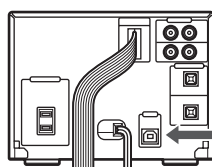
2 I◀◀ または▶▶Iをくり返し押して「CLOCK SET?」を表示させ、決定ボタンを押す

3 「時計を合わせる」の手順3～8を行う

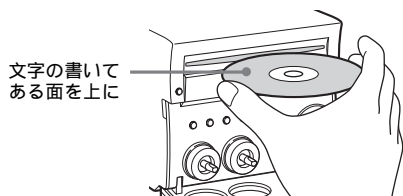
準備4：本機とパソコンをつなぐ

本機はパソコンとつないで楽しむこともできます。その場合は準備4を行ってください。
はじめてパソコンに接続するときは、USBケーブル（付属）をつなぐ前に付属のCD-ROMを使ってパソコンにソフトウェアをインストールしてください。インストールについてはCD-ROMケースの記載をご覧ください。次に、本機のUSB端子に貼られたラベルをはがし、USBケーブル（付属）を使って本機とパソコンを接続します。最後に本機の電源を入れます。
パソコンのハードディスクやCD-ROMドライブで再生した曲を、本機のスピーカーで聞くことができます。また、インストールしたソフトウェアM-crewを使ってパソコンで本機を操作したり、「Net MD対応SonicStage」を使ってパソコンに保存した音楽データをMDに転送することができます（112ページ）。

ご注意

- USBケーブルをはじめにつないだときなどに、ドライバのインストールが始まることがあります。ドライバのファイルが見つからないというメッセージが表示されたときは、ドライバをインストールし直してください。
- 本機とパソコンをつないで操作するとき以外は、USBケーブルを外しておくことをおすすめします。
- パソコン側で音量を調節しても、本機の音量は調節できません。
- USBケーブルを接続すると、音声の出力先がパソコンから本機に切り換わります。パソコンで再生中の曲を停止し、USBケーブルを外すことで、出力先はパソコンに戻ります。本機でパソコンの曲を聞くには、PCファンクションにする必要があります。
- 付属品以外のUSBケーブルを使用したり、延長コネクタ等を用いてケーブルを延長した場合の動作保証は致しかねます。

ディスクを入れる

ディスクを入れる

自動的にディスクが引き込まれるまでディスクを押し込んでください。

ご注意

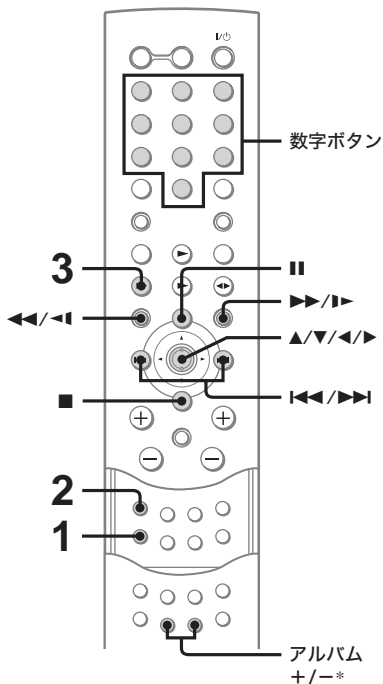
- 本機の電源を入れた後、表示窓に「No Disc」が表示されるまでディスクは引き込まれません。「No Disc」が表示されるまでは、ディスクを無理に押し込まないでください。
- 中古ディスク/レンタルディスクで、シールなどののりがはみ出したり、はがしたあとがあるディスクは使わないでください。ディスクが取り出せなくなったり、本機の故障の原因になることがあります。

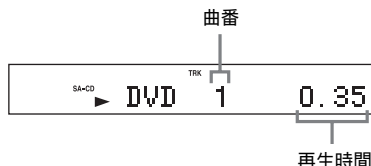
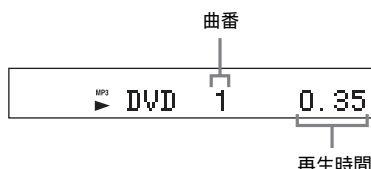
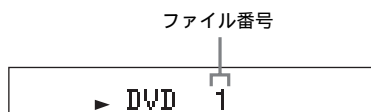
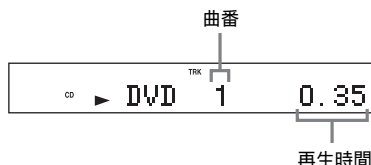
ディスクを再生する

（ノーマル/シャッフル）

DVDやビデオCD、JPEGを再生する場合は、あらかじめテレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えでディスクの映像が映るようにしてください。
ディスクによっては、テレビ画面にメニューが表示される場合があります。そのときは、表示されたメニュー画面（選択画面）の操作にしたがって再生します。操作のしかたについてはDVD（22ページ）、ビデオCD（23ページ）をご覧ください。
ディスクにより異なる操作や禁止されている操作があります。ディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

＊ リモコンのフタを閉じて操作します。

次のページへつづく

DVDを入れたときの表示例

スーパーオーディオCDを入れたときの表示例

MP3のディスクを入れたときの表示例

JPEGのディスクを入れたときの表示例

CDやビデオCDを入れたときの表示例

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをDVDに切り換える

2 停止中に再生モードボタンをくり返し押して、好きな再生モードを選ぶ

こんなときは	表示（再生モード）
ディスク通りの曲順で再生する	表示なし（ノーマル）
MP3またはJPEGのアルバム内に限って再生する	ALBM（アルバム）MP3またはJPEG以外のディスクではノーマル再生になります。
曲順を変えて再生する*	SHUF（シャッフル）
MP3のアルバム内で曲順を変えて再生する	ALBM SHUF（アルバムシャッフル）MP3以外のディスクではシャッフル再生になります。
好きな曲順に再生する*	PGM（プログラム）「好きな順に再生する」（26ページ）をご覧ください。

* DVDとJPEGはシャッフル再生およびプログラム再生できません。

3 SA-CD/DVD►を押す

ご注意

- 再生中に再生モードボタンを押しても、再生モードは変えられません。
- 他のファンクションに切り換えたときは、ディスクが入っていなくても、DVDインジケーターが表示されることがあります。
- 多くの階層や複雑な構成で記録したディスクは再生開始までに時間がかかることがあります。
- ビットレートがVBR（Variable Bit Rate）のMP3を再生した場合には、再生経過時間が正確に表示されないことがあります。

ちょっと一言

テレビ画面を使って再生モードを切り換えることもできます。

1 停止中にDVD画面表示ボタンを押す。
2 ▲/▼を押して「プレイモード」を選び、決定ボタンを押す。
3 ▲/▼を押して再生したいモードを選び、決定ボタンを押す。

その他の操作

こんなときは	操作
再生を止める	■を押す。
一時停止する（JPEG以外）	❚❚を押す。もう一度押すと、再生を再開します。
再生中にチャプターや映像、トラックを選ぶ	⏮またはⅡ⏭をくり返し押す。
MP3またはJPEGのアルバムを選ぶ	手順2の後､アルバム＋または－をくり返し押す。
再生したい部分を探す（サーチ）（MP3以外）*1	DVDレシーバーのSA-CD/DVDスティックを⏮または⏭方向に長押しします。
速度をかえて再生したい部分を探す*1、2（スキャン）（MP3以外）	再生中に◀◀または▶▶を押す。くり返し押すと早送り/早戻しの速度が変わります。再生したい部分でSA-CD/DVD▶を押すと通常の再生に戻ります。
スロー再生する*2（DVD、ビデオCDのみ）	一時停止中に◀❚または❚▶を押す。くり返し押すと再生の速度が変わります。SA-CD/DVD▶を押すと通常の再生に戻ります。
スライドショー（順方向のみ可能）を始める（JPEGのみ）	静止画の再生中に▶▶を押す。くり返し押すと表示間隔が変わります。SA-CD/DVD▶を押すと、静止画表示に戻ります。
静止画を回転させる*3（JPEGのみ）	◀または▶をくり返し選ぶ。 ▶を選ぶたびに、画像が時計回りに90 °回転します。 ◀を選ぶたびに、画像が時計回りと逆回りに90 °回転します。
ディスクを取り出す	DVDレシーバーの⏏DVDを押す。ディスクが出てきた後、DVDレシーバーから引き抜いてください。DVDレシーバーの表示窓に「No Disc」と表示されます。

*1 サーチ中、スキャン中は再生している音を聞くことはできません。
*2 DVD、ビデオCDによって操作が禁止されている場合があります。ディスクのタイプによって選べる速さの種類が異なります（CD、スーパーオーディオCDは1種類のみ）。また、ビデオCDでは、逆方向のスロー再生はできません。
*3 スライドショー表示中は操作できません。SA-CD/DVD▶を押して静止画表示に戻してから操作します。

ご注意

DVDの再生を一時停止したまま何も操作せずに約1時間が経過すると、本機の電源は自動的に切れます。

ちょっと一言

MP3ファイルとJPEGファイルが混在するデータCD（CD-ROM/CD-R/CD-RW）ディスクを再生するときは、データCD優先モード（36ページ）を設定してください。

再生を止めたところから再生する（リジューム再生）（JPEG以外）

再生を止めた後、そのつづきから再生できます。ディスクを取り出さない限り、本機が節電モードになってもリジューム再生が働きます。

1 ディスクの再生中、■を押して、再生を止める。
表示窓に「RESUME」と表示されます。
「RESUME」が表示されないときはリジューム再生はできません。

2 SA-CD/DVD▶を押す。
手順1で再生を止めたところから、再生が始まります。

次のページへつづく

ご注意

- 再生モードがシャッフルまたはプログラムのとき、リジューム再生できません。
- 再生を止めたところによっては、リジューム再生の始まりがずれることがあります。
- 次の場合、再生を止めたところの記録は消え、リジューム再生できません。
  - ー ディスクを取り出したとき
  - ー 再生モードを変えたとき
  - ー DVD設定ボタンを使って設定を変更したとき

ちょっと一言

ディスクを最初から再生したいときは、■を2回押してから、SA-CD/DVD►を押します。

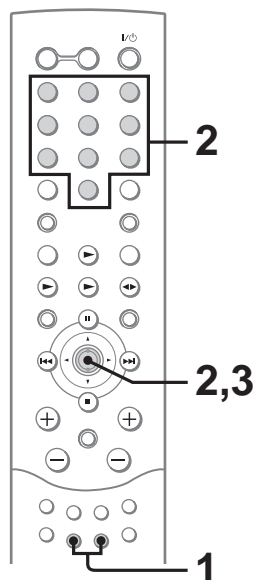
数字ボタンを使って曲番を選ぶ

再生モードがノーマルのとき、曲番の数字を選んでから決定ボタンを押すと自動的に再生が始まります。

DVDに記録されているメニューを使う

DVD

DVDには、DVD独自のメニューが記録されているものがあります。テレビ画面に表示されるメニューを使って再生できます。

- **DVDトップメニューを使う**
  複数のタイトル（映像や曲）が記録されているDVDを再生するときは、好きなタイトルを選べます。
- **DVDメニューを使う**
  ディスクの内容をメニューで選択できるDVDを再生するときは、再生したい項目や字幕の言語、音声の言語などをDVDメニューで選べます。

1 トップメニューボタンまたはDVDメニューボタンを押す

本機に接続されたテレビにメニューが表示されます。メニューの内容はDVDにより異なります。

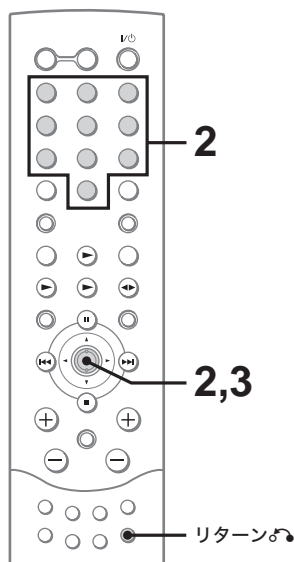
2 再生したい項目を▲/▼/◀/▶または数字ボタンで選ぶ

3 決定ボタンを押す

ご注意
DVD再生中に、DVDトップメニューまたはDVDメニューを表示したまま何も操作せずに約1時間が経過すると、本機の電源は自動的に切れます。

ビデオCDのプレイバックコントロール機能を使う

（PBC再生）

PBC*機能を使って、対話型の操作や検索などができます。
PBC再生とは、テレビ画面に表示されるメニューを使って、再生をすることです。
* PBCはPlayback（プレイバック） Control（コントロール）の略です。

1 PBC対応ビデオCDを再生する

本機に接続されたテレビに選択用のメニュー画面が表示されます。

2 メニュー画面で行いたい（再生したい）項目の番号を▲/▼または数字ボタンで選ぶ

次のページへつづく

3 決定ボタンを押す

4 テレビ画面に表示される選択用のメニュー画面などにしたがって、操作する

操作のしかたはディスクによって異なることがありますので、ディスクに付属の説明書もあわせてご覧ください。

選択用のメニュー画面に戻る

リターン⤺を押す。

ご注意

ディスクによっては手順3で決定ボタンを押すことを「選択ボタンを押す」と表示するものがあります。そのときは、SA-CD/DVD►を押してください。

ちょっと一言

PBC機能を使わないで再生することもできます。

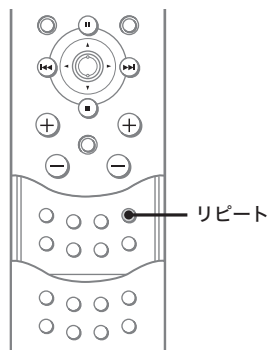
1 停止中に⏮/⏭または数字ボタンを押して再生したいトラックを選ぶ。
2 SA-CD/DVD►または決定ボタンを押す。
「PBCを切って再生します」が表示され、ノーマル再生が始まります。
選択用のメニューなどの静止画は再生できません。

PBC再生に戻すには、■を押して再生を止めた後、もう一度■を押してからSA-CD/DVD►を押します。

くり返し再生する

(リピート)

ディスクのすべてのタイトルやトラック、ファイル、または1つのタイトルやチャプター、トラックをくり返し再生できます。

本機の表示窓を使ってリピート再生する

再生中にリピートボタンをくり返し押して「REP」または「REP1」を表示させる

REP： 再生中のディスク全体または再生中のアルバム全体*1をくり返します（5回まで)。

REP1：ビデオCD/CD/スーパーオーディオCD/MP3のときは、再生中の1曲だけをくり返します。DVDのときは、再生中の1つのタイトル*2またはチャプター*2だけをくり返します。

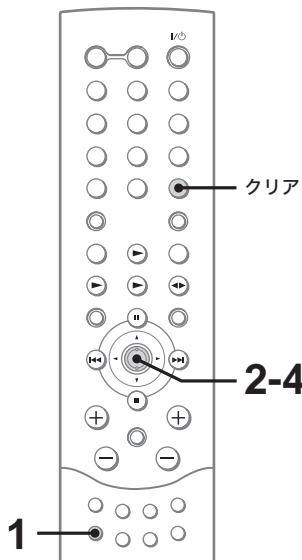
*1 MP3、JPEGのみ
*2 タイトルまたはチャプターのどちらをリピート再生しているかは、テレビ画面で確認することができます。

リピート再生をやめる

リピートボタンをくり返し押して、「REP」または「REP1」を消す。

ご注意

- DVDによってはリピート再生できない場合があります。
- ビデオCDのPBC再生では、リピート再生できません。
- プログラム再生中は、REP1は選択できません。

テレビ画面を使ってリピート再生する

1 再生中にDVD画面表示ボタンを押す

本機に接続されたテレビにコントロールメニュー画面が表示されます。

2 ▲/▼で「リピート」を選び、決定ボタンを押す

「リピート」の設定項目が表示されます。
リピート設定で「切」以外を選んでいるときは、[icon] アイコンが緑色に点灯します。

3 ▲/▼で項目を選ぶ

DVDのとき

- 切：リピート再生をオフにします。
- 全部：すべてのタイトルをくり返し5回再生します。
- タイトル：再生中のタイトルをくり返し再生します。
- チャプター：再生中のチャプターをくり返し再生します。

ビデオCD/スーパーオーディオCD/CD/MP3のとき（プログラム再生が「切」のとき）

- 切：リピート再生をオフにします。
- 全部：すべてのトラックまたは再生中のアルバム（MP3のみ）をくり返し5回再生します。
- トラック：再生中のトラックをくり返し再生します。

JPEGのとき

- 切：リピート再生をオフにします。
- 全部：すべてのファイルまたは再生中のアルバムをくり返し5回再生します（スライドショー再生中のみ）。

プログラム再生をしているとき

- 切：リピート再生をオフにします。
- 全部：プログラム再生をくり返し5回再生します。

4 決定ボタンを押す

リピート再生が始まります。

ノーマル再生に戻す

手順3で「切」を選ぶ、またはクリアボタンを押す。

次のページへつづく

画面表示を消す

DVD画面表示ボタンを押す。

ご注意

- ディスクを取り出すとリピート再生は解除されます。
- DVDによっては、リピート再生できない場合があります。
- ビデオCDのPBC再生では、リピート再生できません。

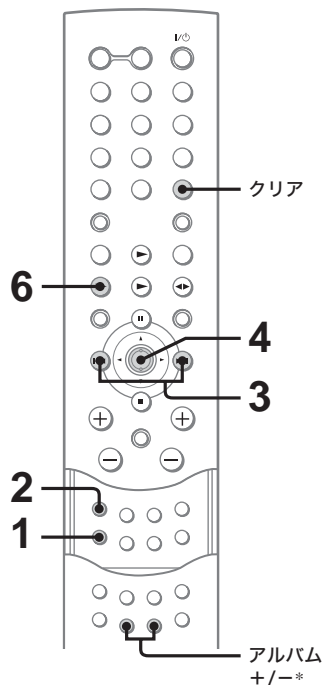
ちょっと一言

停止中にリピート再生を設定できます。リピートボタンで項目を選び、SA-CD/DVD►を押します。リピート再生が始まります。

好きな順に再生する

（プログラム）

最大25個のトラック（曲）を選んでプログラムできます。プログラムした曲はMDやテープにシンクロ録音できます（58ページ、93ページ）。

本機の表示窓を使ってプログラムする

* リモコンのフタを閉じて操作します。

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをDVDに切り換える

2 停止中に再生モードボタンをくり返し押して、「PGM」を表示させる

3 ◀◀または▶▶をくり返し押して、プログラムしたいトラックを選ぶ

MP3をプログラムするときはアルバム＋または－をくり返し押してアルバムを選んだ後、◀◀または▶▶をくり返し押してトラックを選びます。

選んだトラック

4 決定ボタンを押す

トラックが選んだ順にプログラムされます。

何ステップ目にプログラムされたか（Step数）が表示された後、最後にプログラムしたトラック番号が表示されます。

合計再生時間（MP3を除く）

最後のトラック

5 続けてプログラムするときは、手順3、4をくり返す

6 SA-CD/DVD▶を押す

プログラムした順に再生が始まります。

その他の操作

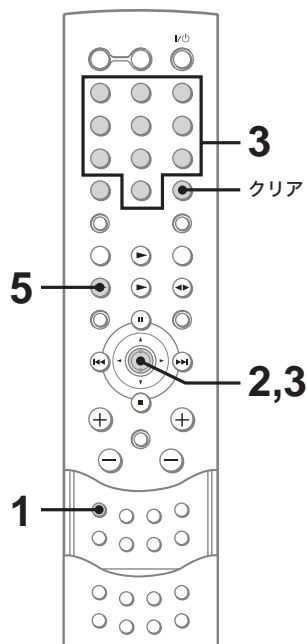
こんなときは	操作
ノーマル再生に戻す（ノーマル）	停止中に再生モードボタンをくり返し押して、「SHUF」や「PGM」、「ALBM」を消す。
プログラムの最後に曲を追加する	停止中に手順1～4を行う。
プログラムを消す	手順4の後でクリアボタンを押す。押すたびに最後にプログラムした曲が消えます。

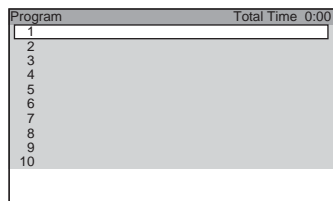
ちょっと一言

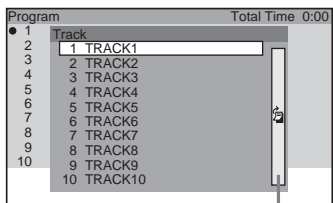
プログラム再生が終わっても、プログラムは残っています。SA-CD/DVD▶を押すと、同じプログラムを再生できます。ただし、ディスクを取り出すとプログラムは消えます。

テレビ画面を使ってプログラムする

DVD・ビデオCD・CD・スーパーオーディオCD・MP3・JPEG — 再生

次のページへつづく

1 再生モードボタンをくり返し押して、「プログラム」を表示させる

本機に接続されたテレビにプログラム画面が表示されます。

2 ▶を選ぶ

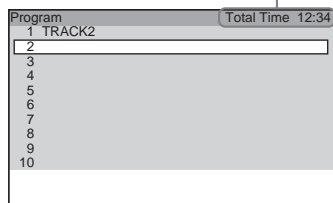
プログラム1が選ばれます。

トラックのリストが一度に表示できない場合は、ジャンプバーが表示されます。▶でジャンプバーを選択します。▲/▼でジャンプバーをスクロールして、残りのリストを表示させることができます。
ジャンプバーからリストに戻るときは◀を選びます。

3 プログラム再生したいトラックを設定する

ビデオCD/スーパーオーディオCD/CDのとき

例）トラック「2」を設定する。
▲/▼または数字ボタンで「2」を選び、決定ボタンを押す。

MP3のとき

例）アルバム「2番目」のトラック「3」を設定する。
▲/▼でアルバム「2番目」を選び、▶を選ぶ。
▲/▼または数字ボタンで「3」を選び、決定ボタンを押す。
アルバム選択に戻るときは◀を選びます。

＊ MP3をプログラムすると、「ーー：ーー」と表示されます。

4 続けて再生するトラックを設定したいときは、手順3をくり返す

トラックが選んだ順に表示されます。

5 SA-CD/DVD►を押す

プログラムした順に再生が始まります。
プログラム再生が終わっても、もう一度SA-CD/DVD►を押すと同じプログラムを再生できます。

設定したプログラムを消す

手順3の後でクリアボタンを押す。押すたびに最後にプログラムしたトラックが消えます。

ノーマル再生に戻す

再生モードボタンをくり返し押して、「コンティニュー」を表示させる。

ちょっと一言

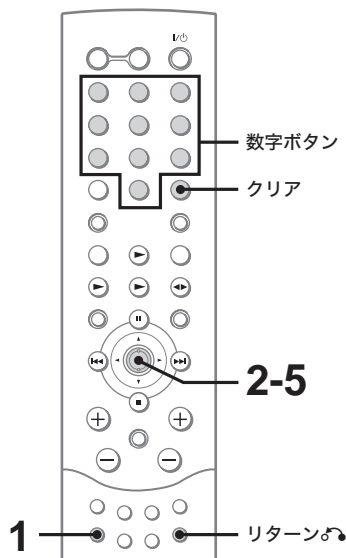
設定したプログラムでリピート再生もできます。プログラムを再生中に、リピートボタンを押します。またはプログラム再生中に、コントロールメニュー画面で「リピート」を「全部」にします（25ページ）。

タイトルやチャプター、トラック、インデックス、アルバム、ファイルを使って頭出しする

JPEG

タイトル（DVD）、チャプター（DVD）、トラック（CD、ビデオCD、スーパーオーディオCD、MP3）、インデックス（ビデオCD、スーパーオーディオCD）、アルバム（MP3、JPEG）、ファイル（JPEG）で映像や曲を探すことができます。

タイトル、トラック、アルバム、ファイルには名前が付けられているので、コントロールメニュー画面からその名前を選んで頭出しします。また、チャプターとインデックスには番号が付けられているので、その番号を入力して頭出しします。また、経過時間をタイムコードで入力して場面を探すこともできます（タイムサーチ）。

DVD・ビデオCD・CD・スーパーオーディオCD・MP3・JPEG — 再生

次のページへつづく

タイトル/トラック/アルバム/ファイルを使って頭出しする

1 DVD画面表示ボタンを押す

本機に接続されたテレビにコントロールメニュー画面が表示されます。

2 ▲/▼で検索項目を選ぶ

DVDのとき
「タイトル」を選ぶ。

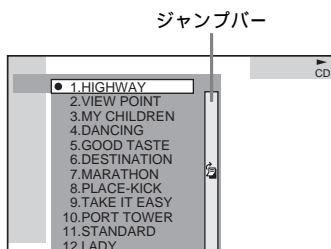
ビデオCDのとき
「トラック」を選ぶ。

CD/スーパーオーディオCDのとき
「トラック」を選ぶ。

MP3のとき
「アルバム」または
「トラック」を選ぶ。

JPEGのとき
「アルバム」または
「ファイル」を選ぶ。

3 決定ボタンを押す

ディスクの内容がリスト表示されます。

アルバムまたはトラックのリストが一度に表示できない場合は、ジャンプバーが表示されます。▶でジャンプバーを選択します。▲/▼でジャンプバーをスクロールして、残りのリストを表示させることができます。
ジャンプバーからリストに戻るときは◀を押します。

4 ▲/▼でタイトルなどの番号を入力する

5 決定ボタンを押す

選んだ場所の再生が始まります。

チャプター /インデックスを使って頭出しする

1 DVD画面表示ボタンを押す

本機に接続されたテレビにコントロールメニュー画面が表示されます。

2 ▲/▼で検索項目を選ぶ

DVDのとき
「チャプター」を選ぶ。

ビデオCDのとき
「インデックス」を選ぶ。

例)「チャプター」を選んだとき
「＊＊(＊＊)」(「(現在選んでいるチャプター番号(チャプターの総数)」)が選ばれます。

3 決定ボタンを押す

「＊＊（＊＊)」が「ーー（＊＊)」に変わります。

4 ▲/▼または数字ボタンでチャプターまたはインデックスの番号を入力する

間違えたときは、クリアボタンを押して数字を消してから入力し直します。

5 決定ボタンを押す

選んだ場所の再生が始まります。

画面表示を消す

DVD画面表示ボタンを押す。

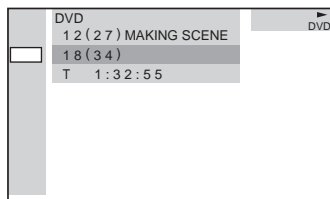
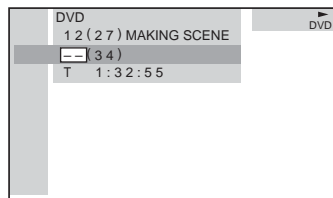
選択を途中でやめる

リターン↶を押す。

タイムコードを入力して場面を探す（タイムサーチ）

例）DVDのタイトル経過時間を探す。

1 手順2で「時間」を選ぶ。
「T ＊＊:＊＊:＊＊」（現在のタイトルの経過時間）が選ばれます。

2 決定ボタンを押す。
「T ーー:ーー:ーー」が「T ＊＊:＊＊:＊＊」の上に表示されます。

3 数字ボタンでタイムコードを入力し、決定ボタンを押す。
例えば、始まりから2時間10分20秒過ぎた場面を探すには、2:10:20と入力します。

ご注意

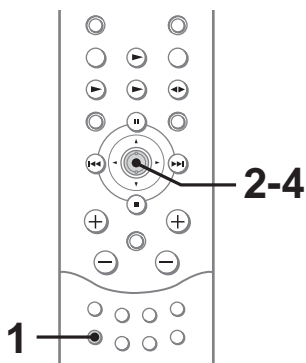
- タイトルやチャプター、トラックの番号はディスク上に記録されている番号と同じように表示されます。
- ビデオCDのシーンを探すことはできません。
- DVDのときは、タイトルの経過時間を入力します。ビデオCD、CD、スーパーオーディオCD、MP3のときは、トラックの経過時間を表示します。

ちょっと一言

再生中に、経過時間と残り時間を切り換えることができます。詳しくは、「画面を使って経過時間と残り時間を見る」（109ページ）をご覧ください。

音声/字幕/言語を変える

音声を切り換える（JPEG以外）

DVDの再生中に音声の言語や音声記録方式を選ぶことができます。
また、CDやビデオCD、MP3再生中は、左右どちらかのチャンネルの音を左右両方のスピーカーから出すことができます。カラオケのビデオCDなどで、伴奏だけを聞くこともできます。スーパーオーディオCDには、マルチチャンネル再生対応のものやスーパーオーディオ信号と普通のCDの信号の両方記録されているものなど、いくつかの音声記録方式があり、それらを選んで再生することができます。

1 再生中にDVD画面表示ボタンを押す

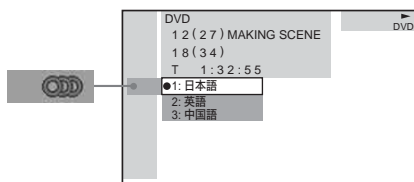
本機に接続されたテレビにコントロールメニュー画面が表示されます。

2 ▲/▼で「音声」を選び、決定ボタンを押す

「音声」の設定項目が表示されます。

3 ▲/▼で音声を選ぶ

DVDのとき

選べる言語と音声記録方式はDVDによって異なります。
4桁の数字が表示されたときは、「言語コード一覧表」（147ページ）をご覧ください。同じ言語が2個以上表示されたときは、音声記録方式（チャンネル数など）が異なります。

ビデオCD/CD/MP3のとき

お買い上げ時の設定は、「ステレオ」です。

- ステレオ：通常のステレオ再生
- 1/L：左チャンネルの音（モノラル）
- 2/R：右チャンネルの音（モノラル）

スーパーオーディオCDのとき

停止中に設定してください。ディスクによって選べる項目が異なります。

- マルチ：マルチチャンネルエリアの再生
- 2CH：2チャンネルエリアの再生
- CD：通常のCDレイヤーの再生

4 決定ボタンを押す

画面表示を消す

DVD画面表示ボタンを押す。

お好みの音声言語を登録する

「表示言語や音声言語、視聴に関する設定を変える（言語設定/視聴設定）」（34ページ）の操作で、本機にあらかじめ設定しておくことができます。

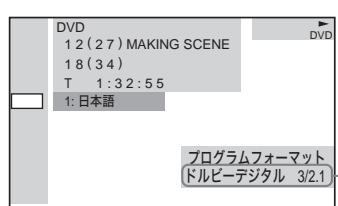
ご注意

- 複数の音声が記録されていないディスクでは、音声の切り換えはできません。
- DVDによっては複数の言語が記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。
- ビデオCDやCD、MP3のときは、電源を切ったり、ディスクを取り出したりすると通常のステレオ再生に戻ります。
- DVD再生中、自動的に音声が切り換わることがあります。

ちょっと一言

音声ボタンで直接「音声」を選ぶことができます。くり返し押して設定します。

再生しているチャンネルを表示する（DVDのみ）

「音声」を選ぶと、現在再生中のDVDに記録されているチャンネル数を表示することができます。

*「PCM」または「DTS」、「ドルビーデジタル」が表示されます。
「ドルビーデジタル」のときは音声の含まれるチャンネルが次のように数字で表示されます。
ドルビーデジタル5.1chの場合：

画面表示の例

- PCM（ステレオ）

プログラムフォーマット
PCM 48kHz 24bit

- ドルビーサラウンドのとき

プログラムフォーマット
ドルビーデジタル 2/0
ドルビーサラウンド

- ドルビーデジタル5.1チャンネルのとき

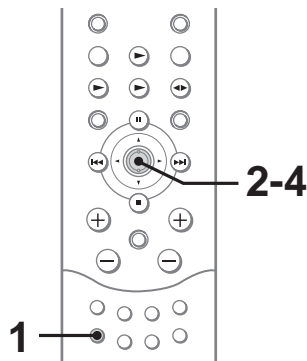
プログラムフォーマット
ドルビーデジタル 3/2.1

- DTSのとき

プログラムフォーマット
DTS 3/2.1

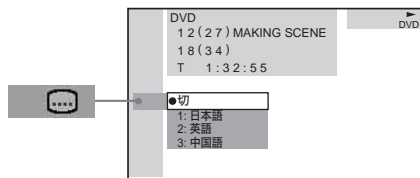
字幕を表示する（DVDのみ）

字幕が記録されているディスクは、再生中に字幕を表示したり消したりできます。複数の言語で字幕が記録されているときは、再生中に字幕を切り換えることができます。語学学習などに便利です。

次のページへつづく

1 再生中にDVD画面表示ボタンを押す

本機に接続されたテレビにコントロールメニュー画面が表示されます。

2 ▲/▼で「字幕」を選び、決定ボタンを押す

「字幕」の設定項目が表示されます。

3 ▲/▼で言語を選ぶ

選べる言語はディスクによって異なります。

4桁の数字が表示されたときは「言語コード一覧表」（147ページ）をご覧ください。

4 決定ボタンを押す

字幕を消す

手順3で「切」を選ぶ。

画面表示を消す

DVD画面表示ボタンを押す。

お好みの字幕言語を登録する

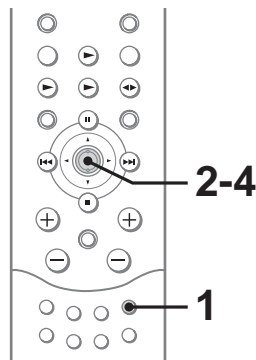
「表示言語や音声言語、視聴に関する設定を変える（言語設定/視聴設定）」（34ページ）の操作で、本機にあらかじめ設定しておくことができます。

ご注意

ディスクによっては字幕が記録されていても、字幕を表示したり消したりすることや、切り換えを禁止している場合があります。

ちょっと一言

字幕ボタンで直接「字幕」を選ぶことができます。くり返し押して設定します。

表示言語や音声言語、視聴に関する設定を変える（言語設定/視聴設定）

1 停止中にDVD設定ボタンを押す

本機に接続されたテレビに設定画面が表示されます。

2 ▲/▼で設定したい項目を選び、決定ボタンを押す

選ぶ	設定の種類
言語設定	画面表示言語、DVDメニュー言語、音声言語、字幕言語
視聴設定	視聴年齢制限（40ページ）、音声トラック自動選定モード、MPEG2 AAC 2ヶ国語、オーディオDRC、データCD優先モード、JPEG日付

3 ▲/▼で設定したい項目を選び、決定ボタンを押す

4 ▲/▼で項目を選び、決定ボタンを押す

ご注意

選んだ言語がディスクに記録されていないときは、記録されている言語のいずれかを選びます（「画面表示言語」を除く）。

ちょっと一言

- 「DVDの設定をお買い上げ時の状態*に戻すときは ― リセット」（132ページ）の操作で、視聴年齢制限を除くすべてのDVD設定をリセットできます。
- 「DVDメニュー言語」「音声言語」「字幕言語」で「その他→」を選んだときは、言語コード一覧表（147ページ）から言語コードを選び入力してください。数字ボタンで言語コードを入力します。次からは4桁の数字の言語コードが表示されます。

・画面表示言語

画面の表示言語を切り換えます。
表示される言語一覧から選びます。

・DVDメニュー言語（DVDのみ）

DVDメニューの言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。

・音声言語（DVDのみ）

音声の言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。

・字幕言語（DVDのみ）

字幕の言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。

・音声トラック自動選定モード（DVDのみ）

複数の音声記録方式が用意されているDVDを再生するときに、チャンネル数の最も多い音声記録方式（PCM、DTS、ドルビーデジタル）を優先して再生することができます。
下線の項目は、お買い上げ時の設定です。

<u>切</u>	優先しない。
入	優先する。

ご注意

- この設定を「入」にすると、言語が切り換わることがあります。これは「音声トラック自動選定モード」の設定が「言語設定」の「音声言語」より優先されるためです。
- PCM、DTS、ドルビーデジタルのチャンネル数が同じ場合、PCM、DTS、ドルビーデジタルの順で優先されます。
- DVDによっては優先する音声があらかじめ決められていることがあります。この場合「入」に設定しても、チャンネル数の多い音声記録方式が優先されないことがあります。

・MPEG2 AAC 2ヶ国語

BSデジタル放送のMPEG-2 AAC二重音声を聞くとき、再生モードを設定することができます。
下線の項目は、お買い上げ時の設定です。

<u>主音声</u>	主音声のみを再生します。
副音声	副音声のみを再生します。
主/副	左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。
主＋副	主音声と副音声が合成された音声を再生します。

ちょっと一言

BSデジタル放送のMPEG-2 AACを聞くには、BSデジタルチューナーの設定メニューで、デジタル出力を「AAC」に切り換えてください。

・オーディオDRC（Dynamic Range Compression）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。夜遅く、小さな音量で映画を見たいときに便利です。
下線の項目は、お買い上げ時の設定です。

切	ダイナミックレンジの圧縮はありません。
<u>スタンダード</u>	レコーディングエンジニアが意図したようなダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。
最大	ダイナミックレンジを極端に狭くします。

ご注意

オーディオDRCの圧縮はソースがドルビーデジタルのときのみ有効です。

次のページへつづく

・データCD優先モード（MP3、JPEGのみ）

MP3ファイルとJPEGファイルが混在するデータCD（CD-ROM/CD-R/CD-RW）ディスクを再生する際、どちらのファイルを優先して認識するか設定します。
下線の項目は、お買い上げ時の設定です。

MP3	MP3ファイルが存在する場合「MP3ディスク」として認識します。MP3ファイルが存在せず、JPEGファイルが存在する場合は「JPEGディスク」として認識します。
JPEG	JPEGファイルが存在する場合「JPEGディスク」として認識します。JPEGファイルが存在せず、MP3ファイルが存在する場合は「MP3ディスク」として認識します。

ご注意

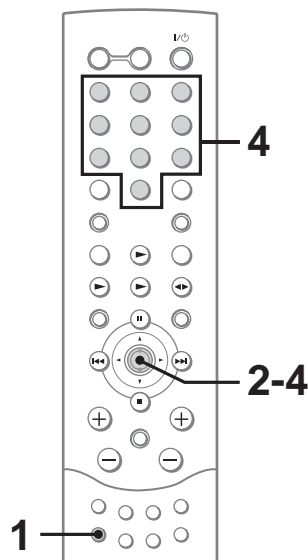
マルチセッションで書き込んだデータCDの場合、最終セッションおよび最終セッションからリンクを張ったセッションが再生対象になります。

・JPEG日付

JPEG日付の表示順序を切り換えます。お買い上げ時の設定は「月/日/年」です。

アングル/映像を調節する

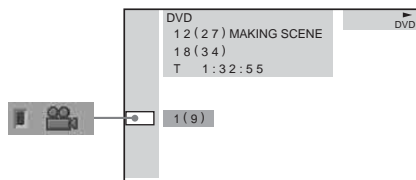
アングルを切り換える（DVDのみ）

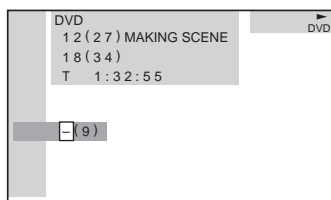
複数のアングルがディスクに記録されているとき、好きなアングルに切り換えながら再生できます。
例えば、動いている電車のシーンの再生中に、電車の正面から見ていた景色を、右の窓からの景色に切り換えて見ることができます。

1　再生中にDVD画面表示ボタンを押す

本機に接続されたテレビにコントロールメニュー画面が表示されます。

2 ▲/▼で「アングル」を選ぶ

カッコ内の数字は、ディスクに記録されているアングルの総数です。
再生中のアングル以外のアングルがディスク上に記録されているときは、アイコンが緑に点灯します。

DVD
12(27) MAKING SCENE
18(34)
T 1:32:55
DVD
1(9)

3 ▶を選ぶ、または決定ボタンを押す

アングル番号が「－」に変わります。

4 ▲/▼または数字ボタンでアングル番号を選び、決定ボタンを押す

選んだアングルに切り換わります。

画面表示を消す

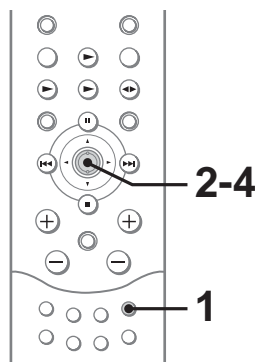
DVD画面表示ボタンを押す。

ご注意

ディスクによっては複数のアングルが記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。

ちょっと一言

アングルボタンで直接「アングル」を選ぶことができます。くり返し押して設定します。

テレビの画面を調節する（画面設定）

1 停止中にDVD設定ボタンを押す

本機に接続されたテレビに設定画面が表示されます。

2 ▲/▼で「画面設定」を選び、決定ボタンを押す

3 ▲/▼で以下の設定したい項目を選び、決定ボタンを押す

- TVタイプ
- スクリーンセーバー
- 背景画面
- コンポーネント出力

4 ▲/▼で項目を選び、決定ボタンを押す

ちょっと一言

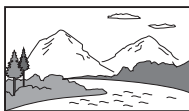
「DVDの設定をお買い上げ時の状態*に戻すときは — リセット」（132ページ）の操作で、視聴年齢制限を除くすべてのDVD設定をリセットできます。

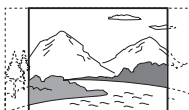
次のページへつづく

• TVタイプ（DVDのみ）

接続するテレビの画面の種類（ワイドテレビまたは従来の4:3画面テレビ）を設定します。
下線の項目は、お買い上げ時の設定です。

16:9	ワイドテレビまたは、ワイドモードのあるテレビとつなぐとき。
4:3 レターボックス	4:3画面のテレビとつなぐとき。ワイド画像は横長のまま表示し、画面の上下は黒く表示する。
4:3 パンスキャン	4:3画面のテレビとつなぐとき。ワイド画像は映像の左右を自動的にカットしてテレビ画面全体に表示する。

16:9

4:3レターボックス

4:3パンスキャン

ご注意

DVDによっては「4:3レターボックス」あるいは「4:3パンスキャン」に設定していても、自動的にどちらかで再生されるものがあります。

• スクリーンセーバー

一時停止または停止したままで15分経つか、CD、スーパーオーディオCD、MP3、JPEG（スライドショー表示中を除く）を15分以上再生すると、スクリーンセーバーの画面に切り換わるよう設定します。画像の焼き付き（残像現象）を防ぐのに役立ちます。SA-CD/DVD►を押すと、スクリーンセーバー画面は消えます。
下線の項目は、お買い上げ時の設定です。

入	スクリーンセーバーを使う。
切	スクリーンセーバーを使わない。

• 背景画面

停止中やCD再生中などの、画面の背景色や背景画面を設定します。
下線の項目は、お買い上げ時の設定です。

ジャケットピクチャー	ディスク（CD-EXTRAなど）にあらかじめ記録されているジャケットピクチャー（静止画像）を背景画面にする。ディスクにジャケットピクチャーが記録されていないときは、「グラフィックス」の画像が表示される。
グラフィックス	あらかじめ本機に記録されているグラフィックピクチャーを背景画面にする。
青	画面の背景色を「青」にする。
黒	画面の背景色を「黒」にする。

• コンポーネント出力

本機のMONITOR OUT COMPONENT D2端子から出力される映像信号の方式を設定します。
下線の項目は、お買い上げ時の設定です。

インターレース	標準のテレビ（インターレース方式）とつなぐとき。
プログレッシブ	プログレッシブ525p方式に対応したテレビとつなぐとき。

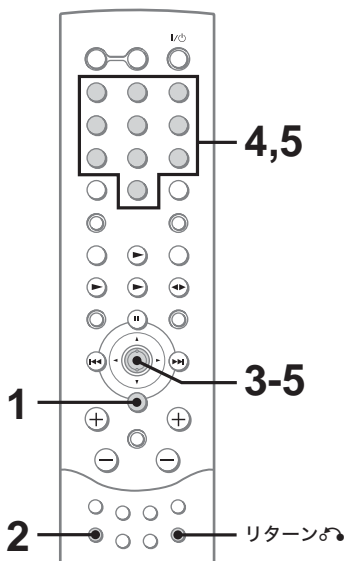
ご注意

「コンポーネント出力」を「プログレッシブ」に設定すると、MONITOR OUT VIDEO端子、S VIDEO端子から映像は出力されません。（DVDレシーバーのTUNERスティックを－（マイナス）方向に長押ししながらSPEAKER OUT MODEとSOUND FIELD ＋を同時に押すと、インターレース設定に戻ります。）

ディスクの再生を制限する

（カスタム視聴制限/視聴年齢制限）

特定のディスクを再生できないようにする（カスタム視聴制限）

登録した同じ暗証番号を使って、25枚までのディスクにカスタム視聴制限を設定することができます。26枚目のディスクを設定すると、1番最初に設定したディスクの制限が解除されます。

1 設定したいディスクを入れる

ディスクを再生しているときは、■を押して再生を止めます。

2 停止中にDVD画面表示ボタンを押す

本機に接続されたテレビにコントロールメニュー画面が表示されます。

3 ▲/▼で「カスタム視聴制限」を選び、決定ボタンを押す

「カスタム視聴制限」が選ばれます。

4 ▲/▼で「入→」を選び、決定ボタンを押す

暗証番号が登録されていないときは

暗証番号登録の画面が表示されます。

数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押します。
暗証番号確認の画面が表示されます。

次のページへつづく

暗証番号がすでに登録されているときは

暗証番号入力の画面が表示されます。

カスタム視聴制限

暗証番号を入力して 決定 を押してください

□ _ _ _

5 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す

「カスタム視聴制限を設定しました」と表示され、コントロールメニューの画面に戻ります。

暗証番号を間違えたときは

決定ボタンを押す前に◀を選び、入力し直します。

間違えたときは

リターンを押して、手順3から選び直す。

画面表示を消す

DVD画面表示ボタンを押す。

カスタム視聴制限を解除する

1 手順4で「切→」を選び、決定ボタンを押す。
2 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

暗証番号を変更する

1 手順4で「暗証番号変更→」を選び、決定ボタンを押す。
暗証番号入力の画面が表示されます。
2 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。
3 数字ボタンで新しい4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。
4 確認のため、数字ボタンでもう一度暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

カスタム視聴制限が設定されたディスクを再生する

1 カスタム視聴制限が設定されたディスクを入れる。
カスタム視聴制限の画面が表示されます。
2 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。
再生できる状態になります。

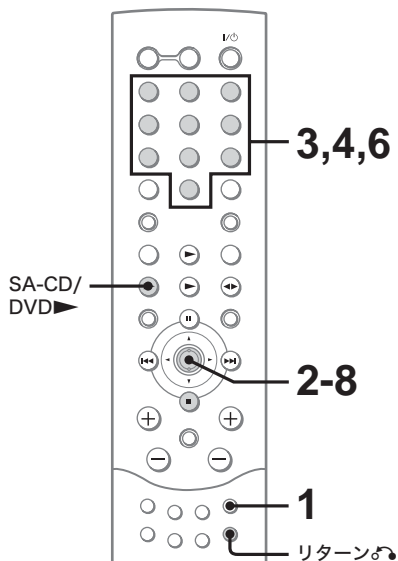
ご注意

- スーパーオーディオCDで、レイヤーを切り換えた場合、カスタム視聴制限が設定されていると、暗証番号の入力画面になることがあります。
- ハイブリッドのスーパーオーディオCDでカスタム視聴制限の設定を行った場合は、現在のレイヤーにのみ設定が有効になります。

ちょっと一言

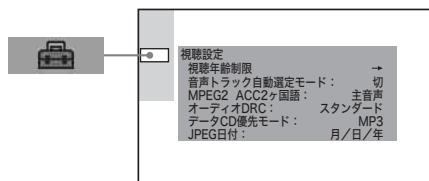
暗証番号を忘れてしまったときは、カスタム視聴制限画面で、暗証番号を入力する案内が表示されているとき、6桁の数字「199703」を数字ボタンで入力して決定ボタンを押します。画面に、新しい4桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。

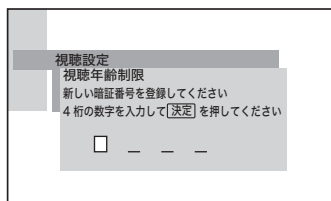
視聴年齢制限付きDVDの再生できるシーンを制限する（視聴年齢制限）

DVDの中には、地域ごとに設けられたレベル（見る人の年齢など）によって視聴を制限できるものがあります。視聴年齢制限機能を使うと、この視聴制限レベルを設定することができます。
制限されているシーンが再生されたとき、そのシーンをカットしたり、あらかじめ用意された別のシーンに差し替えて再生します。

1 停止中にDVD設定ボタンを押す

本機に接続されたテレビに設定画面が表示されます。

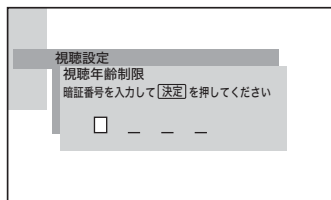
2 ▲/▼で「視聴設定」を選び、決定ボタンを押す

「視聴設定」画面が表示されます。

3 ▲/▼で「視聴年齢制限→」を選び、決定ボタンを押す

暗証番号が登録されていないときは

暗証番号登録の画面が表示されます。

数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押します。

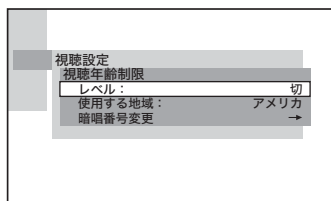
暗証番号確認の画面が表示されます。

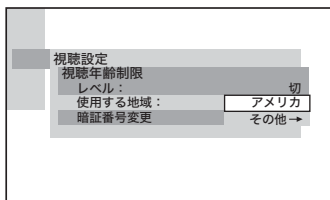
暗証番号がすでに登録されているときは

暗証番号入力の画面が表示されます。

4 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す

視聴制限のレベル設定および、暗証番号の変更の画面が表示されます。

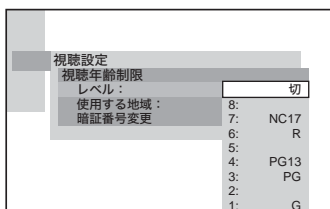
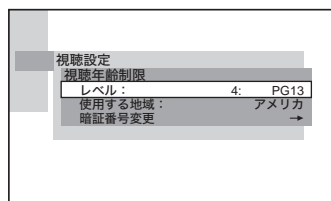
DVD — いろいろな機能

次のページへつづく

5 ▲/▼で「使用する地域」を選び、決定ボタンを押す

「使用する地域」の選択項目が表示されます。

6 ▲/▼で視聴制限レベルの基準にする地域を選び、決定ボタンを押す

地域が選ばれます。
「その他→」を選んだときは、43ページの表から地域コードを選び、数字ボタンで入力します。

7 ▲/▼で「レベル」を選び、決定ボタンを押す

「レベル」の選択項目が表示されます。

8 ▲/▼で制限するレベルを選び、決定ボタンを押す

視聴年齢制限の設定が終了します。
レベルの数字が小さいほど制限が厳しくなります。

間違えたときは

リターンを押して1つ前の画面に戻り、選び直す。

画面表示を消す

DVD設定ボタンを押す。

視聴年齢制限を解除する

手順8で「レベル」を「切」にする。

暗証番号を変更する

1 手順5で▼を使って「暗証番号変更→」を選び、決定ボタンを押す。
暗証番号入力の画面が出ます。

2 もう一度手順3と同じ操作をして、新しい暗証番号を登録する。

視聴年齢制限が設定されたディスクを再生する

1 ディスクを入れて、SA-CD/DVD►を押す。
視聴制限の暗証番号入力画面が表示されます。

2 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。
再生が始まります。

ご注意

- 視聴年齢制限機能がないDVDは、本機で視聴制限をしても再生は制限できません。
- DVDによっては、再生中に視聴年齢設定の変更を要求される場合があります。その場合、暗証番号を入力し、レベルを変更してください。

ちょっと一言

登録した暗証番号を忘れてしまったときは、ディスクを取り出し、「視聴年齢制限付きDVDの再生できるシーンを制限する（視聴年齢制限）」（40ページ）の手順1〜3にしたがって操作します。暗証番号を入力する案内が表示されたら、6桁の数字「199703」を数字ボタンで入力して決定ボタンを押します。画面に、新しい4桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。
新しい暗証番号を入力して、ディスクを本機に入れなおし、SA-CD/DVD►を押します。暗証番号入力画面が表示されるので、新しい暗証番号を入れます。

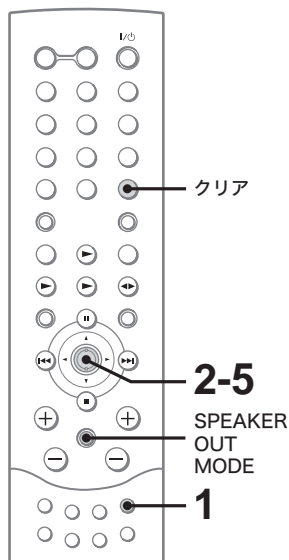
地域コード

使用する地域	コード番号
アルゼンチン	2044
イギリス	2184
イタリア	2254
インド	2248
インドネシア	2238
オーストラリア	2047
オーストリア	2046
オランダ	2376
カナダ	2079
韓国	2304
シンガポール	2501
スイス	2086
スウェーデン	2499
スペイン	2149
タイ	2528
台湾	2543
中国	2092
チリ	2090
デンマーク	2115
ドイツ	2109
日本	2276
ニュージーランド	2390
ノルウェー	2379
パキスタン	2427
フィリピン	2424
フィンランド	2165
ブラジル	2070
フランス	2174
ベルギー	2057
ポルトガル	2436
香港	2219
マレーシア	2363
メキシコ	2362
ロシア	2489

スピーカーを調節する

（スピーカー設定）

サラウンド効果を十分に楽しむため、つないだスピーカーや視聴する位置からスピーカーまでの距離を設定します。また、テストトーンを使って、各スピーカーの音量とバランスが同じレベルになるように調節します。

視聴するスピーカーや位置を設定する

1　停止中にDVD設定ボタンを押す

本機に接続されたテレビに設定画面が表示されます。

2　▲/▼で「スピーカー設定」を選び、決定ボタンを押す

3　▲/▼で「大きさ」または「距離」を選び、決定ボタンを押す

4　▲/▼で以下の設定したい項目を選び、決定ボタンを押す

- フロント
- センター
- サラウンド
- サブウーファー（手順3で「大きさ」を選んだときのみ）

5　▲/▼で数値（項目）を選び、決定ボタンを押す

最初の設定に戻す

戻したい項目を選んで、クリアボタンを押す。ただし、「大きさ」の設定は戻せません。

・大きさ

サラウンドスピーカーの位置を変えた場合は、「サラウンド」を設定し直します。センタースピーカーやサラウンドスピーカーを使わない場合は、手順5でSPEAKER OUT MODEをくり返し押して、「2CH」または「2.1CH」を表示させます。フロントスピーカーとセンタースピーカー、サブウーファーの設定は変えられません。下線の項目は、お買い上げ時の設定です。

フロント	あり
センター	あり
サラウンド	後（低）、後（高）、横（低）、横（高）：デジタルシネマサウンドを楽しむため（96ページ）に、サラウンドスピーカーの位置と高さを設定する。
サブウーファー	あり

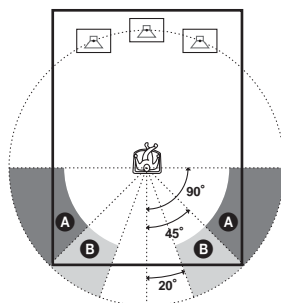
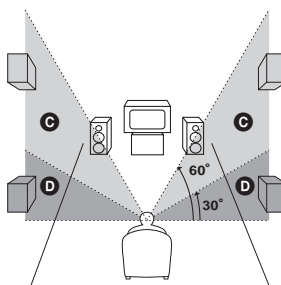
ご注意

- 項目を選んだときは、音が一瞬途切れます。
- 他のスピーカーの設定によっては、サブウーファーから大音量が出ることがあります。

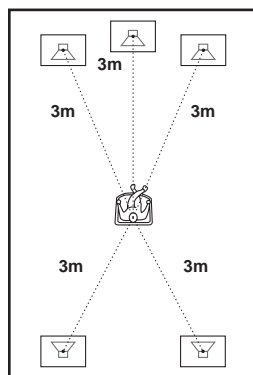
サラウンドスピーカーの位置と高さを設定する

サラウンドスピーカーを設定する場合は、次ページの図を参考に「サラウンド」の項目を選びます。下線の項目は、お買い上げ時の設定です。

後（低）	サラウンドスピーカーを図のⒷとⒹの範囲に設置する場合
後（高）	サラウンドスピーカーを図のⒷとⒸの範囲に設置する場合
横（低）	サラウンドスピーカーを図のⒶとⒹの範囲に設置する場合
横（高）	サラウンドスピーカーを図のⒶとⒸの範囲に設置する場合

位置の目安

高さの目安

- **距離**

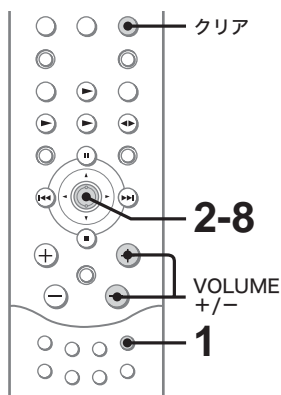
視聴する位置から各スピーカーの距離のお買い上げ時の設定値は以下のようになっています。

次のページへつづく

スピーカーの位置を変えた場合は、そのたびに設定し直します。下線の数値は、お買い上げ時の設定値です。

フロント 3.0m	1m～7mの範囲で、0.2m刻みで設定できます。
センター 3.0m	フロントスピーカーと同じ距離から視聴する位置に1.6m近い距離までの範囲で、0.2m刻みで設定できます。
サラウンド 3.0m	フロントスピーカーと同じ距離から視聴する位置に4.6m近い距離までの範囲で、0.2m刻みで設定できます。

ご注意

- 項目を選んだときは、音が一瞬途切れます。
- 両方のフロントスピーカーまたはサラウンドスピーカーが視聴する位置から同じ距離に設置されていない場合は、視聴する位置に近いほうのスピーカーの距離を設定します。
- サラウンドスピーカーをフロントスピーカーより離れた位置に置かないでください。

視聴する位置にあったバランスと音量レベルを選ぶ

1 停止中にDVD設定ボタンを押す

本機に接続されたテレビに設定画面が表示されます。

2 ▲/▼で「スピーカー設定」を選び、決定ボタンを押す

3 ▲/▼で「テストトーン」を選び、決定ボタンを押す

4 ▲/▼で「入」を選び、決定ボタンを押す

各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。

5 視聴する位置から、▲/▼/◄/►で以下の項目を選び調節する

- レベル調整
- バランス調整

調節している間は、調節している左右スピーカーから同時にテストトーンが聞こえます。

6 調節が終わったら、決定ボタンを押す

7 ▲/▼で「テストトーン」を選び、決定ボタンを押す

8 ▲/▼で「切」を選び、決定ボタンを押す

テストトーンが消えます。

最初の設定に戻す

戻したい項目を選んで、クリアボタンを押す。

すべてのスピーカーの音量を一度に変える

VOLUME ＋/－で調整します。

ご注意

スピーカーを調節しているときは、音が一瞬途切れます。

ちょっと一言

テストトーンを聞かずに、バランス調整やレベル調整するには、手順3で「バランス調整」または「レベル調整」を選んで決定ボタンを押し、▲/▼で調節して決定ボタンを押してください。

・ レベル調整

各スピーカーのレベルは次のように調節します。下線の数値は、お買い上げ時の設定値です。

センター 0dB	－6dB～＋6dBの範囲で、1dB刻みでセンタースピーカーのレベルを調節します。
サラウンドL 0dB	－6dB～＋6dBの範囲で、1dB刻みでサラウンド左スピーカーのレベルを調節します。
サラウンドR 0dB	－6dB～＋6dBの範囲で、1dB刻みでサラウンド右スピーカーのレベルを調節します。
サブウーファー 0dB	－6dB～＋6dBの範囲で、1dB刻みでサブウーファーのレベルを調節します。

・ バランス調整

各スピーカーのバランスは次のように調節します。下線の項目は、お買い上げ時の設定です。

フロント センター	フロントスピーカーの左と右のバランスを調節します。（フロントスピーカーの中心から左右6段階に調節できます。）

・ テストトーン

バランス調整やレベル調整をするために、各スピーカーから順番にテストトーンを聞くことができます。下線の項目は、お買い上げ時の設定です。

切	テストトーンは出ない。
入	各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。レベルまたはバランスを調節している間は、調節しているスピーカーからテストトーンが聞こえます。

ディスクごとに表示/選択できる項目と機能一覧

DVD画面表示ボタンを押すと、本機に接続されたテレビに以下のコントロール画面項目が表示されます。

表示項目	機能
ディスク	ディスク名を表示します。再生するディスクを選びます。
タイトル（DVDのみ）/**シーン**（PBC再生時のビデオCDのみ）/**トラック**（ビデオCDのみ）	再生するタイトル（DVD）やシーン（PBC再生時のビデオCD）、トラック（ビデオCD）を選びます。
チャプター（DVDのみ）/**インデックス**（ビデオCDのみ）	再生するチャプター（DVD）やインデックス（ビデオCD）を選びます。
アルバム（MP3のみ）	再生するアルバム（MP3）を選びます。
トラック（CD/スーパーオーディオCD/MP3のみ）	再生するトラック（スーパーオーディオCD/CD/MP3）を選びます。
インデックス（CD/スーパーオーディオCDのみ）	再生するインデックス（スーパーオーディオCD）を選びます（CDは表示のみ）。
時間	経過時間および残り時間を調べます。タイムコードを入力して映像や曲を探します。
音声（JPEG以外）	複数の言語（マルチランゲージ）で音声が記録されているディスクでは、再生中に好きな言語の音声に切り換えます。
字幕（DVDのみ）	字幕を表示します。字幕の言語を切り換えます。
アルバム（JPEGのみ）	再生するアルバム（JPEG）を選びます。
ファイル（JPEGのみ）	再生するファイル（JPEG）を選びます。
日付（JPEGのみ）	JPEG画像の撮影日を表示します。
アングル（DVDのみ）	好きなアングルに切り換えます。
プレイモード（DVD以外）	本機に入っているディスクの再生モード（ノーマル/シャッフル/プログラム）を切り換えます。
リピート	ディスク全体（全タイトル/全トラック）や1つのタイトル/チャプター /アルバム/トラックだけ、またはプログラム設定したトラックだけをくり返し再生します。
カスタム視聴制限	ディスクに、本機での再生を禁止する設定をします。

本機に設定できる項目一覧

DVD設定ボタンを押すと、本機に接続されたテレビに以下の設定画面項目が表示されます。
下線の項目は、お買い上げ時の設定です。

言語設定（34ページ）

画面表示言語	日本語 ENGLISH
DVDメニュー言語	日本語 英語 中国語 ドイツ語 フランス語 イタリア語 スペイン語 ポルトガル語 オランダ語 デンマーク語 スウェーデン語 フィンランド語 ノルウェー語 ロシア語 その他→
音声言語	DVDメニュー言語と同じ
字幕言語	DVDメニュー言語と同じ

画面設定（37ページ）

TVタイプ	16:9 4:3レターボックス 4:3パンスキャン
スクリーンセーバー	入 切
背景画面	ジャケットピクチャー グラフィックス 青 黒
コンポーネント出力	インターレース プログレッシブ

視聴設定（34、40ページ）

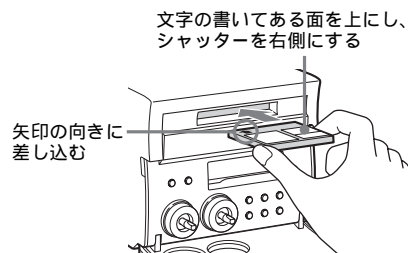
視聴年齢制限→	レベル	切 8： 7：NC17 6：R 5： 4：PG13 3：PG 2： 1：G
	使用する地域	アメリカ その他→
	暗証番号変更→	
音声トラック自動選定モード	切 入	
MPEG2 AAC 2ヶ国語	主音声 副音声 主/副 主＋副	
オーディオDRC	切 スタンダード 最大	
データCD優先モード	MP3 JPEG	
JPEG日付	月/日/年 年/月/日 日/月/年 年/日/月	

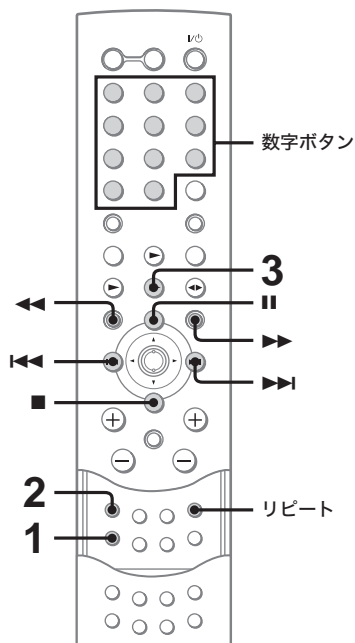
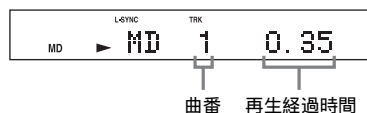
次のページへつづく

スピーカー設定（44ページ）

大きさ	フロント	あり
	センター	あり
	サラウンド	後（低） 後（高） 横（低） 横（高）
	サブウーファー	あり
距離	フロント	1m〜7m
	センター	1m〜7m
	サラウンド	1m〜7m
レベル調整	センター	−6dB〜＋6dB
	サラウンドL	−6dB〜＋6dB
	サラウンドR	−6dB〜＋6dB
	サブウーファー	−6dB〜＋6dB
バランス調整	フロント	左右6段階ずつ
テストトーン	切 入	

MDを入れる

MDを入れる

MDを聞く

（ノーマル/シャッフル/リピート）

MDを入れたときの表示例

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

次のページへつづく

2 停止中に再生モードボタンをくり返し押して、好きな再生モードを選ぶ

こんなときは	表示（再生モード）
MD通りの曲順で再生する	表示なし（ノーマル）
曲順を本機が自動的に選んで再生する	SHUF（シャッフル）
好きな順に再生する	PGM（プログラム）「好きな曲順で聞く」（53ページ）をご覧ください。

3 MD►を押す

ご注意
再生中に再生モードボタンを押しても、再生モードは変えられません。

ちょっと一言
他の音源（ラジオなど）を聞いていても、MDが中に入っているときにMD►を押すと、ファンクションがMDに切り換わって再生が始まります（オートファンクション）。

その他の操作

こんなときは	操作
再生を止める	■を押す。
一時停止する	❚❚を押す。もう一度押すと、再生を再開します。
曲を頭出しする	⏮ または⏭をくり返し押す。
曲中の聞きたい部分を探す*	再生中に◀◀または▶▶を押し続け、聞きたいところで指を離す。
MDを取り出す	MDデッキの⏏MDを押す。

* MDデッキで操作するときは、MDスティックを⏮ または⏭方向に長押しします。

数字ボタンを使って曲番を選ぶ

再生モードがノーマルのときは、曲番の数字を押すと自動的に再生が始まります。
10以降の曲番を選ぶには、>10を押してから、表示窓で点滅している「–」の数だけ数字ボタンを押します。0を選ぶときは10/0を押します。
例：「––」が点滅しているときに6を選ぶときは、10/0、6を押す。
例：「––」が点滅しているときに20を選ぶときは、2、10/0を押す。

MDをくり返し聞く（リピート）

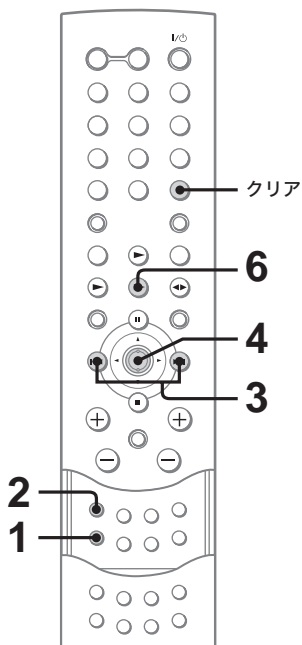
再生中にリピートボタンをくり返し押して「REP」または「REP1」を表示させる

REP： 再生中のMDを全曲くり返します（5回まで）。
REP1：再生中の1曲だけをくり返します。

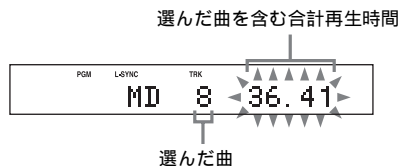
リピート再生をやめる
リピートボタンをくり返し押して、「REP」または「REP1」を消す。

好きな曲順で聞く

（プログラム）

最大25曲まで選んでプログラムできます。

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 停止中に再生モードボタンをくり返し押して、「PGM」を表示させる

3 ⏮または⏭をくり返し押して、プログラムしたい曲を選ぶ

4 決定ボタンを押す

選んだ曲がプログラムされます。
何曲目にプログラムされたか（Step数）が表示された後、最後にプログラムした曲番とプログラムした曲の合計再生時間が表示されます。

5 続けてプログラムするときは、手順3、4をくり返す

6 MD►を押す

プログラムした順に再生が始まります。

MD — 再生

次のページへつづく

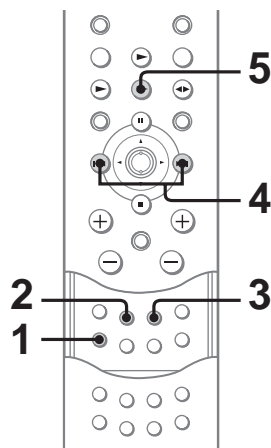
その他の操作

こんなときは	操作
ノーマル再生に戻す（ノーマル）	停止中に再生モードボタンをくり返し押して、「PGM」や「SHUF」を消す。
プログラムした曲順を確認する	プログラム再生中に⏮または⏭を押す。
プログラムした曲の総数を調べる	停止中にMDデッキのDISPLAYを押す。プログラムした曲の合計数（Step数）が表示されます。
プログラムの最後に曲を追加する	停止中に手順3、4を行う。
プログラムを消す	停止中、または手順4の後でクリアボタンを押す。押すたびに最後にプログラムした曲が消えます。

ちょっと一言

- プログラム再生が終わっても、プログラムは残っています。MD►を押すと、同じプログラムを聞けます。ただし、MDを取り出す、またはMDグループボタンを押すとプログラムは消えます。
- MDの合計再生時間が1,000分を超えたときは、「−−−.−−」と表示されます。

グループ内の曲を聞く

グループに登録したお気に入りの曲だけを聞くことができます。
グループ機能について詳しくは、「グループ機能について」（70ページ）をご覧ください。

1 **FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える**

2 **停止中にMDグループボタンをくり返し押して、「GROUP ON」を表示させる**

3 **グループスキップボタンをくり返し押して、聞きたい曲があるグループを選ぶ**

4 グループ内の途中の曲から聞きたいときは、I◀◀ または ▶▶Iをくり返し押して、曲を選ぶ

グループ内の1曲目から再生を始めるときは、手順5に進んでください。

5 MD▶を押す

再生が始まります。グループ内の最後の曲の再生が終わると、自動的に停止します。

ご注意

曲を登録していないグループを選んでMD▶を押すと、MD内の最初のグループの1曲目から再生が始まります。

ちょっと一言

グループ内の曲に限って、再生モード（ノーマル/シャッフル/リピート/プログラム）を選ぶことができます。手順3の前で再生モードを選んでください。

録音の前にお読みください

MD（ミニディスク）は、音質劣化の少ない「デジタル方式」で録音、再生を行います。また、CDにあるような曲番を付けることで、すばやい曲の頭出しや、録音した曲の編集ができます。
本機では音源によって、次のように録音を行い、曲番を付けます。

本機に入れたCDから録音するとき

- デジタル録音をします*1。
  （ただし、マニュアル録音時はアナログ録音になります。）
- デジタル録音時は、曲番は自動的にCDと同じように付きます。ただし、曲によっては付かないことがあります（143ページ）。

本機に入れたDVDやビデオCD、スーパーオーディオCD、MP3から録音するとき

- アナログ録音をします。ただし、ハイブリッドディスクのスーパーオーディオCDのCDレイヤーは、CDと同様にデジタル録音をします。また、マルチチャンネル音声のスーパーオーディオCDの場合、フロントL/Rスピーカーからの音声のみ録音します。
- 曲番は録音開始点にしか付きませんが、レベルシンクロ録音（64ページ）で「T.Mark LSync」にすると、録音レベルを検出して自動的に付きます。

VIDEO/SAT DIGITAL IN OPTICAL入力端子につないだ別売りのデジタル機器（BSデジタル/デジタルCSチューナーなど）から録音するとき

- デジタル録音をします*2。
- 曲番の付きかたは録音する音源によって異なります。

次のページへつづく

本機のラジオやテープ、VIDEO/SAT IN入力端子につないだ別売りの機器から録音するとき

- アナログ録音をします。
- 曲番は録音開始点にしか付きませんが、「T.Mark LSync」（64ページ）にすると、録音レベルを検出して自動的に付きます。

パソコンから録音するとき

Net MD機能を使ってMDへチェックアウト（転送）してください。詳しくは、付属のCD-ROM内のPDFファイル「Net MD対応SonicStage取扱説明書」をご覧ください。

録音済みのMDに録音するときは

録音済みの曲に上書きしながら録音することはできません。
録音済みの曲の後から録音されます。
録音済みの曲を消したいときはMD編集のERASE機能（77ページ）を使います。

MDの曲番について（TOC）

MDでは、曲番（曲順）や曲の開始/終了点などの情報を「TOC*3」と呼ばれる領域で、音楽とは別に管理しています。「TOC」の情報を書き換えるだけで曲の編集がすばやくできます。

CDの読みとりエラーについて

- 次のようなCDを使うと、読み取りエラーが起こり、ノイズなどが混入して正しく録音されない場合があります。
  ーシールなどが貼られている
  ー円形以外の形をしている（ハート形など）
  ーラベルの印刷が一方向にかたよっている
  ー傷がついている
  ー汚れている
  ー反っている
- 本機の状態が次のようなときも、読み取りエラーが起こって正しく録音されない場合があります。
  ー本機を叩いた
  ー水平でないところや、柔らかいものの上に設置している
  ースピーカーやドアなど、振動源の近くに設置している
- 上記の読み取りエラーが起こったときに、無音の曲が余分に作られることがあります。余分に作られた曲は、MD編集のERASE機能（77ページ）を使って消すことができます。

*1デジタル録音には制約があります（143ページ）。
また、DVDレシーバーとMDデッキをデジタル接続ケーブルでつないでいない場合は、アナログ録音になります。
また、マニュアル録音（61ページ）の場合にもアナログ録音になります。
*2デジタル録音には制約があります（143ページ）。
AACなど、PCM以外でエンコードされた音声はデジタル録音できません。別売りのデジタル機器をPCM出力に設定してください。また、DVDレシーバーとMDデッキをデジタル接続ケーブルでつないでいない場合は、アナログ録音になります。
*3Table（テーブル） of（オブ） Contents（コンテンツ）の略（目次の意味）。

録音をした後は

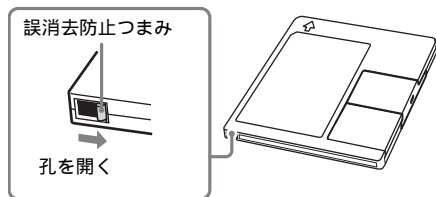
MDデッキの⏏MDを押してMDを取り出す、またはI/⏻（電源）を押して電源を切る

「TOC」が点滅し始め、録音の情報がMDへ書き込まれ、録音が完了します。

電源コンセントを抜く前に

MDへの録音は録音情報をTOCへ書き込んで完了となります。TOCへの書き込みは、MDを取り出すか電源を切ると行われます。TOC書き込み前、書き込み中（「TOC」が点灯または点滅）は電源プラグをコンセントから抜かないでください。録音情報が正しく記録されません。

MDの録音内容を消したくないときは

- 誤消去防止つまみをずらして孔を開きます。再び録音するときは、つまみを元の位置に戻します。

- MDが誤消去防止状態になっていると、「C11」と「Protected」が交互に表示され、録音できません。誤消去防止つまみを元の位置に戻して、孔をふさいでください。

録音時の制約について

長時間録音（MDLP録音）について

1枚のMDに録音できる長さを、2倍長（LP2）または4倍長（LP4）にして録音することができます（MDLP録音）。MDデッキのREC MODEを押して録音モードを切り換えます。各録音のページで設定します（58、61、63ページ）。
MDLP録音した曲は、下記のマークが印刷された機器でのみ再生できます。
非対応機器では再生できません。

MDLP　MDLP

ご注意

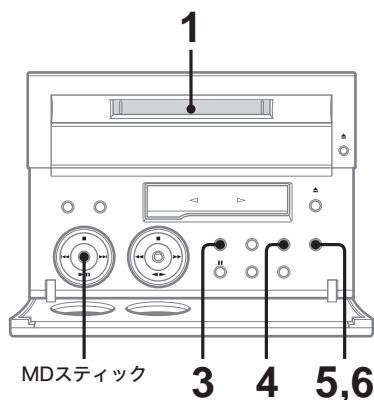
- 録音モードを「MONO」にしても、スピーカーからは音源のままの音声（ステレオ信号録音時はステレオ音声）が聞こえます。
- MDLP録音したMDをMDLP非対応機器で再生しようとしたときに、「LP:」と表示して再生できないことがわかるように編集されたMDがあります。それらのMDを再生すると、本機はMDLPに対応しているため、「LP:」は表示されません。
- MDLP非対応機器で再生する場合、SonicStageのチェックアウト時に転送モードを「ステレオ転送」にしてください。LP2/LP4で転送した場合、MDLP非対応機器では再生できません。

ちょっと一言

- LP4ステレオ録音は、特殊な圧縮方式によって長時間録音を実現しています。音質を重視するときは、ステレオ録音またはLP2ステレオ録音をおすすめします。
- 1枚のMDに各録音モードを混在させて録音することもできます。
- 選んだ録音モードは録音が終了しても保持されます。変更する場合は、MDデッキのREC MODEをくり返し押して録音モードを切り換えてください。

ディスクを録音する

（CD-MDシンクロ録音）

1枚のCDをそのままMDにデジタル録音できます。また、録音モードを切り換えて、MDに録音できる長さを選ぶこともできます。

1 録音用のMDを入れる

2 CDを入れる

3 REC MODEをくり返し押して、録音モードを選ぶ

録音モードを切り換えて録音できる長さを選ぶことができます。

こんなときは	表示（録音モード）
標準の長さで録音する	表示なし（ステレオ録音）
標準の2倍の長さで録音する	LP2（LP2ステレオ録音）
標準の4倍の長さで録音する	LP4（LP4ステレオ録音）
ステレオ信号をモノラルに変換して録音する（標準の2倍の長さで録音します）	MONO（モノラル録音）

4 MODEをくり返し押して、「CD→MD SYNC」を表示させる

5 ENTER/STARTを押す

「Press START」が点滅します。MDが録音一時停止に、CDは再生一時停止になります。

6 「Press START」が点滅しているのを確認してからENTER/STARTを押す

録音が始まります。
録音が終わると、CD、MDとも自動的に停止します。

録音を止める

MDスティックで■を選ぶ。

グループ機能を使って録音するには

手順2の後、リモコンのMDグループボタンをくり返し押して「GROUP ON」を表示させ、手順3へ進みます。手順5の後、リモコンのグループスキップボタンをくり返し押して「New Group」(新しいグループ)、または録音したいグループを選び、手順6へ進みます。

CDの好きな曲だけを録音するには

CDのプログラム再生機能を使って、好きな曲を選んでから録音することもできます。手順2と3のあいだで、「好きな順に再生する」(26ページ)の手順1〜5の操作を行います。

ご注意

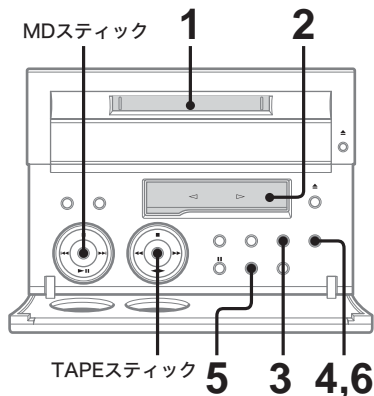
- DVDでは、この録音はできません。マニュアル録音(61ページ)の手順にしたがって録音してください。
- ビデオCD、スーパーオーディオCD(CDレイヤーを除く)、MP3の場合は、アナログ録音になります。
  また、レベルシンクロ録音(64ページ)で「T.Mark LSync」にした場合、実際の曲数よりも多く曲番が付くことがあります。
- 録音を一時停止することはできません。
- 再生モードがリピートやシャッフルになっているときは、手順5で自動的にノーマル再生に切り換わります。
- ビデオCDの場合、PBC再生は自動的に解除されます。
- CDまたはスーパーオーディオCDのCDレイヤーをシンクロ録音中は、以下の機能が働きません。
  ー トラックマーク機能
  ー オートカット機能
- 「Setup Menu」で設定した録音レベルの設定値にかかわらず、録音レベルは0.0dBで録音されます。

ちょっと一言

LP2/LP4ステレオ録音について、詳しくは「長時間録音(MDLP録音)について」(57ページ)をご覧ください。

テープを録音する

(TAPE-MDシンクロ録音)

テープをそのままMDにアナログ録音できます。TYPE I(ノーマル)のテープが使えます。

1 録音用のMDを入れる

2 テープを入れる

3 MODEをくり返し押して、「TAPE→MD SYNC」を表示させる

MD — 録音

次のページへつづく

4 ENTER/STARTを押す

「Press START」が点滅します。
MDが録音一時停止に、テープは再生一時停止になります。

テープの再生面*

* 両面またはおもて面を再生するときは►、うら面を再生するときは◄が表示されます。表示と逆の面から再生したいときは、TAPEスティックで■を選びテープの面を逆に入れ直し、手順3からやり直してください。

5 DIRECTIONをくり返し押して、片面再生（⇄）か両面再生（⥂または⥂）を選ぶ

6 「Press START」が点滅しているのを確認してからENTER/STARTを押す

録音が始まります。
録音が終わると、テープ、MDとも自動的に停止します。

録音を止める

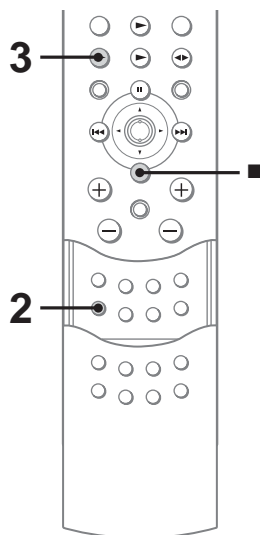
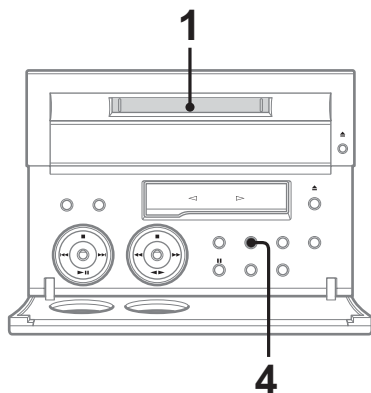
MDスティックで■を選ぶ。

グループ機能を使って録音するには

手順2の後、リモコンのMDグループボタンをくり返し押して「GROUP ON」を表示させ、手順3へ進みます。手順5の後、リモコンのグループスキップボタンをくり返し押して「New Group」（新しいグループ）、または録音したいグループを選び、手順6へ進みます。

演奏中の曲を録音する

（レックイット）

ディスクの音を聞きながら、気に入った曲をその場でMDに録音できます。

1 録音用のMDを入れる

2 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをDVDに切り換える

3 SA-CD/DVD►を押す

ディスクの再生が始まります。

4 録音したい曲を聞きながらREC/REC ITを押す

その曲の頭に戻り、録音が始まります。録音中の曲が終了すると、MDは自動的に停止します。

録音を止める

■を押す。

各ディスクからのレックイットについて

- DVD/ビデオCD/MP3：アナログ録音になります。
  アナログ録音では、ディスクや曲の状態によっては余分な曲が作られることがあります。DVDの場合では、ディスクによってレックイットができなかったり、曲単位の録音にならない場合があります。
- スーパーオーディオCD：CDレイヤーは、CDと同様にレックイット（デジタル録音）ができます。CDレイヤー以外はアナログ録音になります。
  アナログ録音では、ディスクや曲の状態によっては余分な曲が作られることがあります。

ご注意

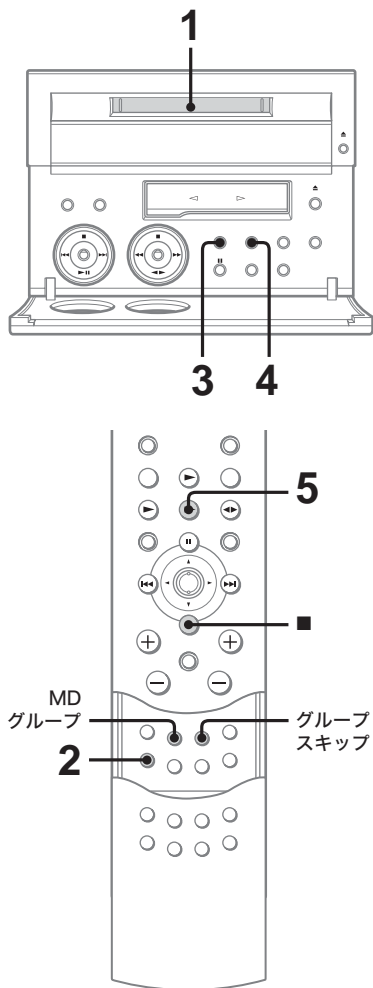
- CDまたはスーパーオーディオCDのCDレイヤーをレックイット中は、以下の機能が働きません。
  ー トラックマーク機能
  ー オートカット機能
- 「Setup Menu」で設定した録音レベルの設定値にかかわらず、録音レベルは0.0dBで録音されます。

好きなところから録音する

（マニュアル録音）

DVDやCD、テープ、ラジオ、またはつないでいる別売り機器の好きなところから録音することができます。

MD ― 録音

次のページへつづく

1 録音用のMDを入れる

2 FUNCTIONをくり返し押して、録音したい音源を表示させる

- DVD：本機のディスクの音を録音する
- TAPE：本機のテープの音を録音する
- TUNER：本機のラジオの音を録音する
- VIDEO（SAT）：別売り機器の音をデジタルまたはアナログ録音する

3 REC MODEをくり返し押して、録音モードを選ぶ

録音モードを切り換えて録音できる長さを選ぶことができます。

こんなときは	表示（録音モード）
標準の長さで録音する	表示なし（ステレオ録音）
標準の2倍の長さで録音する	LP2（LP2ステレオ録音）
標準の4倍の長さで録音する	LP4（LP4ステレオ録音）
ステレオ信号をモノラルに変換して録音する（標準の2倍の長さで録音します）	MONO（モノラル録音）

4 REC/REC ITを押す

MDが録音一時停止になります。

5 MD►を押してから、録音したい音源の再生を始める

録音を止める

■を押す。

グループ機能を使って録音するには

手順2の後、リモコンのMDグループボタンをくり返し押して「GROUP ON」を表示させ、手順3へ進みます。手順4の後、リモコンのグループスキップボタンをくり返し押して「New Group」（新しいグループ）、または録音したいグループを選び、手順5へ進みます。

ご注意

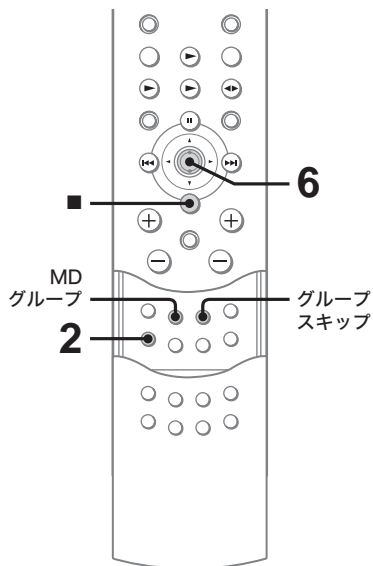
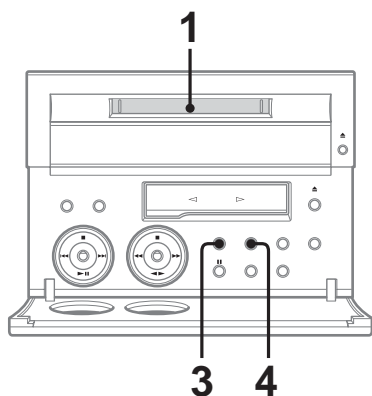
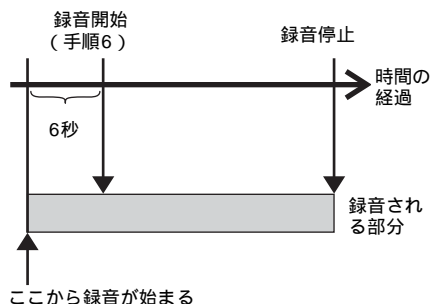
CDからの録音もアナログ録音になります。

ちょっと一言

- 本機のディスクを曲の途中からマニュアル録音したいときは、手順4の前に録音を開始したいところで❚❚を押してディスクの再生を一時停止し、手順5でもう一度SA-CD/DVD►を押して再生を始めます。
- 録音中にMDデッキのDISPLAYを押すと、MDの残り時間を見ることができます。
- AM放送を録音中に「ピー」や「ザーザー」という雑音が出るときは、付属のAMアンテナを雑音の消える位置に動かしてください。
- LP2/LP4ステレオ録音について、詳しくは「長時間録音（MDLP録音）について」（57ページ）をご覧ください。
- 録音される音の大きさをお好みで調節できます（67ページ）。

6秒前の音から録音する

（タイムマシン録音）

入力されている音を本機のメモリーに蓄えておくことにより、録音開始の6秒前の音から録音することができます。衛星放送やFM放送などのエアチェックで、録音を始めるタイミングが遅れて頭の部分を録音し損なうのを防ぐのに便利です。

1 録音用のMDを入れる

2 FUNCTIONをくり返し押して、録音したい音源を表示させる

3 REC MODEをくり返し押して、録音モードを選ぶ

録音モードを切り換えて録音できる長さを選ぶことができます。

こんなときは	表示（録音モード）
標準の長さで録音する	表示なし （ステレオ録音）
標準の2倍の長さで録音する	LP2 （LP2ステレオ録音）
標準の4倍の長さで録音する	LP4 （LP4ステレオ録音）
ステレオ信号をモノラルに変換して録音する （標準の2倍の長さで録音します）	MONO （モノラル録音）

次のページへつづく

4　REC/REC ITを押す

MDが録音一時停止になります。

5　録音したい音源の再生を始める

6　録音を始めたいところで、決定ボタンを押す

この手順を行う6秒前にさかのぼって録音を始めます。

タイムマシン録音を止める

■を押す。

グループ機能を使って録音するには

手順2の後、リモコンのMDグループボタンをくり返し押して「GROUP ON」を表示させ、手順3へ進みます。手順4の後、リモコンのグループスキップボタンをくり返し押して「New Group」（新しいグループ）、または録音したいグループを選び、手順5へ進みます。

ご注意

- 本機に入れたDVDやCDなどのディスクをタイムマシン録音することはできません。
- 本機は、手順4で録音一時停止の状態になった時点から、入力されている音をメモリーに蓄え始めます。録音一時停止状態になってから6秒以上経過した後で録音を始めないと、6秒前の音から録音できません。

ちょっと一言

LP2/LP4ステレオ録音について、詳しくは「長時間録音（MDLP録音）について」（57ページ）をご覧ください。

頭出しマーク（曲番）を付ける

録音後に付ける

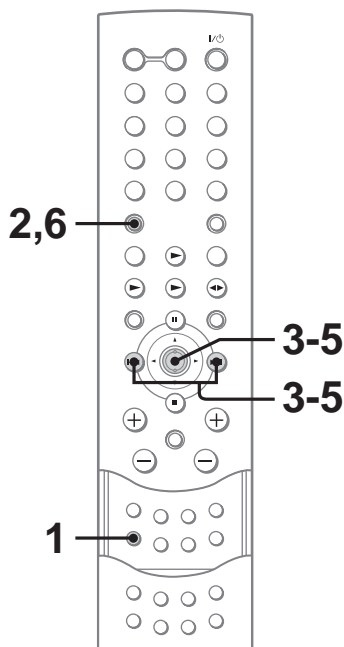
MDのDIVIDE機能（82ページ）を使います。

録音中に好きなところに付ける（トラックマーク）

マニュアル録音中、好きなところに曲番を付けられます。

マニュアル録音中に、曲番を付けたいところでMDデッキのREC/REC ITを押す

録音前に自動で付くように設定する（レベルシンクロ録音）

お買い上げ時はレベルシンクロ録音機能が働くよう設定されていますので、自動的に曲番が付きます。音源からの入力信号が約2秒以上続けて一定レベル以下になり、再び、そのレベルを越えたときに付きます。録音時、表示窓に「L-SYNC」と表示されていないときは、以下の手順でレベルシンクロ録音機能が働くよう設定してください。

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 MENU/NOを押す

3 ⏮またはⅠ⏭をくり返し押して「Setup?」を表示させ、決定ボタンを押す

4 ⏮または⏭をくり返し押して「T.Mark Off（またはT.Mark LSync）」を表示させ、決定ボタンを押す

5 ⏮または⏭をくり返し押して「T.Mark LSync」を表示させ、決定ボタンを押す

「L-SYNC」が点灯します。

6 MENU/NOを押す

続けて録音するときは、それぞれの録音のページにある手順にしたがって操作します。

その他の操作

こんなときは	操作
自動的に曲番を付けるのをやめる	手順5で「T.Mark Off」を表示させ、決定ボタンを押す。
入力信号の検出レベルを変更する*	手順1～3の後、⏮または⏭をくり返し押して「LS(T)」を表示させ、決定ボタンを押す。⏮または⏭をくり返し押して入力信号レベルを－72dBから0dB（2dB単位）の範囲で選び、決定ボタンを押し、MENU/NOを押す。

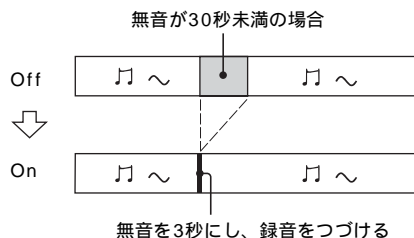
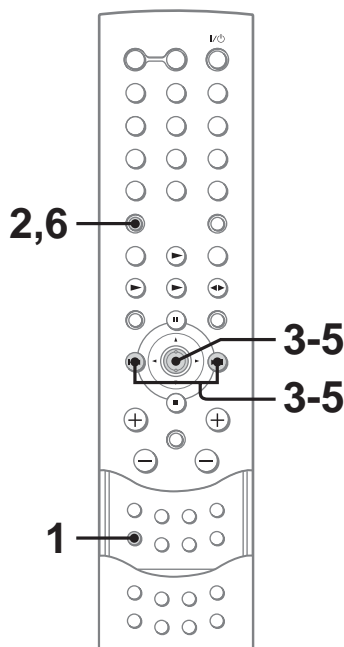
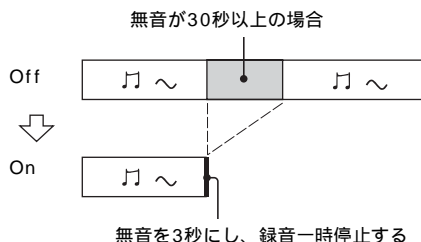
* テープやラジオなど、雑音が多く曲番が付きにくいときは設定レベルを上げると曲番が付きやすくなります。お買い上げ時は－50dBに設定されています。

ご注意

- 曲によっては付かないことがあります。
- テープやラジオなどの音源で雑音が多いときは自動では付かないことがあります。
- CDから録音するときに録音を一時停止すると、そこに曲番が付きます。また、同じCDの同じ曲を続けて録音すると、曲番が1つしか付かないことがあります。

自動的に曲間をそろえる

（スマートスペース）

CDのデジタル録音時は、自動的に曲間がそろいます。その他の録音をしているときは、スマートスペースをOnに設定すると、録音中に約3秒以上（約30秒未満）の無音状態が続いたときに、無音部分を約3秒に短縮して録音します。
お買い上げ時は「On」に設定されています。

オートカット：スマートスペースをOnに設定すると、約30秒以上の無音が続いたとき、無音部分が約3秒に短縮され、録音一時停止状態になります。

1 **FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える**

2 **MENU/NOを押す**

3 **⏮または⏭をくり返し押して「Setup?」を表示させ、決定ボタンを押す**

4 **⏮または⏭をくり返し押して「S.Space Off（またはS.Space On)」を表示させ、決定ボタンを押す**

5 **⏮または⏭をくり返し押して「S.Space On」を表示させ、決定ボタンを押す**

6 MENU/NOを押す

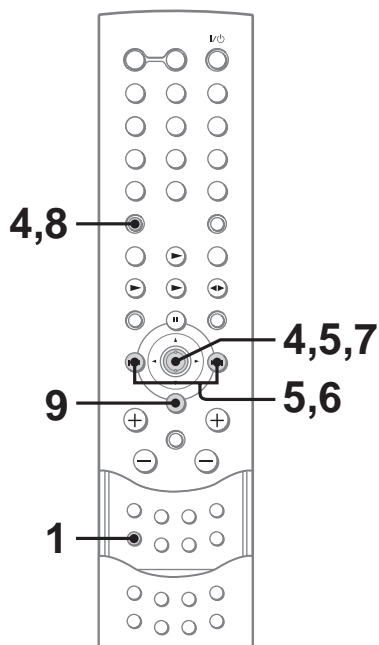
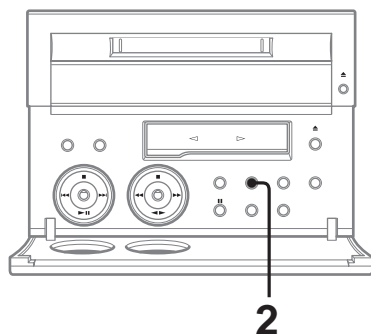
続けて録音するときは、それぞれの録音のページにある手順にしたがって操作します。

自動的に曲間をそろえるのをやめる

手順5で「S.Space Off」を表示させ、決定ボタンを押す。

録音レベルを調節する

MDに録音するときに、お好みで録音される音の大きさが調節できます。

次のページへつづく

1 FUNCTIONをくり返し押して、録音したい音源を表示させる

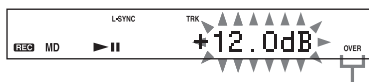
2 REC/REC ITを押して録音一時停止にする

3 録音したい音源の再生を始める

4 MENU/NOを押して「Setup?」を表示させ、決定ボタンを押す

5 ⏮または⏭をくり返し押して「LevelAdjust?」を表示させ、決定ボタンを押す

6 ⏮または⏭を押して、録音される音の大きさを調節する

一番大きい音のとき、表示窓に「OVER」が点灯しないようにします。

「OVER」が点灯しないように調節する

7 決定ボタンを押す

8 MENU/NOを押す

9 ■を押して、MDを停止させる

続けて録音するときは、それぞれの録音のページにある手順にしたがって操作します。

ちょっと一言

- 録音中にも、録音レベルを調節できます。
- 調節した録音レベルは次に調節するまで保持されます。
- シンクロ録音時は、この機能は働きません。

編集の前にお読みください

編集を始める前に

MDの編集をするには、下記が必要です。
- MDが書き込み可能な状態になっている。
- MDの再生モードがノーマル再生になっている。

編集を始める前に、必ず次の手順で上記を確認してください。

1　MDが誤消去防止状態になっていないか確認する

誤消去防止状態になっているときは、つまみを動かして孔をふさぎます。
MDが誤消去防止状態になっているときは、編集はできません。

2　再生モードボタンをくり返し押し、「SHUF」または「PGM」を消して、ノーマル再生にする

編集はノーマル再生のときのみできます。シャッフルまたはプログラム再生中は、編集はできません。

編集をするときは

「Tr Protect」が表示されたときは

Net MD機器でチェックアウトした曲などは、曲が保護されているため、一部のMD編集機能は使用できません。

編集を途中でやめるには

MENU/NOを押す。

編集をした後は

MDデッキの⏏MDを押してMDを取り出す、またはI/⏻（電源）を押して電源を切る

「TOC」が点滅し始めます。編集の情報がMDへ書き込まれ、編集が完了します。

電源コンセントを抜く前に

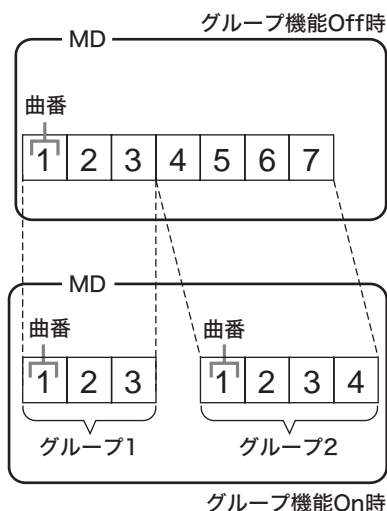
MDの編集は編集情報をTOCへ書き込んで完了となります。TOCへの書き込みは、MDを取り出すか電源を切ると行われます。TOC書き込み前、書き込み中（「TOC」が点滅）は電源プラグをコンセントから抜かないでください。編集情報が正しく記録されません。

ご注意

- MD-TAPEシンクロ録音中は編集できません。
- MDをテープにマニュアル録音中にMDの編集を行うと、編集中に生じた音（リハーサル音など）がそのまま録音されます。

グループ機能について

グループ機能とは?

1枚のMDの中の曲をグループに分けて再生、録音、編集できる機能です。例えば、MDの中の1曲目から5曲目を「Rock」というグループにし、6曲目から9曲目を「Pops」というグループにして好きなグループの曲だけ聞いたり、新しい曲をグループに追加したりすることができます。また、MDグループボタンでグループ機能のOn/Offができるので、この機能を使う、使わないを切り換えることもできます。

グループ機能を使ってグループに分けると、各グループの曲番は1から順に付け直されます。
上図の例では、グループ機能Off時の曲番4、5、6、7は、グループ機能On時にはグループ2の曲番1、2、3、4となります。

グループ機能を使った操作

- グループ内の曲を聞く（54ページ）
- ディスクを録音する（58ページ）
- テープを録音する（59ページ）
- 好きなところから録音する（61ページ）
- ６秒前の音から録音する（63ページ）
- グループに名前を付ける（71ページ）
- 新しいグループを作る（74ページ）
- グループ登録を解除する（75ページ）

ご注意
本機のグループ機能を使って録音したMDは、他のグループ機能対応機器でもお使いいただけます。ただし、機器によってはグループ機能の動作が本機とは異なる場合があります。

グループ情報はどのように記録されているの?

グループ機能を使って録音すると、グループ管理情報は、「ディスク名」として自動的にMDに記録されます。具体的には以下のような文字列がディスク名の記録領域に書き込まれています。

ディスク名の記録領域

① ディスク名を「Favorites」にする。
② 1曲目から5曲目を「Rock」という名のグループに入れる。
③ 6曲目から9曲目を「Pops」という名のグループに入れる。

そのため、グループ機能を使って録音したMDを、グループ機能非対応機器や、グループ機能をOffにして本機で読み込むと、上の文字列がそのまま「ディスク名」として表示されます。

もしNAME機能を使ってこの文字列を誤って書き換えてしまうと、そのMDではグループ機能が使えなくなる場合*がありますのでご注意ください。

* この場合は「GROUP ON」が点滅します。再びグループ機能を使うには「すべてのグループを一度に解除する」（76ページ）を行って、すべてのグループ登録を解除して登録し直してください。

「Group Full!」と表示されるときは

グループ管理に必要な文字数が不足しているため、録音ができません。不要な文字（ディスク名または曲名）を消す（73ページ）と、グループに録音できるようになります。

ご注意

- グループ機能の設定は、MDを取り出したり、本機の電源を切ったりしても記憶されています。
- グループ機能がOnのときは、グループに登録されていない曲は表示、再生できません。
- グループの順番を変えることはできません。
- すでに曲が記録されている別のグループがある場合、新しいグループはその後ろに追加されます。
- 既存のグループに曲を追加するとグループ内の最後の曲の後に曲が追加されます。
- 1枚のMDの中には99グループまで登録できます。
- 既存のグループに曲を追加録音すると、グループ機能を解除したときに、追加録音した曲以降の曲番が変わることがあります。
- グループ管理情報が正しいフォーマットで記述されていないMDを挿入すると、「GROUP ON」が点滅します。この場合、グループ機能を使えません。

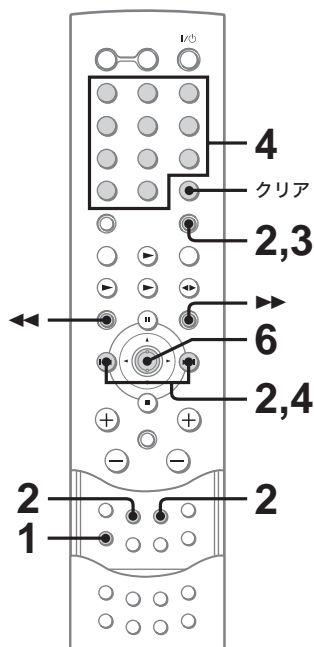
ディスク名や曲名、グループ名を付ける

（NAME）

CD-MDシンクロ録音（58ページ）をすると、CDのTEXT情報（曲名）が自動的に記録されます。
ただし、CDによってはTEXT情報が自動的に記録されないことがあります。また、レックイット（60ページ）を使うと、DVDやスーパーオーディオCDのTEXT情報も自動的に記録することができます。MP3のTEXT情報は、自動的に記録されません。この場合は、録音後に曲名を付けてください。
ディスク名や曲名を録音後に付けるには、MD編集のNAME機能（このページ）を使います。

録音後に付ける

1枚のMDに、ディスク名、曲名、グループ名を計約1,700文字、カナ文字のみで約800文字まで入力できます。
ただし、グループ機能を使って録音したMDにディスク名を付けるときは、グループ管理情報を誤って書き換えてしまわないように、グループ機能を働かせた状態（72ページ手順2）でディスク名を付けてください。
グループ管理情報について詳しくは、「グループ情報はどのように記録されているの?」（70ページ）をご覧ください。

次のページへつづく

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 付けたい名前（曲名/ディスク名/グループ名）によって、以下のように操作する

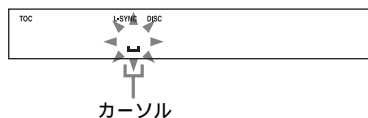
曲名を付けるには

I◀◀または▶▶Iをくり返し押して、名前を付けたい曲番を選び、NAME EDIT/SELECTを押す。

ディスク名を付けるには

総曲数（グループ機能が働いているときは、総グループ数）が表示されているときに、NAME EDIT/SELECTを押す。

グループ名を付けるには

MDグループボタンをくり返し押して「GROUP ON」を表示させてから、グループスキップボタンをくり返し押して名前を付けたいグループを選ぶ。グループの総曲数が表示されているときに、NAME EDIT/SELECTを押す。
文字入力画面になり、カーソルが点滅します。

3 NAME EDIT/SELECTをくり返し押して、文字の種類を選ぶ

文字の種類（表示順）	表示
アルファベット大文字/スペース/記号	Selected AB
アルファベット小文字/スペース/記号	Selected ab
カタカナ/カタカナ小文字*1/濁点・半濁点/一部の記号*2	Selected ア
数字	Selected 12

*1 カタカナ小文字はアイウエオヤユヨツのみ入力できます。
*2「– ，.」のみ入力できます。

4 入力したい文字に対応するアルファベット/数字/カタカナ入力ボタンを押す

文字の種類	操作
アルファベット/カタカナ	入力したい文字や行がある数字ボタン（または⏮/⏭）をくり返し押して希望の文字を表示させ、▶▶を押す。
数字	入力したい数字の数字ボタンを押す。
濁点（゛）/半濁点（゜）*/一部の記号	>10ボタンをくり返し押して、濁点・半濁点、一部の記号を選ぶ。
スペース（空き）	10/0ボタンを押す。
記号' –/,.()：！？	数字ボタン1をくり返し押して、記号を選ぶ。
記号＆＋＜＞＿＝"；＃＄%@＊`	数字ボタン1を押してから、⏮/⏭をくり返し押して記号を選ぶ。

* 濁点は「ウ」、「カ/サ/タ/ハ行」、半濁点は「ハ行」の文字の後にのみ入力できます。

5 手順3、4をくり返して、名前を付ける

6 決定ボタンを押す

編集を途中でやめる

MENU/NOを押す。

文字を消して変更する

手順3、4中に、◀◀または▶▶をくり返し押して変更したい文字を点滅させ、クリアボタンを押して文字を消してから手順3、4をくり返す。

文字を追加する

手順1、2の後、文字を追加したいところまで◀◀または▶▶をくり返し押してカーソルを動かし、手順3へ進む。

ご注意

ディスク名に、「abc//def」のように「//」を文字の間に入れると、グループ機能が使えなくなる場合がありますのでご注意ください。

ちょっと一言

曲名は再生中でも付けられます。名前を付け終わるまで再生がくり返されます。

付けた名前を確認する

ディスク名は停止中に、曲名は再生中にスクロールボタンを押すと、表示窓に名前が横に流れます（スクロール）。
グループ名を確認するときは、停止中にMDグループボタンをくり返し押して「GROUP ON」を表示させ、グループスキップボタンをくり返し押して、名前を確認したいグループを選び、スクロールボタンを押します。
スクロール中にスクロールボタンを押すと、流れている名前が止まります。もう一度押すと、再びスクロールします。

付けた名前を消す

次のページへつづく

1 グループ名を消すときは、停止中にMDグループボタンをくり返し押して「GROUP ON」を表示させる

2 停止中にMENU/NOを押す

3 ⏮またはⅠ⏭をくり返し押して「Nm Erase?」を表示させ、決定ボタンを押す

4 消したい名前によって以下のように操作する

ディスク名を消すときは
⏮または⏭をくり返し押して「Nm Ers Disc」を表示させ、決定ボタンを押す。

曲名を消すときは
⏮または⏭をくり返し押して名前を消したい曲の曲番を表示させ、決定ボタンを押す。

グループ名を消すときは
グループスキップボタンをくり返し押して、名前を消したいグループ番号を選び、決定ボタンを押す。
「Complete!」が数秒間表示されて、付けた名前が消えます。

編集を途中でやめる
MENU/NOを押す。

ご注意
曲が登録されていないグループの名前は消すことができません。

新しいグループを作る

(CREATE)

曲の入っていないグループを新しく作ったり、新しいグループを作って、録音済みの曲を登録したりすることができます。グループ登録されていない、連続した曲のみで登録できます。
グループ機能について詳しくは、「グループ機能について」(70ページ)をご覧ください。

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 MDグループボタンをくり返し押して、「GROUP ON」を表示させる

3 MENU/NOを押す

4 .◀◀ または▶▶.をくり返し押して、「Gp Create?」を表示させ、決定ボタンを押す

5 「ディスク名や曲名、グループ名を付ける」（71ページ）の手順3〜6を行う

6 .◀◀ または▶▶.をくり返し押して、「Assign None」を表示させ、決定ボタンを押す

編集を途中でやめる
MENU/NOを押す。

ご注意
曲の登録をしないでグループを作るときは、必ずグループ名が必要です。

グループに曲を登録する

手順6で.◀◀ または▶▶.をくり返し押して、登録したい最初の曲番を選び、決定ボタンを押す

1曲のみ登録するときは、もう一度決定ボタンを押します。
2曲以上を登録するときは、.◀◀ または▶▶.をくり返し押して、登録したい最後の曲番を選び、決定ボタンを押します。

ご注意
- 1つの曲を複数のグループに登録することはできません。
- 手順5でグループ名を入力しないと、グループ名は「Group＊＊（グループ番号）」と表示されます。

ちょっと一言
グループ機能のない機器で録音した曲でもグループ登録することができます。

グループ登録を解除する

（RELEASE）

登録を解除したいグループを指定するだけで、グループ登録を簡単に解除することができます。また、すべてのグループの登録を一度に解除することもできます。
グループ機能について詳しくは、「グループ機能について」（70ページ）をご覧ください。

1グループずつ解除する

指定したグループ登録を解除し、グループを消すことができます（曲そのものは消せません）。

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

MD — 編集

次のページへつづく

2 MDグループボタンをくり返し押して、「GROUP ON」を表示させる

3 グループスキップボタンをくり返し押して、登録を解除したいグループを選ぶ

4 MENU/NOを押す

5 ⏮または⏭をくり返し押して、「Gp Release?」を表示させ、決定ボタンを押す

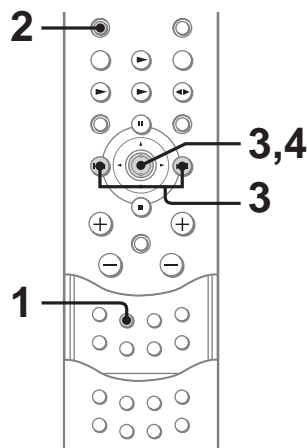
「REL Gp＊＊（グループ番号）??」が表示されます。

6 決定ボタンを押す

編集を途中でやめる

MENU/NOを押す。

すべてのグループを一度に解除する

MD内のすべてのグループ登録を一度に解除し、グループを消すことができます（曲そのものは消せません）。

1 停止中にMDグループボタンをくり返し押して、「GROUP ON」を表示させる

2 MENU/NOを押す

3 ⏮または⏭をくり返し押して、「Gp All REL?」を表示させ、決定ボタンを押す

「All REL??」が表示されます。

4 決定ボタンを押す

編集を途中でやめる

MENU/NOを押す。

曲を消す

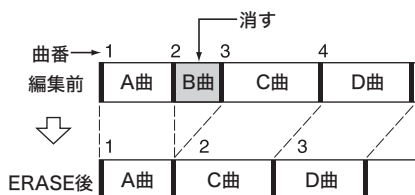
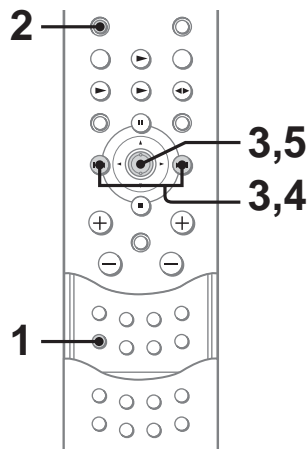
(ERASE)

「Erase」は「消す」という意味です。
消したい曲番を選ぶだけで、録音した曲を簡単に消せます。消したすぐ後ならUNDO機能（84ページ）を使って元に戻せますが、他の編集などをしてからでは元に戻せないので、よく確認してから消してください。
消すには、次の3種類の方法があります。
- 1曲を消す（Track Erase）
- 全曲を消す（All Erase）
- 曲の一部分を消す（A-B Erase）

ただし、SonicStage（114ページ）を使ってMDにチェックアウト（転送）した曲は保護されているため、本機では消すことができません。SonicStageを使ってチェックイン（転送元のパソコンに「戻す」こと）すると、曲を消すことができます。

1曲を消す（Track Erase）

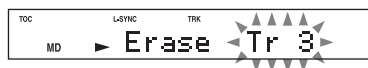
1曲消すと、曲番は順にくり上がります。例えば、曲番2を消すと、元の曲番3が2にくり上がります。

例）2曲目を消す

このように曲番がくり上がっていきますので、2曲以上消すときは、途中の曲番が変わらないように、後ろの曲から消すことをおすすめします。

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 MENU/NOを押す

3 ⏮または⏭をくり返し押して「Tr Erase?」を表示させ、決定ボタンを押す

表示されている曲の再生が始まります。

4 ⏮または⏭をくり返し押して、消したい曲の曲番を表示させる

5 決定ボタンを押す

「Complete!」が数秒間表示されて、手順4で選んだ曲が消え、次の曲の再生が始まります（最後の曲を消したときは、消した前の曲の再生が始まります）。

次のページへつづく

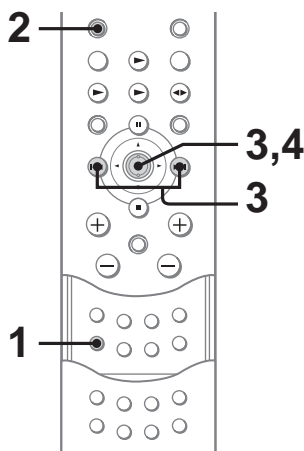
編集を途中でやめる

MENU/NOを押す。

ご注意

グループ内の全曲を消すと、グループ内のすべての曲と同時に、グループも消えます。

全曲を消す（All Erase）

一度に、MDの全曲と全曲名、ディスク名、グループ名（MDに記録しているすべての内容）を消せます。

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 MENU/NOを押す

3 ⏮または⏭をくり返し押して「All Erase?」を表示させ、決定ボタンを押す

「All Erase??」が表示されます。

4 決定ボタンを押す

編集を途中でやめる

MENU/NOを押す。

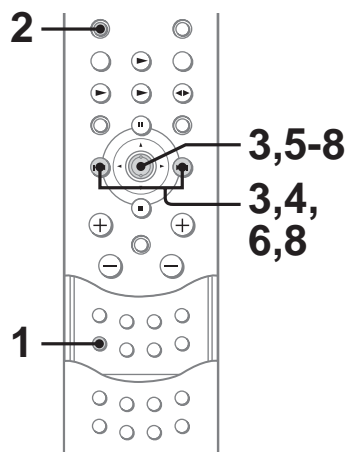
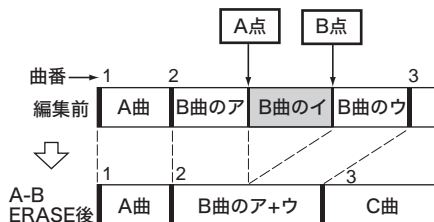
ご注意

グループ機能が働いているときに上の操作を行うと、グループ内の曲だけでなくMDのすべての曲が消えますのでご注意ください。

曲の一部分を消す（A-B Erase）

1曲中の消したい範囲を指定して、簡単にその部分を消すことができます。フレーム*、秒、分単位で消す位置をずらすことができます。衛星放送やFM放送などを録音したMDの不要な部分を消すのに便利です。

* 1フレームは1/86秒です。

例）B曲の一部を消すとき

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 MENU/NOを押す

3 ⏮または⏭をくり返し押して「A-B Erase?」を表示させ、決定ボタンを押す

再生が始まります。

4 ⏮または⏭をくり返し押して、一部を消したい曲番を選ぶ

5 音を聞きながら、消したい部分の始点（A点）で決定ボタンを押す

「━Rehearsal━」と「Point A ok?」が交互に表示され、A点までの数秒間をくり返し再生します。

6 A点を正しく再生していたら、決定ボタンを押す

「Point B set」が表示され、B点を設定するための再生が始まります。

A点を正しく再生していないときは

くり返し再生される音を聞きながら、⏮または⏭を押して、消したい部分の始点（A点）を調節し、決定ボタンを押す。

1/86秒（1f）*ずつ位置がずらせます。

* モノラルまたはLP2ステレオ録音した曲は2fずつ、LP4ステレオ録音した曲は4fずつ位置がずらせます。

7 再生を続けて、消したい部分の終点（B点）まできたら決定ボタンを押す

「A-B Ers」と「Point B ok?」が交互に表示され、A-B間を消したつなぎ目の部分（A点までの数秒間とB点からの数秒間）をくり返し再生します。

8 B点を正しく再生していたら、決定ボタンを押す

「Complete!」が数秒間表示されて、A点からB点の間が消え、曲の先頭から再生が始まります。

B点を正しく再生していないときは

くり返し再生される音を聞きながら、⏮または⏭を押して、消したい部分の終点（B点）を調節し、決定ボタンを押す。

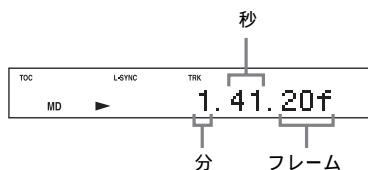
1/86秒（1f）*ずつ位置がずらせます。

* モノラルまたはLP2ステレオ録音した曲は2fずつ、LP4ステレオ録音した曲は4fずつ位置がずらせます。

編集を途中でやめる

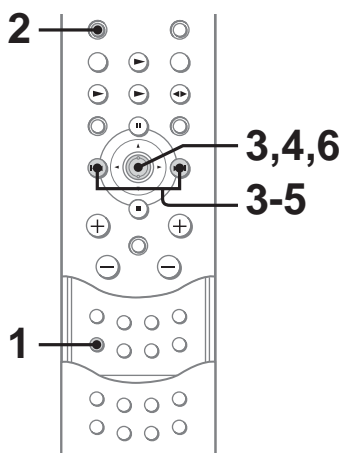
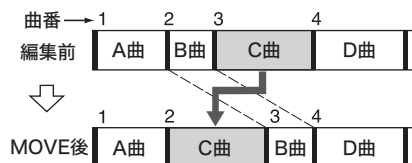
MENU/NOを押す。

ちょっと一言

手順6または手順8で、秒、分単位で調節するには、◀◀または▶▶をくり返し押して、分、秒、フレームのいずれかの位置を点滅させて、⏮または⏭を押します。

曲順を変える

（MOVE）

「Move」は、「動かす」という意味です。
曲を好きな位置に移動させて、曲順を変えられます。曲順を変えると、曲番も頭から順に付け直されます。

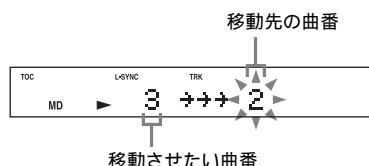
例）3曲目を2曲目に移動する

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 MENU/NOを押す

3 ⏮または⏭をくり返し押して「Move?」を表示させ、決定ボタンを押す

再生が始まります。

4 ⏮または⏭をくり返し押して移動したい曲番を表示させ、決定ボタンを押す

5 ⏮または⏭をくり返し押して移動先の曲番を表示させる

6 決定ボタンを押す

「Complete!」が数秒間表示され、移動した曲が再生されます。

編集を途中でやめる

MENU/NOを押す。

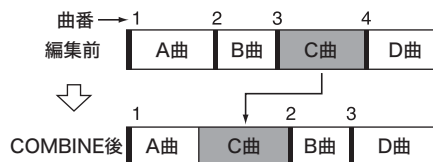
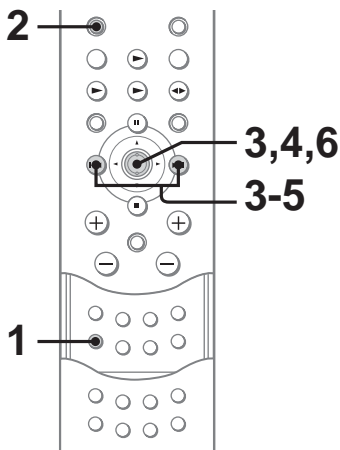
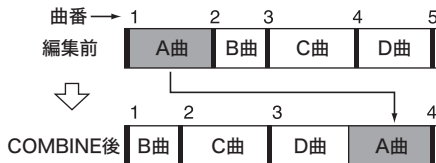
ご注意

移動先の曲番がグループに属する場合、移動先のグループに登録され直します。また、グループ登録された曲の移動先の曲番がグループ登録されていなかった場合、移動した曲のグループ登録は解除されます。ただし、グループ機能が働いているときは、グループ内でしか曲の移動はできません。

曲をつなぐ

（COMBINE）

「Combine」は、「つなぐ」という意味です。2曲をつないで1曲にします。曲番は、頭から順に付け直されます。

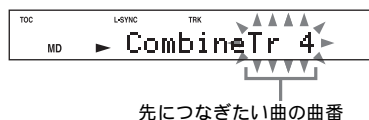
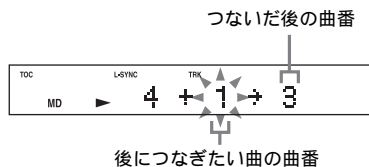
例）1曲目に3曲目をつなぐ

例）4曲目に1曲目をつなぐ

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 MENU/NOを押す

3 ⏮またはⅠ⏭をくり返し押して「Combine?」を表示させ、決定ボタンを押す

再生が始まります。

4 ⏮または⏭をくり返し押して先につなぎたい曲の曲番を表示させ、決定ボタンを押す

例）曲番4に1をつなぐときは、4を選びます。

5 ⏮または⏭をくり返し押して後につなぎたい曲の曲番を表示させる

6 決定ボタンを押す

「Complete!」が数秒間表示されて、つながった曲の再生が始まります。

編集を途中でやめる

MENU/NOを押す。

次のページへつづく

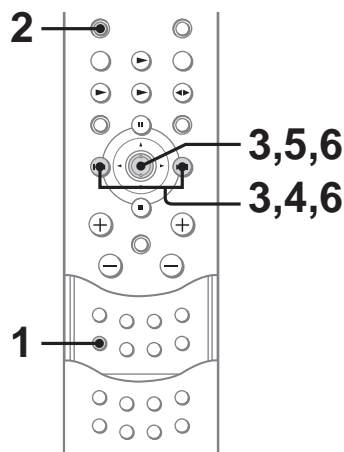
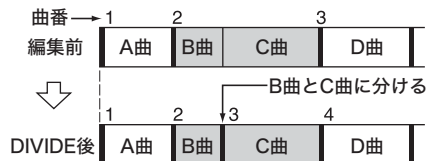
ご注意

- 別々のグループに登録された2つの曲をつなぐと、後ろの曲は前の曲が属するグループに登録され直します。また、グループ登録された曲とされていない曲をつなぐと、後ろの曲は前の曲の属性と同じになります。ただし、グループ機能が働いているときは、グループ内でしか曲をつなぐことはできません。
- 録音モード（ステレオ、LP2ステレオ、LP4ステレオ、モノラル）が同じ曲としかつなぐことができません。
- つないだ2曲の両方に曲名が付いているときは、後ろの曲名が消えます。

曲を分ける

(DIVIDE)

「Divide」は「分ける」という意味です。
録音した後で曲番を付けるときに使います。また、テープやラジオから録音し、曲番が自動的に付かず、頭出しをしたいときにも使います。分けた曲以降の曲番は、頭から順に付け直されます。

例）2曲目を2つに分ける

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 MENU/NOを押す

3 I◀◀ または▶▶Iをくり返し押して「Divide?」を表示させ、決定ボタンを押す

再生が始まります。

4 I◀◀ または▶▶Iをくり返し押して分けたい曲番を表示させる

5 音を聞きながら、分けたい位置で決定ボタンを押す

「━Rehearsal━」が表示され、分ける部分がくり返し再生されます。

6 分けるところを正しく再生していたら、決定ボタンを押す

「Complete!」と数秒間表示されて、分かれて新しくできた曲の再生が始まります。

分けるところを正しく再生していないときは

くり返し再生される音を聞きながら、I◀◀ または▶▶Iを押して、曲を分ける位置を調節し、決定ボタンを押す。
1/86秒（1f）*ずつ位置がずらせます。

* モノラルまたはLP2ステレオ録音した曲は2fずつ、LP4ステレオ録音した曲は4fずつ位置がずらせます。

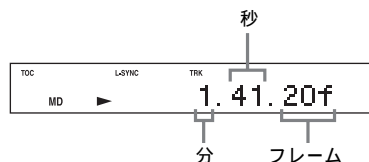
編集を途中でやめる

MENU/NOを押す。

ご注意

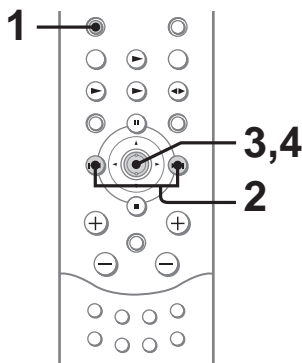
曲名を付けた（71ページ）曲をDivideして2つの曲に分けると、前の方の曲にのみ、その曲名が付きます。
例）

ちょっと一言

手順6で、秒、分単位で調節するには、◀◀または▶▶をくり返し押して、分、秒、フレームのいずれかの位置を点滅させて、I◀◀ または▶▶Iを押します。

ひとつ前の編集操作を取り消す

（UNDO）

最後に行った編集操作を取り消し、その前のMDの内容に戻します。
ただし、編集後に次のいずれかの操作をすると取り消せません。

- 他の編集作業をする。
- 録音の操作をする。
- Net MD機能をオンにする。
- 電源を切ったり、MDを取り出したりして、編集した内容を記録する。
- 電源プラグをコンセントから抜く。

1 停止中にMENU/NOを押す

2 ⏮ または⏭をくり返し押して「Undo?」を表示させる

取り消せる編集操作がないときは、「Undo?」は表示されません。

3 決定ボタンを押す

最後に行った編集操作に応じて、次のメッセージが表示されます。

編集操作	メッセージ
名前を付ける	「Name Undo?」
付けた名前を消す	
新しいグループを作る	「Group Undo?」
1グループずつ解除する	
全曲を1度に解除する	
曲の一部分を消す	「Erase Undo?」
1曲を消す	
全曲を消す	
曲順を変える	「Move Undo?」
1つの曲を2つに分ける	「Divide Undo?」
2つの曲を1つにする	「Combine Undo?」

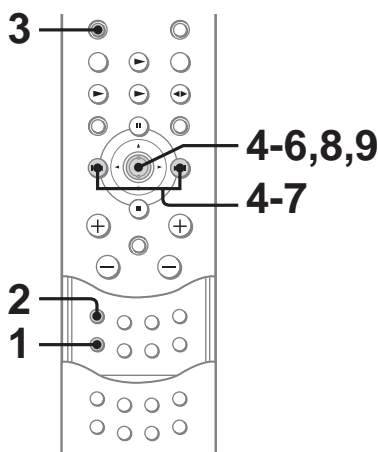
4 決定ボタンを押す

編集を途中でやめる

MENU/NOを押す。

録音後に録音レベルを変更する

（S.F EDIT）

録音済みの曲の音声レベルを変更することができます。もとの曲は新しい録音レベルで上書きされます。また、フェードイン・フェードアウトを使うと、曲の頭が次第に大きく再生される曲や、曲の最後が次第に小さく再生される曲を作ることができます。

1曲全体の録音レベルを変更する

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 再生モードボタンをくり返し押して、「SHUF」や「PGM」を消す

3 MENU/NOを押す

4 ⏮または⏭をくり返し押して「S.F Edit?」を表示させ、決定ボタンを押す

5 ⏮または⏭をくり返し押して「Tr Level?」を表示させ、決定ボタンを押す

再生が始まります。

6 ⏮または⏭をくり返し押して録音レベルを変更したい曲の曲番を表示させ、決定ボタンを押す

「Level 0dB」が表示されます。

7 再生される音を聞きながら、⏮または⏭をくり返し押して、録音レベルを変更する

－12dBから＋12dBの範囲内（2dB単位）で変更できます。一番大きい音のとき、表示窓に「OVER」が点灯しないようにします。

「OVER」が点灯しないように調節する

8 決定ボタンを押す

「S.F Edit OK?」が表示されます。

MD — 編集

次のページへつづく

9 決定ボタンを押す

曲の書き換えが始まります。
書き換え中は、「S.F Edit：＊＊%」が表示されます。
曲の書き換えには、その曲の再生時間とほぼ同じかそれ以上の時間がかかります。書き換えが終わると、「Complete!」が表示されます。

フェードイン・フェードアウトする曲を作る

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 再生モードボタンをくり返し押して、「SHUF」や「PGM」を消す

3 MENU/NOを押す

4 ⏮または⏭をくり返し押して「S.F Edit?」を表示させ、決定ボタンを押す

5 ⏮または⏭をくり返し押して「Fade In?」または「Fade Out?」を表示させ、決定ボタンを押す

再生が始まります。

6 ⏮または⏭をくり返し押してフェードインまたはフェードアウトさせたい曲の曲番を表示させ、決定ボタンを押す

「Time5.0s」が表示されます。

7 再生される音を聞きながら、⏮または⏭をくり返し押して、フェードインまたはフェードアウトする時間を調節する

フェードインまたはフェードアウトされる部分がくり返し再生されます。
1秒から15秒の間（0.1秒単位）で調節できます。その曲の再生時間を超えた設定はできません。

8 決定ボタンを押す

「S.F Edit OK?」が表示されます。

9 決定ボタンを押す

曲の書き換えが始まります。
書き換え中は、「SF Edit：＊＊%」が表示されます。書き換えが終わると、「Complete!」が表示されます。

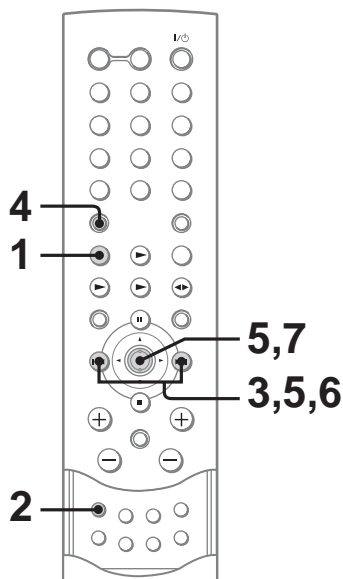
途中でやめる

手順4〜8の途中でMENU/NOを押す。手順9で決定ボタンを押して書き換えが始まると、操作を途中でやめることはできません。

ご注意

- MDLP録音した曲の録音レベルを変更することはできません。
- 録音レベルを何度も変更すると音質が劣化します。
- 録音レベルを変更した曲を再び元のレベルに戻しても、完全に元の録音レベルには戻りません。
- タイマーが働いているときは、録音レベルを変更できません。
- 録音レベルを変更した曲は、UNDO機能を使って元の状態に戻すことはできません。

ラジオ局を記憶させる

FM放送を20局、AM放送を10局まで記憶（プリセット）させることができます。聞くときは、プリセット番号を選ぶだけで選局できます。

自動受信してプリセットする

地域で受信できるラジオ局を自動的に選び、記憶させることができます。

1 TUNER BANDをくり返し押して、「AM」か「FM」を選ぶ

2 チューニングモードボタンをくり返し押して、「AUTO」を表示させる

3 ＋または－を押す

周波数表示が変わっていき、ラジオ局を受信すると自動的に止まり、「TUNED」と「ST」（FMステレオ放送のときのみ）が表示されます。

「TUNED」が出ずに止まらないときは

「手動受信してプリセットする」（88ページ）の手順2、3を行い、聞きたいラジオ局の周波数に合わせます。

4 MENU/NOを押す

5 I◀◀または▶▶Iをくり返し押して「Memory?」を表示させ、決定ボタンを押す

プリセット番号（記憶させる番号）が点滅します。点滅している間に手順6、7を行ってください。

6 ＋または－をくり返し押して、記憶させたい番号（プリセット番号）を選ぶ

FMは1～20、AMは1～10から選びます。

7 決定ボタンを押す

8 手順1～7をくり返し、ラジオ局を記憶させていく

次のページへつづく

ちょっと一言
自動受信を途中でやめたいときは、チューニングモードボタンを押します。

手動受信してプリセットする

周波数をあわせて、好きなラジオ局を記憶させることができます。

1 TUNER BANDをくり返し押して、「AM」か「FM」を選ぶ

2 チューニングモードボタンをくり返し押して、「AUTO」や「PRESET」を消す

3 ＋または－を押して、受信したいラジオ局の周波数に合わせる

4 MENU/NOを押す

5 ⏮または⏭をくり返し押して「Memory?」を表示させ、決定ボタンを押す

プリセット番号（記憶させる番号）が点滅します。点滅している間に手順6、7を行ってください。

6 ＋または－をくり返し押して、記憶させたい番号（プリセット番号）を選ぶ

FMは1～20、AMは1～10から選びます。

7 決定ボタンを押す

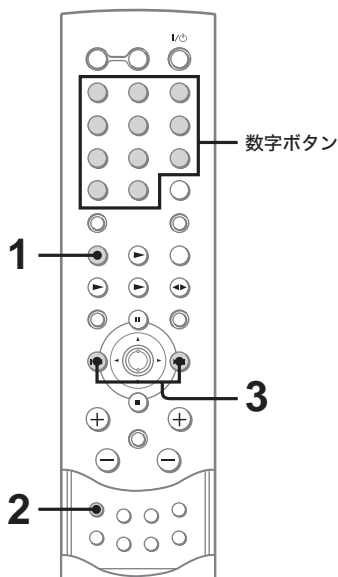
8 手順1～7をくり返し、ラジオ局を記憶させていく

その他の操作

こんなときは	操作
電波の弱いラジオ局を受信する	「手動受信してプリセットする」の手順で受信する。
プリセットした番号に別のラジオ局を記憶させる	手順1からやり直す。手順5の後で＋または－をくり返し押して、別のラジオ局を記憶させたいプリセット番号を選びます。

ちょっと一言
- 停電になったり電源コードを抜いても、記憶させたラジオ局は約1日保持されます。
- 記憶させたラジオ局に名前を付けることができます（90ページ）。
- 受信状態が悪いときは、アンテナを窓の近くや外に置くなど、向きや置き場所、はる位置を変えてみてください。それでも受信状態が悪いときは、市販の外部アンテナの使用をおすすめします（118ページ）。

ラジオを聞く

好きなラジオ局をあらかじめ本機に記憶させて聞くことができます（プリセット受信）。
また、周波数を合わせて記憶させていないラジオ局を聞くこともできます（マニュアル受信）。

記憶させたラジオ局を聞く（プリセット受信）

あらかじめ本機にラジオ局を記憶させておきます（87ページ）。

1　TUNER BANDをくり返し押して、「AM」か「FM」を選ぶ

2　チューニングモードボタンをくり返し押して、「PRESET」を表示させる

3　＋または－をくり返し押して、聞きたいラジオ局のプリセット番号を選ぶ

プリセット番号を選ぶ
数字ボタンを使って、聞きたいラジオ局のプリセット番号を選ぶこともできます。
10以降を選ぶには、>10を押してからプリセット番号を押します。0を選ぶには、10/0を押します。
また、DVDレシーバーのTUNERスティックで＋または－を選ぶと、チューニングモードが「PRESET」以外のときでもプリセット番号を選ぶことができます。

周波数を合わせてラジオを聞く（マニュアル受信）

1　TUNER BANDをくり返し押して、「AM」か「FM」を選ぶ

2　チューニングモードボタンをくり返し押して、「AUTO」や「PRESET」を消す

3　＋または－をくり返し押して、聞きたいラジオ局の周波数に合わせる

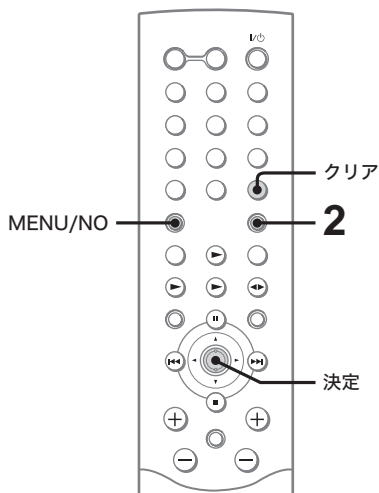
ラジオ

次のページへつづく

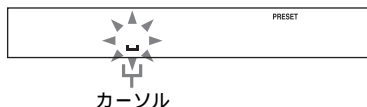
ちょっと一言

- 受信状態が悪いときは、アンテナを窓の近くや外に置くなど、向きや置き場所、はる位置を変えてみてください。
  それでも受信状態が悪いときは、市販の外部アンテナの使用をおすすめします（118ページ）。
- FMステレオ放送受信中、雑音が多いときはFMモードボタンをくり返し押して「MONO」を表示させます。モノラル受信になりますが、雑音が少なくなります。
- 「周波数を合わせてラジオを聞く」の手順2で「AUTO」を表示させ、＋または－を押すと、周波数表示が変わっていき、ラジオ局を受信すると自動的に止まります（自動受信）。
- ラジオを録音したいときは「好きなところから録音する」（61、94ページ）をご覧ください。

記憶させたラジオ局に名前を付ける

最大10文字まで名前を付けられます。名前はプリセット受信したときに表示されます。

1 名前を付けたいラジオ局をプリセット受信する（「ラジオを聞く」（89ページ））

2 NAME EDIT/SELECTを押す

文字入力画面になり、カーソルが点滅します。

3 「ディスク名や曲名、グループ名を付ける」（71ページ）の手順3～6の操作を行う

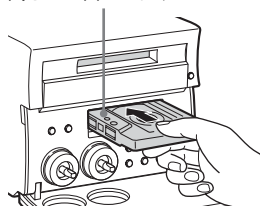
途中でやめる
MENU/NOを押す。

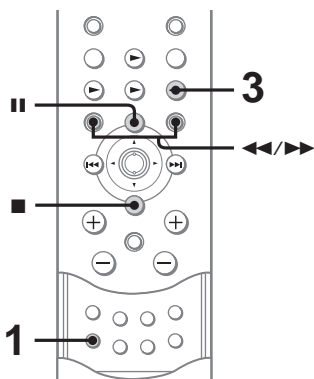
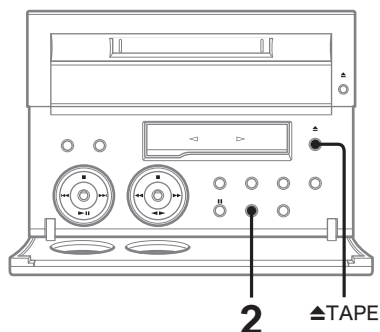
付けた名前を消す
1 名前を消したいラジオ局をプリセット受信する。
2 NAME EDIT/SELECTを押す。
3 クリアボタンをくり返し押して名前を消す。
4 決定ボタンを押す。

文字を消して変更する
「ディスク名や曲名、グループ名を付ける」（71ページ）の手順3、4中に、◀◀または▶▶をくり返し押して変更したい文字を点滅させ、クリアボタンを押して文字を消してから手順3、4をくり返す。

文字を追加する
「ディスク名や曲名、グループ名を付ける」（71ページ）の手順1、2の後、文字を追加したいところまで◀◀または▶▶をくり返し押してカーソルを動かし、手順3へ進む。

テープを入れる

テープを入れる

テープを聞く

本機はTYPE I（ノーマル）のテープにのみ対応しています。

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをTAPEに切り換える

2 DIRECTIONをくり返し押して、片面再生（⇄）か両面再生（⇄または⇄*）を選ぶ

*5回くり返して自動的に止まります。

3 TAPE◀▶を押す

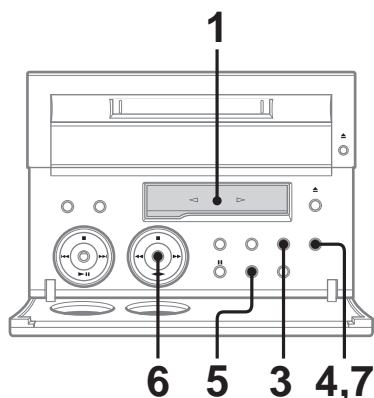
▶が表示され、おもて面から再生が始まります。うら面を聞くには、TAPE◀▶をもう一度押します。◀が表示され、反対面の再生が始まります。

その他の操作

こんなときは	操作
再生を止める	■を押す。
一時停止する	IIを押す。もう一度押すと再生を再開します。
早送りまたは巻き戻しする	◀◀または▶▶を押す。
テープを取り出す	MDデッキの≜TAPEを押す。

ディスクを録音する

（シンクロ録音）

1枚のディスクをそのままテープにアナログ録音できます。

1 録音用のテープを入れる

2 CDまたはMDを入れる

3 MODEをくり返し押して、「CD→TAPE SYNC」または「MD→TAPE SYNC」を表示させる

4 ENTER/STARTを押す

「Press START」が点滅します。
テープが録音一時停止に、ディスクは再生一時停止になります。

5 DIRECTIONをくり返し押して、片面録音（⇄）か両面録音（⥂または⟲）を選ぶ

6 TAPEスティックで◄►をくり返し選び、録音を始める面を選ぶ

両面またはおもて面を録音するときは►を表示させます。うら面のみを録音するときは◄を表示させます。

7 「Press START」が点滅しているのを確認してからENTER/STARTを押す

録音が始まります。
録音が終わると、ディスク、テープとも自動的に停止します。

録音を止める

TAPEスティックで■を選ぶ。

CDやMDの好きな曲だけを録音するには

プログラム再生機能を使って、好きな曲を選んでから録音することもできます。手順2と3のあいだで「好きな順に再生する」（26ページ）または「好きな曲順で聞く」（53ページ）の手順1～5の操作を行います。

ご注意

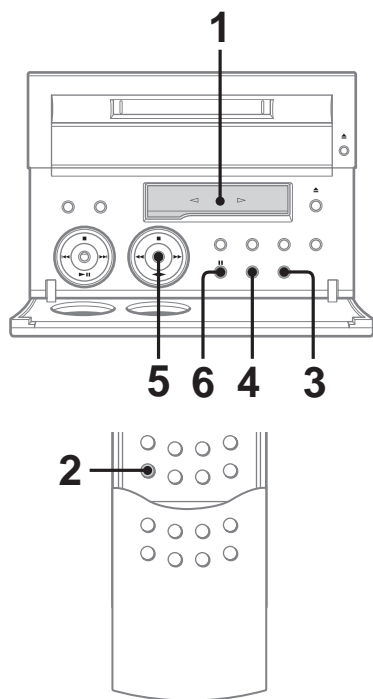
- ディスクの再生モードがリピートやシャッフルになっているときは、手順4で自動的にノーマル再生に切り換わります。
- マルチチャンネル音声のスーパーオーディオCDの場合、フロントL/Rスピーカーからの音声のみ録音します。

ちょっと一言

⥂または⟲を選んで録音すると、曲の途中でおもて面が終わっても、うら面にその曲の頭から録音し直します。

好きなところから録音する

（マニュアル録音）

ディスクやMD、ラジオ、接続した機器からお好みに応じて録音ができます。例えば、CDやMDの好きな部分だけを録音することができます。

1 録音用のテープを入れる

2 FUNCTIONをくり返し押して、録音したい音源を表示させる

- DVD：本機のディスクの音を録音する
- MD：本機のMDの音を録音する
- TUNER：本機のラジオの音を録音する
- VIDEO（SAT）：別売り機器の音をアナログ録音する

3 RECを押す

テープが録音一時停止になります。

4 DIRECTIONをくり返し押して、片面録音（⇄）か両面録音（⇄または⇄）を選ぶ

5 TAPEスティックで◄►をくり返し選び、録音を始める面を選ぶ

両面またはおもて面を録音するときは►を表示させます。うら面のみを録音するときは◄を表示させます。

6 ❚❚を押してから録音したい音源の再生を始める

録音が始まります。

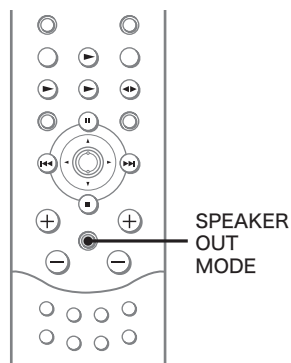
その他の操作

こんなときは	操作
録音を止める	TAPEスティックでTAPE■を選ぶ。
録音を一時停止する	❚❚を押す。

ご注意

マルチチャンネル音声のスーパーオーディオCDの場合、フロントL/Rスピーカーからの音声のみ録音します。

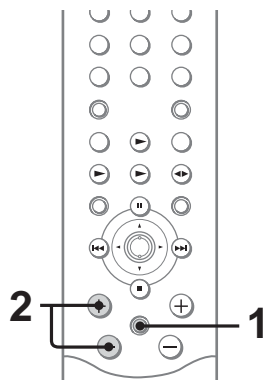
スピーカー出力を切り換える

スピーカー出力を、フロントL/Rスピーカーの2本、フロントL/Rスピーカーとサブウーファーの3本、フロントL/Rスピーカーとセンタースピーカー、サラウンドL/Rスピーカー、サブウーファーの6本の3種類から選べます。
フロントL/Rスピーカーの場合と、フロントL/Rスピーカーとサブウーファーの場合、マルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生されます。

SPEAKER OUT MODEをくり返し押して、希望するスピーカー出力を表示させる

スピーカー出力	表示窓の表示
フロントL/Rスピーカー	2CH
フロントL/Rスピーカー サブウーファー	2.1CH
フロントL/Rスピーカー センタースピーカー サラウンドL/Rスピーカー サブウーファー	5.1CH

ご注意
録音時には、「2CH」に固定されます。スピーカー出力を切り換えることはできません。

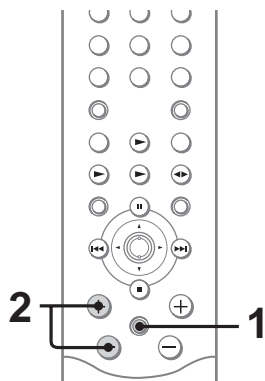
音声入力信号を自動的にデコードする（オートデコーディング）

オートデコーディング機能は、入力された音声信号の種類を自動的に識別し（ドルビーデジタル、DTS、標準的な2チャンネルステレオなど）、必要に応じて適切なデコード処理を行います。このモードは何の音場効果（残響音など）も加えずに、録音された、またはエンコードされたままの音を再現します。

1 SPEAKER OUT MODEをくり返し押して、「5.1CH」を表示させる

次のページへつづく

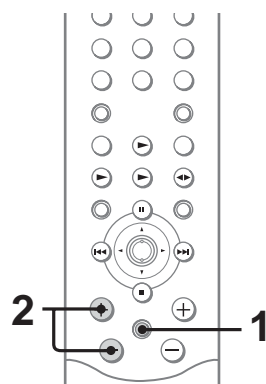
2 SOUND FIELD +/−をくり返し押して、「A.F.D. AUTO」を表示させる

フロントスピーカーとサブウーファーだけを使う（2チャンネルステレオ）

フロントL/Rスピーカーの2本（2CH）または、フロントL/Rスピーカーとサブウーファーの3本（2.1CH）から音を出します。
標準的な2チャンネル（ステレオ）ソースはサウンドフィールドの回路を通さずに、マルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生します。
どんなソースもフロントL/Rスピーカーとサブウーファーの3本で再生ができます。

1 SPEAKER OUT MODEをくり返し押して、「2CH」または「2.1CH」を表示させる

2 SOUND FIELD +/−をくり返し押して、「2CH STEREO」を表示させる

サラウンドを楽しむ

本機にプログラムされているサウンドフィールド（音場効果）を選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。ご自分の部屋で、映画館やコンサートホールの臨場感を再現できます。
スピーカー出力の切り換え、再生する音源によって選べるサウンドフィールドは異なります。

1 SPEAKER OUT MODEをくり返し押して、希望するスピーカー出力を表示させる

2 SOUND FIELD +/−をくり返し押して、希望するサウンドフィールドを表示させる

サウンド効果を解除する

SOUND FIELD +/−をくり返し押して、「A.F.D. AUTO」または「2CH STEREO」を表示させる。

選択できるサウンドフィールドの種類

スピーカー出力が「5.1CH」のとき

サウンドフィールド	表示窓の表示	音源	
		スーパーオーディオCD	その他
AUTO FORMAT DIRECT AUTO	A.F.D. AUTO	○*1	○
AUTO FORMAT DIRECT PRO LOGIC	PRO LOGIC	–	○
AUTO FORMAT DIRECT PRO LOGICII MOVIE	PLII MOVIE	–	○
AUTO FORMAT DIRECT PRO LOGICII MUSIC	PLII MUSIC	–	○
CINEMA STUDIO EX A	C.ST.EX A	–	○*2
CINEMA STUDIO EX B	C.ST.EX B	–	○*2
CINEMA STUDIO EX C	C.ST.EX C	–	○*2
ROCK	ROCK	–	○*2*3
POP	POP	–	○*2*3
JAZZ	JAZZ	–	○*2
CLASSIC	CLASSIC	–	○*2*3
DANCE	DANCE	–	○*2

スピーカー出力が「2CH」または「2.1CH」のときや、ヘッドホンを接続しているとき

サウンドフィールド	表示窓の表示	音源	
		スーパーオーディオCD	その他
2CH STEREO	2CH STEREO	○	○
CINEMA STUDIO EX A	C.ST.EX A*4	–	○*2
CINEMA STUDIO EX B	C.ST.EX B*4	–	○*2
CINEMA STUDIO EX C	C.ST.EX C*4	–	○*2
ROCK	ROCK	–	○*2
POP	POP	–	○*2
JAZZ	JAZZ	–	○*2
CLASSIC	CLASSIC	–	○*2
DANCE	DANCE	–	○*2

*1 スーパーオーディオCDの2チャンネルエリアを再生する場合、センタースピーカーとサラウンドL/Rスピーカーからは音が出ません。
*2 MPEG2-AAC信号が入力されているときは、サウンドフィールドの効果は無効になります。
*3 再生する音源が2チャンネルの場合、センタースピーカーとサラウンドL/Rスピーカーからは音が出ません。
*4 DCSテクノロジーを使っています。

ご注意

- 録音時には、スピーカー出力が「2CH」に、サウンドフィールドが「2CH STEREO」に固定されます。
- 再生する音源によっては、それぞれのスピーカーから出る音の大きさが異なる場合があります。
- 再生する音源がモノラルの場合、サウンドフィールドの種類によっては音が出ないスピーカーがあります。

次のページへつづく

サウンドフィールドの特徴

・AUTO FORMAT DIRECT AUTO/2CH STEREO
ソースに記録されている音をそのまま出力します。

・AUTO FORMAT DIRECT PRO LOGIC
プロロジック処理を行います。2チャンネルソースで録音された音源を4チャンネルソースにデコードして再生します。

・AUTO FORMAT DIRECT PRO LOGICII MOVIE
ドルビープロロジックIIのムービーモード処理を行います。この設定は、ドルビーサラウンドでエンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹き替え版や古い映画のビデオを5.1チャンネルで再生することができます。

・AUTO FORMAT DIRECT PRO LOGICII MUSIC
ドルビープロロジックIIのミュージックモード処理を行います。この設定は、CDなど通常のステレオ録音された音声の再生に適しています。

・CINEMA STUDIO EX A
ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの映画制作スタジオ「ケリー・グラント・シアター」の音響特性を再現します。標準的なモードで、どんな映画にも適しています。

・CINEMA STUDIO EX B
ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの映画制作スタジオ「キム・ノヴァク・シアター」の音響特性を再現します。このモードは音場効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。

・CINEMA STUDIO EX C
ソニー・ピクチャーズエンターテインメントのスコアリングステージの音響特性を再現します。このモードはミュージカルやオーケストラによるサウンドトラックが特長的な映画などに適しています。

・ROCK、POP、JAZZ、CLASSIC、DANCE
それぞれのジャンルの音楽に適した音場効果が得られます。

CINEMA STUDIO EX A～Cに関するご注意
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、エフェクトの効果によりノイズが目立つことがあります。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、サラウンドスピーカーからどんな音も直接は聞こえません。
- サンプリング周波数96kHzのサウンドトラックを再生しているときの信号は、48kHzに変換されて出力されます。

DCS（デジタルシネマサウンド）とは
ソニー・ピクチャーズエンターテインメントとの提携により、同社のスタジオの音響環境を計測し、ソニー独自の技術であるDSP（デジタルシグナルプロセッサー）と計測データを融合させて、「デジタルシネマサウンド」は開発されました。「デジタルシネマサウンド」はホームシアターで、映画館の理想的な音場効果を再現します。

シネマスタジオEXについて
シネマスタジオEXは、以下の3つの要素から成り立っています。
- Virtual Multi Dimension
  実在する1組のサラウンドスピーカーに加えて、リスナーを取り巻くように5組の仮想スピーカーを再現します。
- Screen Depth Matching
  映画館では、スクリーンに映写されている映像の中から音が聞こえてくるように感じます。フロントスピーカーの音をスクリーンに移動させることによってご自分の部屋で同じような感覚を再現します。

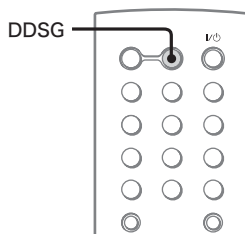
- Cinema Studio Reverberation
  映画収録スタジオに特有の反射音や残響音を再現します。

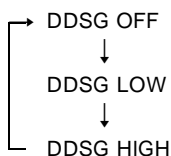
シネマスタジオEXは、これら3つの音響効果を実現する総合的なサウンドフィールドです。

ちょっと一言

ドルビーデジタルまたはドルビーサラウンドでエンコードされたソフトは、パッケージを見れば分かります。
ードルビーデジタルでエンコードされているソフトにはDOLBY DIGITALマークが付いています。
ードルビーサラウンドでエンコードされているソフトはDOLBY SURROUND PRO・LOGICマークが付いています。
ーDTSデジタルサラウンドでエンコードされているソフトにはDTSマークが付いています。

迫力のある音を楽しむ

低音を増強して音をダイナミックにし、迫力のある音が楽しめます。

DDSG*を押す

押すたびに表示が次のように変わります。しばらくすると元の表示に戻ります。

* DDSGはDigital（デジタル） Dynamic（ダイナミック） Sound（サウンド） Generator（ジェネレーター）の略です。

ご注意

AACをデコードしているときは、DDSGは解除されます。

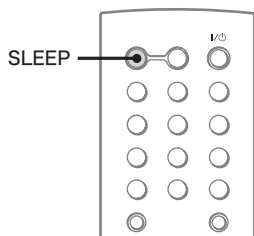
ちょっと一言

スピーカー出力が「5.1CH」または「2.1CH」の場合には、サブウーファーの音のレベルを調整することで低音の量を調整し、さらに迫力のある音にすることもできます。
詳しくは、「視聴する位置にあったバランスと音量レベルを選ぶ」（46ページ）をご覧ください。

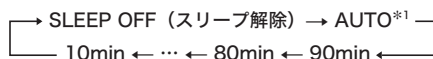
タイマー

音楽を聞きながら眠る

（スリープタイマー）

指定した時間がたつと、自動的に電源が切れます。時間は10分単位で設定できます。

SLEEPを押す

押すたびに時間が次のように変わり、しばらくすると元の表示に戻ります。表示された時間がたつと、電源が切れます。

→ SLEEP OFF（スリープ解除）→ AUTO*1
10min ← … ← 80min ← 90min ←

こんなときは	操作
残り時間を確認する*2	SLEEPを1回押す。
途中で時間を変える	SLEEPをくり返し押して、時間を選び直す。
スリープタイマーを解除する	SLEEPをくり返し押して、「SLEEP OFF」を表示させる。

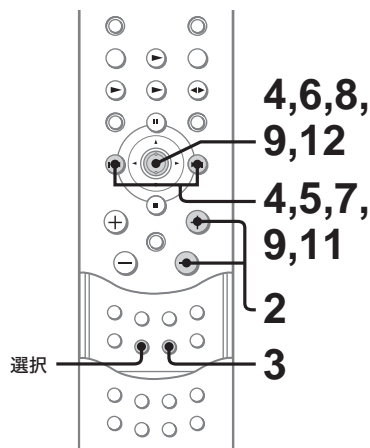
*1 240分たつと電源が切れます。また、再生中のディスク、MD、テープが終了すると、自動的に電源が切れます。
*2 AUTOに設定しているときは確認できません。

ご注意
- MDやテープにシンクロ録音するときは「AUTO」に設定しないでください。
- スリープタイマーを使って、テレビの電源を切ることはできません。
- S.F EDITの動作中は、指定した時間がたっても自動的に電源が切れません。S.F EDITの動作が終了してから電源が切れます。
- Net MD機能が働いているときは、スリープタイマーを使うことができません。

ちょっと一言
スリープタイマーは、時計合わせをしていなくても使用できます。

目覚ましとして使う

（再生タイマー）

指定した日時に自動的に電源が入り、切れるように設定できます。操作の前に、時計を合わせておきます（16ページ）。

1 CDなどの音源を準備する

- DVDやCD：ディスクを入れる。好きな曲から再生したいときはプログラムする（26ページ）。
- MD：MDを入れる。好きな曲から再生したいときはプログラムする（53ページ）。
- テープ：カセットテープを入れる。
- ラジオ：プリセット受信する（89ページ）。

2 VOLUME ＋または－を押して音量を調節する

3 時計/タイマーの設定ボタンを押す

4 ⏮または⏭をくり返し押して「PLAY SET?」を選び、決定ボタンを押す

5 ⏮または⏭をくり返し押して「PLAY ONCE?」、「PLAY DAILY?」、「PLAY WEEKLY?」のいずれかを選ぶ

「PLAY ONCE?」を選ぶと、タイマーは1度だけ働きます。
「PLAY DAILY?」を選ぶと、タイマーは毎日設定時刻に働きます。
「PLAY WEEKLY?」を選ぶと、タイマーは毎週、設定した曜日の設定時刻に働きます。

6 決定ボタンを押す

「PLAY ONCE?」または「PLAY WEEKLY?」を選んだときは、「曜日」が点滅します。
「PLAY DAILY?」を選んだときは、「時」が点滅します。

7 ⏮または⏭をくり返し押して「曜日」を選ぶ

手順5で「PLAY DAILY?」を選んだときは、手順9へ進みます。

8 決定ボタンを押す

「時」が点滅します。

9 開始時刻を合わせる

⏮または⏭をくり返し押して「時」を合わせ、決定ボタンを押す。「分」が点滅します。
⏮または⏭をくり返し押して「分」を合わせ、決定ボタンを押す。
再び「曜日」または「時」が点滅します。

タイマー

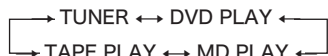
次のページへつづく

10 終了時刻を合わせる

手順7〜9と同じ操作をして（「曜日」）「時」「分」を合わせます。

11 ⏮または⏭をくり返し押して、音源を選ぶ

押すたびに、次のように変わります。

→ TUNER ↔ DVD PLAY ←
→ TAPE PLAY ↔ MD PLAY ←

12 決定ボタンを押す

タイマーの設定が表示されて、元の表示に戻ります。

13 電源を切る

設定を変更する

手順1からやり直す。

設定を確認する/タイマーを働かせる

1 時計/タイマーの選択ボタンを押す。

2 ⏮または⏭を押して、「TIMER SELECT?」を表示させ、決定ボタンを押す。

3 ⏮または⏭を押して、「PLAY ON?」を表示させ、決定ボタンを押す。

タイマーを解除する

1 時計/タイマーの選択ボタンを押す。

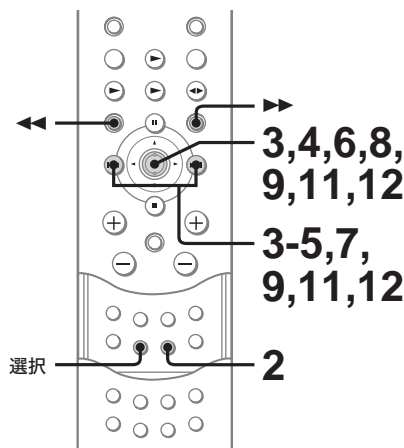
2 ⏮または⏭を押して、「TIMER OFF?」を表示させ、決定ボタンを押す。

ご注意

- 録音タイマーと同時に使用した場合は、録音タイマーの設定が優先されます。
- スリープタイマーを同時に使用した場合は、スリープタイマーの設定が優先されます。
- 電源は開始時刻の約30秒前に自動的に入ります。電源が入ってから開始時刻になるまでは、何も操作しないでください。タイマーが正しく働かなくなることがあります。
- 開始時刻の約30秒前にすでに電源が入っていると再生タイマーは働きません。
- VIDEO/SAT INおよびVIDEO/SAT DIGITAL IN OPTICAL端子につないだ機器は再生タイマーの音源としては使用できません。

タイマーを使って録音する

（録音タイマー）

本機のラジオからタイマー録音ができます。あらかじめラジオ局を記憶させ（87ページ）、時計を合わせておきます（16ページ）。

1 録音したいラジオ局をプリセット受信する（89ページ）

2 時計/タイマーの設定ボタンを押す

3 ⏮またはⅠ⏭をくり返し押して「REC SET?」を選び、決定ボタンを押す

4 ⏮または⏭をくり返し押して「REC 1」から「REC 3」のいずれかを選び、決定ボタンを押す

5 ⏮または⏭をくり返し押して「ONCE?」、「DAILY?」、「WEEKLY?」のいずれかを選ぶ

「ONCE?」を選ぶと、タイマーは1度だけ働きます。
「DAILY?」を選ぶと、タイマーは毎日設定時刻に働きます。
「WEEKLY?」を選ぶと、タイマーは毎週、設定した曜日の設定時刻に働きます。

6 決定ボタンを押す

「ONCE?」または「WEEKLY?」を選んだときは、「曜日」が点滅します。
「DAILY?」を選んだときは、「時」が点滅します。

7 ⏮または⏭をくり返し押して「曜日」を選ぶ

手順5で「DAILY?」を選んだときは、手順9へ進みます。

8 決定ボタンを押す

「時」が点滅します。

9 開始時刻を合わせる

⏮または⏭をくり返し押して「時」を合わせ、決定ボタンを押す。「分」が点滅します。
⏮または⏭をくり返し押して「分」を合わせ、決定ボタンを押す。
再び「曜日」または「時」が点滅します。

タイマー

次のページへつづく

10 終了時刻を合わせる

手順7～9と同じ操作をして（「曜日」）「時」「分」を合わせます。

11 ⏮または⏭をくり返し押してMDまたはテープを選び、決定ボタンを押す

12 MDに録音するときは⏮または⏭をくり返し押して録音モード（LP2/LP4など）を選び、決定ボタンを押す

タイマーの設定が表示されて、元の表示に戻ります。

13 録音用のMDまたはテープを入れる

14 電源を切る

設定を変更する

手順1からやり直す。

タイマーを働かせる/解除する

1 時計/タイマーの選択ボタンを押し、⏮または⏭を押して「TIMER SELECT?」を表示させ、決定ボタンを押す。

2 ◀◀または▶▶を押してタイマーの番号（REC1～3）を選んでから、⏮または⏭でタイマーの番号（セット）、「－」（解除）を選び、決定ボタンを押す。
タイマーが設定されていないときは、「・」が表示されます。

設定を確認する

「タイマーを働かせる／解除する」の手順2で、確認したいタイマーの番号（REC1～3）を表示させ、決定ボタンを押す。
最後に設定した内容が表示されます。

ご注意

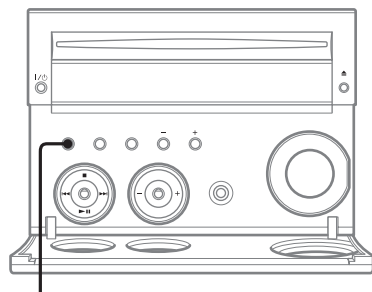
- スリープタイマーを同時に使用したときは、スリープタイマーの設定が優先されます。
- 電源は開始時刻の約30秒前に自動的に入ります。電源が入ってから開始時刻になるまでは、何も操作しないでください。タイマーが正しく働かなくなることがあります。
- 開始時刻の約30秒前にすでに電源が入っていると、録音タイマーが働かず録音されません。
- 録音中、ボリュームは最小になります。
- MDに録音するときに、グループ機能を働かせてタイマー録音を設定した場合、グループを指定していなければ、新しいグループを作って録音します。
- 再生タイマーの音源をテープにしているとき、同時に録音タイマーを設定すると、テープに録音されることがありますのでご注意ください。

ちょっと一言

ラジオから録音したときはラジオ局名（90ページ、局名を付けていないときは周波数）が、開始時刻、終了時刻と一緒にMDに記録されます。

表示窓の表示を消す

（節電モード）

表示窓の時計表示を消して、電源を切った状態での消費電力を最低限におさえることができます（節電モード）。

電源を切った状態でDISPLAYをくり返し押して、時計表示を消す

節電モードに切り換わります。

節電モードを解除する

電源を切った状態で、DISPLAYをくり返し押す。押すたびに表示窓が次のように切り換わります。

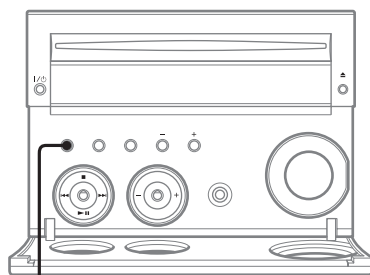
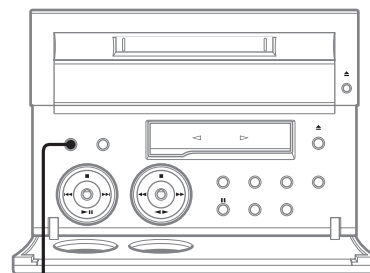
時間表示 ←→ 非表示（節電モード）

ちょっと一言

節電モード時も、タイマーは働きます。

表示窓を使って残り時間や名前を見る

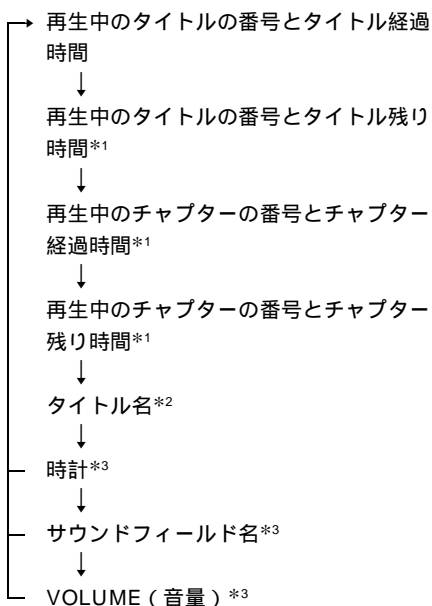
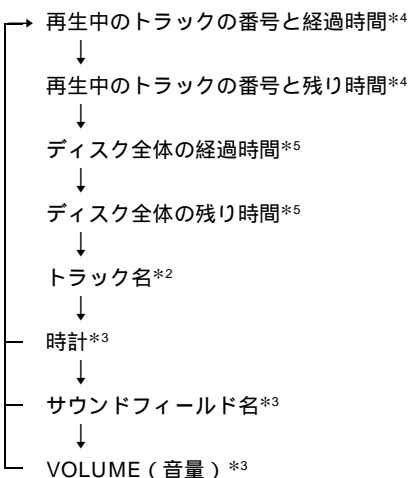
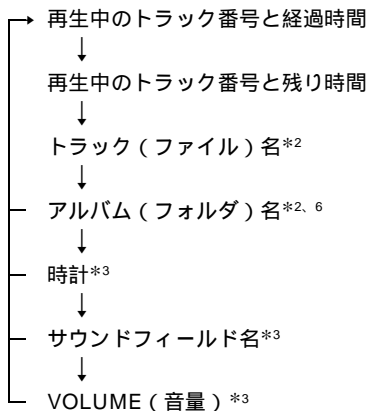
再生中のトラック（曲）やディスク全体の経過時間と残り時間を見ることができます。
また、TEXT情報が付いているディスクの場合、タイトル名などを見ることができます。

次のページへつづく

ディスクの残り時間や名前を見る

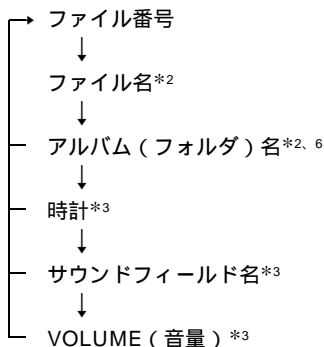
再生中にDVDレシーバーのDISPLAYを押す

押すたびに次のように変わります。

DVD再生中

→ 再生中のタイトルの番号とタイトル経過時間
↓
再生中のタイトルの番号とタイトル残り時間*1
↓
再生中のチャプターの番号とチャプター経過時間*1
↓
再生中のチャプターの番号とチャプター残り時間*1
↓
タイトル名*2
↓
時計*3
↓
サウンドフィールド名*3
↓
VOLUME（音量）*3

ビデオCD（PBC再生中以外）/スーパーオーディオCD/CD再生中

MP3再生中

ご注意

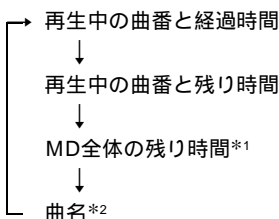
- ID3タグはバージョン1にのみ対応しています。
- 再生中のMP3ファイルにID3タグが記録されている場合は、トラック（ファイル）名の代わりにID3タグ情報が表示されます。
- ID3タグの文字コードはASCIIおよびISO9660に準拠しています。Jolietフォーマットのディスクは ASCIIでのみ表示されます。上記に対応していない文字は正しく表示されません。
- MP3のビットレートがVBR（Variable Bit Rate）の場合には、MP3の経過時間と残り時間が正確に表示されないことがあります。

JPEG再生中

*1 再生しているディスクや再生モードによっては、表示されないことがあります。
*2 文字情報がない場合はスキップします。
*3 一定時間表示された後に、先頭の項目に戻ります。
*4 ビデオCDのPBC再生中は、シーンの経過時間だけが表示されます。
*5 シャッフル再生やプログラム再生中は表示されません。
*6 文字情報のスクロールが終わると、先頭の項目に戻ります。

MDの残り時間や名前を見る

再生中にMDデッキのDISPLAYを押す

押すたびに次のように変わります。

MD再生中

*1 グループ機能が働いているときは、グループ内の全曲の残り時間が表示されます。
*2 曲名が付いていないときは、表示されません。

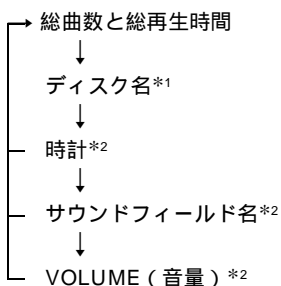
次のページへつづく

ディスクの総再生時間を見る

停止中にDVDレシーバーのDISPLAYを押す

押すたびに次のように変わります。

DVD停止中

ビデオCD/CD/スーパーオーディオCD停止中

*1文字情報がない場合はスキップします。
*2一定時間表示された後に、先頭の項目に戻ります。

MP3/JPEG停止中

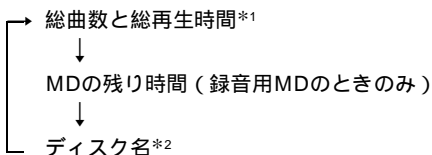
*1「ALBM」または「ALBM SHUF」が表示されているときは、選択アルバム内の曲数（MP3の場合）またはファイル数（JPEGの場合）が表示されます。
*2「ALBM」または「ALBM SHUF」が表示されているときは、アルバム（フォルダ）名が表示されます。
*3一定時間表示された後に、先頭の項目に戻ります。

MDの総再生時間を見る

停止中にMDデッキのDISPLAYを押す

押すたびに次のように変わります。

MD停止中

総曲数と総再生時間*1
↓
MDの残り時間（録音用MDのときのみ）
↓
ディスク名*2

*1グループ機能が働いているときは、総グループ数（グループ未選択時）またはグループ内の総曲数および総再生時間（グループ選択時）が表示されます。MDの合計再生時間が1,000分を超えたときは、「−−−.−−」と表示されます。
*2ディスク名が付いていないときは、表示されません。グループ機能が働いているときは、グループ名が表示されます。

ラジオ局名を見る（ラジオ）

受信中にDVDレシーバーのDISPLAYを押す

押すたびに次のように変わります。

*1 名前を付けていない場合は、表示されません。
*2 ラジオ局名が付いている場合は、一定時間表示した後に先頭の項目に戻ります。
*3 一定時間表示された後に、先頭の項目に戻ります。

長い名前をスクロール表示する

スクロールボタンを押す。
表示窓に名前が横に流れます（スクロール）。

ご注意

DVDによってはチャプター番号や時間が表示されない場合や、表示を変えられない場合があります。

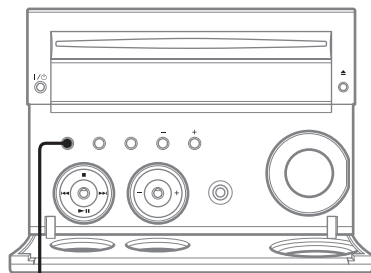
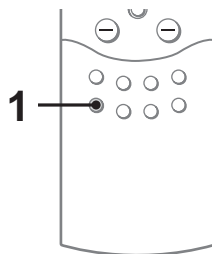
ちょっと一言

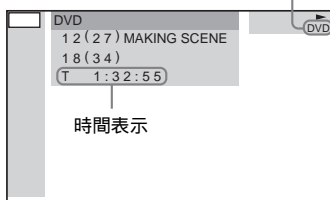
- 再生中にいつでも曲名を見ることができます。スクロールボタンを押すと曲名全体が表示窓にスクロールして表示されます。
- MDにディスク名や曲名、グループ名を付けたいときは「ディスク名や曲名、グループ名を付ける」（71ページ）をご覧ください。
- ラジオ局に名前を付けたいときは「記憶させたラジオ局に名前を付ける」（90ページ）をご覧ください。

画面を使って経過時間と残り時間を見る

再生中のタイトルやチャプター、トラック（曲）の経過時間と残り時間、ディスク全体の経過時間と残り時間を見ることができます。

表示

次のページへつづく

1 再生中にDVD画面表示ボタンを押す

本機に接続されたテレビにコントロールメニュー画面が表示されます。

2 DISPLAYをくり返し押して、表示を切り換える

表示や切り換えできる時間の種類はディスクによって異なります。

DVDのとき

- T ＊＊：＊＊：＊＊
  タイトルの経過時間
- T －＊＊：＊＊：＊＊
  タイトルの残り時間
- C ＊＊：＊＊：＊＊
  チャプターの経過時間
- C －＊＊：＊＊：＊＊
  チャプターの残り時間
- ＊＊：＊＊：＊＊
  メニューまたはチャプターが付いていないタイトルの経過時間

ビデオCDをPBC再生しているとき

- ＊＊：＊＊
  シーンの経過時間

ビデオCD（PBC再生中以外）/スーパーオーディオCD/CDのとき

- T ＊＊：＊＊
  トラックの経過時間
- T －＊＊：＊＊
  トラックの残り時間
- D ＊＊：＊＊
  ディスクの経過時間
- D －＊＊：＊＊
  ディスクの残り時間

MP3のとき

- T ＊＊：＊＊
  トラックの経過時間
- T －＊＊：＊＊
  トラックの残り時間

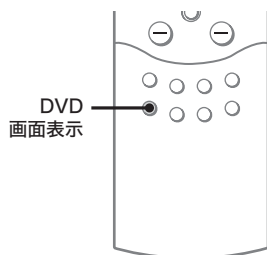
画面表示を消す

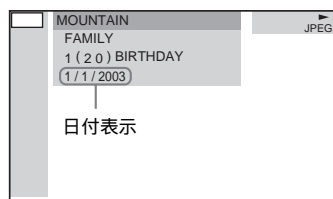
DVD画面表示ボタンを押す。

JPEG画像の日付を見る

JPEG

JPEGファイルでExif*タグに撮影した日付の情報が記録されている場合、再生中にその日付情報を見ることができます。

* Exchangeable Image File Formatは日本電子工業振興協会が制定したデジタルカメラ用画像ファイルフォーマット規格です。

再生中にDVD画面表示ボタンを押す。

本機に接続されたテレビにコントロールメニュー画面が表示されます。

ご注意

撮影日データが存在しない場合またはデータが壊れている場合は、撮影日は表示されません。

ちょっと一言

日付表示形式は「視聴設定」で変更できます（34ページ）。

表示

付属のソフトウェアについて

USBケーブル（付属）をつなぐ前に付属のCD-ROMを使ってパソコンにソフトウェアをインストールしてください。インストールについてはCD-ROMケースの記載をご覧ください。
USBケーブルのつなぎ方については、「準備4：本機とパソコンをつなぐ」（18ページ）をご覧ください。
本機をパソコンとつなぐと、パソコンのハードディスクやCD-ROMドライブで再生した曲を、本機のスピーカーで聞くことができます。また、付属のCD-ROMからインストールしたソフトウェアM-crewを使ってパソコンで本機を操作したり、「Net MD対応SonicStage」を使ってパソコンに保存した音楽データをMDに転送することができます。

M-crewについて

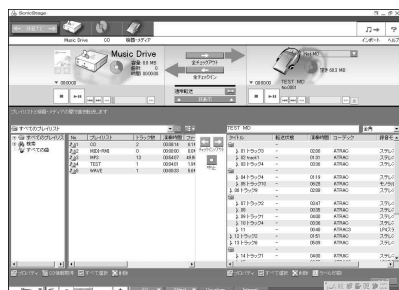
パソコンと本機をUSBケーブルで接続し、パソコンから本機を操作するためのソフトウェアです。DVDなどのディスク/MD/チューナーの再生、録音、編集などができます。

インストール方法は、CD-ROMケースの記載をご覧ください。簡単な使いかたについては、付属のCD-ROM内にあるPDFファイル「M-crew取扱説明書」をご覧ください。詳しい使いかたについては、オンラインヘルプをご覧ください。

ご注意

M-crewのインストールは、必ず本機とつなぐ前に行ってください。また、改めてインストールするときも、USBケーブルを外してから行ってください。

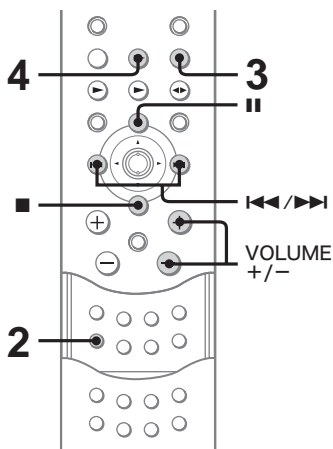
Net MD対応SonicStageについて

「OpenMG」（ソニーの開発した著作権保護技術）を採用し、デジタル音楽コンテンツをコンピューターのハードディスクに保存してコンピューター上で楽しめるソフトウェアです。ハードディスクに保存した音楽はMDにチェックアウト（転送）して、持ち出して聞くことができます。

インストール方法は、CD-ROMケースの記載をご覧ください。簡単な使いかたについては、付属のCD-ROM内にあるPDFファイル「Net MD対応SonicStage取扱説明書」をご覧ください。詳しい使いかたについては、オンラインヘルプをご覧ください。

ご注意

Net MD対応SonicStageのインストールは、必ず本機とつなぐ前に行ってください。また、改めてインストールするときも、USBケーブルを外してから行ってください。

つないだパソコンの音を聞く

付属のM-crewを起動することにより、M-crewに登録されたパソコン内の音楽データの再生や、インターネットラジオの選局などを本機で操作できます（PC LIBRARY CONTROL)。パソコン内の音楽データのM-crewへの登録は、パソコン側で操作します。
また、M-crewに登録されていないパソコン内の音楽データやCD-ROMドライブの曲の再生は、本機では操作できません。パソコン側で操作してください。ただし、M-crewでは、パソコンのCD-ROMは操作できません。
操作の前に本機とパソコンが正しく接続されていることを確認してください。

1 付属のCD-ROMからインストールしたM-crewを起動する

M-crewの起動、設定などのしかたは、付属のCD-ROM内にあるPDFファイル「M-crew取扱説明書」をご覧ください。

2 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをPCに切り換える

3 PC LIBをくり返し押して、以下のモードを選ぶ

- PC：パソコンで操作します。
  Windows Media Playerなど、一般の音楽再生ソフトウェアで音楽を聞くことができます。MDデッキの表示窓に「USB Audio」と表示されます。
- MUSIC LIBRARY：本機で操作します。M-crewに登録している音楽データ（プレイリスト）を聞くことができます。MDデッキのDISPLAYを押してName表示に切り換えると、再生中の曲名が、MDデッキの表示窓に表示されます。
- WEB RADIO：本機で操作します。
  M-crewに登録しているインターネットラジオを聞くことができます。
  MDデッキのDISPLAYを押してName表示に切り換えると、放送中のインターネットラジオの局名が、MDデッキの表示窓に表示されます。

ご注意

M-crew起動時にのみ、モード選択は有効です。M-crewが起動されていない場合はモードに関係なく、一般の音楽再生ソフトウェアを起動してパソコン操作で音楽を聞くことができます。

4 PC►を押す

MUSIC LIBRARYまたはWEB RADIOの再生が始まります。

次のページへつづく

ご注意

- WEB RADIOモードでは、あらかじめInternet Explorerの接続設定および、インターネットに接続している必要があります。本機およびM-crewには、ダイヤルアップなどのインターネットを接続/切断する機能はありません。インターネットの接続/切断はパソコン側で操作してください。
  接続時間によって課金される接続契約を結ばれている場合は、WEB RADIO使用後のインターネット切断を忘れないように充分ご注意ください。
- 「Check USB」が表示されたときは、USBケーブルが正しく接続されているかどうかを確認してください。
- M-crewが起動していないときは、「PC Soft Off」が表示されます。

ちょっと一言

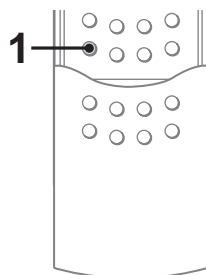
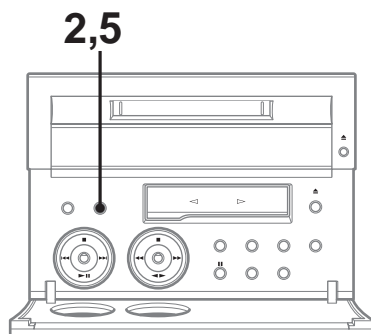
手順2でPC►を押すと、自動的にファンクションがPCに切り換わって演奏が始まります（オートファンクション）。

MUSIC LIBRARYとWEB RADIOモード時の操作

こんなときは	操作
演奏を止める	■を押す。
一時停止する	演奏中にⅡを押す（インターネットラジオ局の送信形態によっては機能しない場合があります）。
曲またはインターネットラジオ局を選ぶ	⏮ または⏭を押す。
音量を調節する	VOLUME ＋または－を押す。
表示を切り換える	MDデッキのDISPLAYを押す。

ちょっと一言

⏮ または⏭の代わりに、プレイリスト曲番、またはラジオ局の番号を数字ボタンで選ぶこともできます。10以降の番号を選ぶには、＞10ボタンを押してから数字ボタンを押します。0を選ぶには、10/0ボタンを押します。

Net MD対応SonicStageを使う

1 FUNCTIONをくり返し押して、ファンクションをMDに切り換える

2 NET MDボタンを押す

Net MD機能がオンになります。
「Net MD」が表示されます。

3 パソコンでNet MD対応SonicStageを起動して操作する

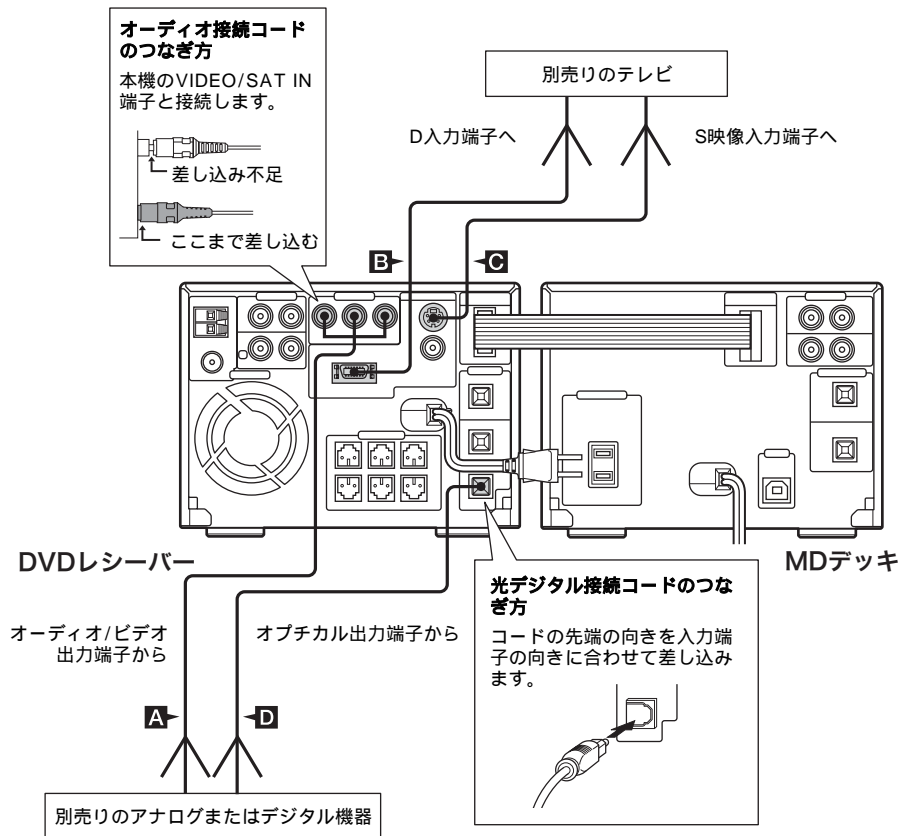
4 （操作が終了したら）Net MD対応SonicStageを終了する

5 NET MDボタンを押して、Net MD機能をオフにする

ご注意

- NET MDを押してNet MD機能をオンにしているときは、ファンクションの切り換えはできません。また、⏏MD（取り出し）以外の本体のMDの操作もできません。
- タイマーが働いているときは、Net MD機能は使えません。
- 「Check USB」が表示されたときは、USBケーブルが正しく接続されているかどうかを確認してください。
- Net MD対応SonicStageでチェックイン/アウトしているときは、「CONNECT」が表示されます。表示が出ているときに、USBケーブルを抜かないでください。チェックイン／アウトについては、Net MD対応SonicStageのオンラインヘルプをご覧ください。
- Net MD機能をオンにすると、リピート再生、シャッフル再生、プログラム再生およびグループ機能は解除されます。
- MDLP非対応機器で再生する場合、SonicStageのチェックアウト時に転送モードを「ステレオ転送」にしてください。LP2/LP4で転送した場合、MDLP非対応機器では再生できません。

別売り機器をつなぐ

つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

A VIDEO/SAT IN端子

オーディオ/ビデオ接続コード（別売り）を使って、別売り機器（ビデオ、デジタル機器など）をつなぎます。本機でアナログ音声を録音したり、聞いたりできます。

B MONITOR OUT COMPONENT D2端子*

D映像入力端子付きのテレビをお使いのときは、D映像コード（別売り）を使ってつなぐと、映像本来の色が楽しめます。
プログレッシブ方式に対応したテレビと接続するときは、「テレビの画面を調節する （画面設定）」（37ページ）で「コンポーネント出力」を「プログレッシブ」に設定してください。

C MONITOR OUT S VIDEO端子*

S映像入力端子付きのテレビをお使いのときは、S映像コード（別売り）を使ってつなぎます。さらに鮮明な画像が楽しめます。

D VIDEO/SAT DIGITAL IN OPTICAL端子

光デジタル接続コード（角形、別売り）を使って、別売りのデジタル機器（BSデジタル/デジタルCSチューナーなど）をつなぎます。本機でデジタル音声を録音したり、聞いたりできます。

* DVDまたはビデオCDのときのみビデオ信号が出力されます。

別売り機器の音を本機のスピーカーで聞く

BSデジタル/デジタルCSチューナーなどのデジタル機器とつなぐ

1 オーディオ/ビデオ接続コードをつなぐ。
「別売り機器をつなぐ」（116ページ）をご覧ください。

2 光デジタル接続コードをつなぐ。
「別売り機器をつなぐ」（116ページ）をご覧ください。

3 FUNCTIONをくり返し押して、「VIDEO」を表示させる。

4 MENU/NOを押して「SAT?」を表示させ、決定ボタンを押す。
別売り機器の再生を始めてください。

ビデオ、レコードプレーヤーなどの機器とつなぐ

1 オーディオ/ビデオ接続コードをつなぐ。
「別売り機器をつなぐ」（116ページ）をご覧ください。

2 FUNCTIONをくり返し押して、「VIDEO」を表示させる。
別売り機器の再生を始めてください。

ちょっと一言

- 光デジタル接続コードをつないでいるときは、VIDEO/SAT DIGITAL IN OPTICAL端子からの音声が優先されます（AACのデコードに対応しています）。
- イコライザーアンプが内蔵されていないレコードプレーヤーを接続するときは、本機とプレーヤーの間に、MM型またはMC型に対応のカートリッジイコライザー（別売り）をつないでください。イコライザーアンプが内蔵されているかどうかや、MM型かMC型かについては、お使いになっているプレーヤーの製造元へお問い合わせください。

本機を使って録音する

BSデジタル/デジタルCSチューナーなどのデジタル機器とつなぐ（デジタル録音）

シリアルコピーマネージメントシステム（143ページ）により、デジタル録音できない場合があります。そのときは、VIDEO/SAT IN端子につないでアナログ録音してください。
また、AACなど、PCM以外でエンコードされた音声はデジタル録音できません。デジタル機器をPCM出力に設定してください。

1 光デジタル接続コードをつなぐ。
「別売り機器をつなぐ」（116ページ）をご覧ください。

2 MDにマニュアル録音をする。
「好きなところから録音する」（61ページ）をご覧ください。

ご注意
スマートスペース/オートカットをOnに設定していると、約30秒以上の無音が続いたとき録音一時停止状態になります（66ページ）。

ちょっと一言
- タイムマシン録音（63ページ）もできます。
- MDへ録音される音の大きさをお好みで調節できます（67ページ）。

ビデオ、レコードプレーヤーなどの機器とつなぐ（アナログ録音）

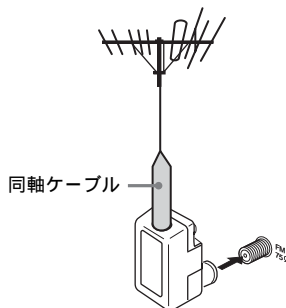
1 オーディオ/ビデオ接続コードをつなぐ。
「別売り機器をつなぐ」（116ページ）をご覧ください。

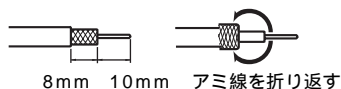
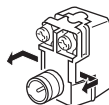
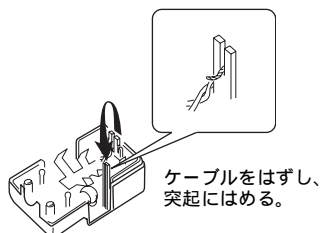
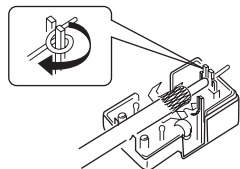
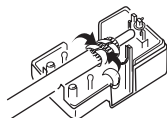
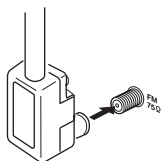
2 マニュアル録音をする。
MDに録音するときは「好きなところから録音する」（61ページ）、テープに録音するときは「好きなところから録音する」（94ページ）をご覧ください。

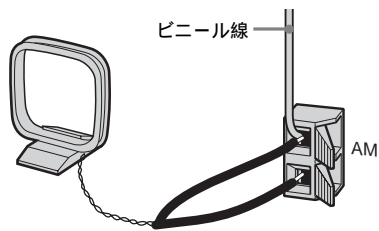
市販の外部アンテナをつなぐ

付属のアンテナでうまく受信できないときにつなぎます。

FMアンテナをつなぐ

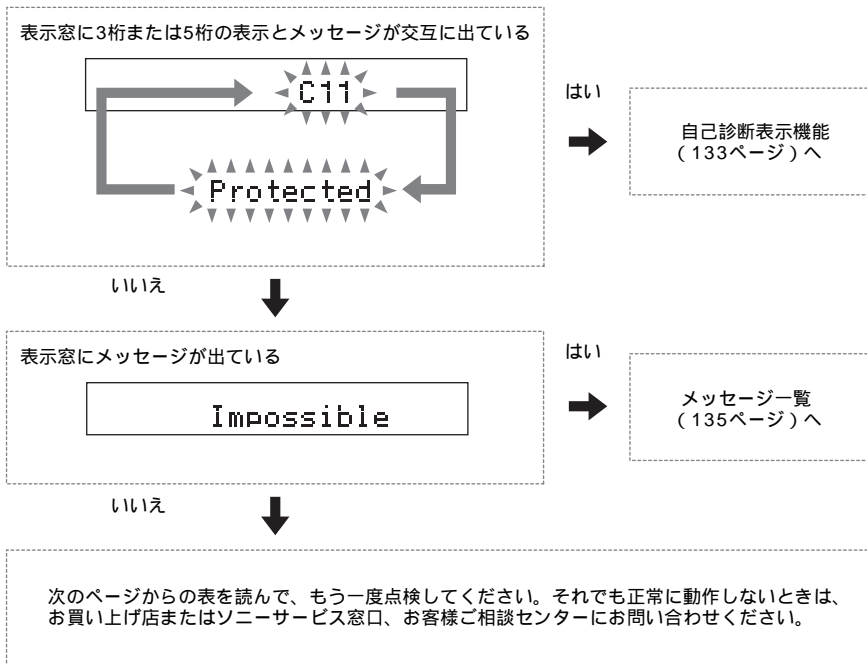
市販のFM屋外アンテナを、市販の75Ω 同軸ケーブルを使ってつなぎます。
同軸ケーブルを使うと、雑音の影響を受けにくくなります。同軸ケーブルは3C-2Vが適当です。
屋外アンテナの購入、取り付けについては、本機をお買い上げいただいた販売店へご相談ください。

同軸ケーブルのつなぎかた

1 ケーブルの先端を処理する。

2 市販のアンテナコネクターのふたをはずす。

3 アンテナコネクター内のケーブルをはずし、突起にはめる。

4 芯線を根元まで差し込んで巻きつける。

5 金具をペンチなどでしめつける。

6 FMアンテナ端子へつなぐ。

AMアンテナをつなぐ

市販の6～15mのビニール線を、窓際や屋外になるべく高く水平に張ります。付属のAMアンテナはつないだままにしておきます。

症状と原因

修理に出す前に、以下の手順にしたがって点検してください。

次のページからの表を読んで、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

共通

症状	原因と対応のしかた
「ーー:ーー」が表示される	電源コードを抜いた、または停電などにより、時計の設定が解除されている。 ➔ 時計を設定し直す（16ページ）。
音が出ない	ボリュームが小さい。 ➔ VOLUME ＋を押す。
	ヘッドホンを差したままになっている。 ➔ ヘッドホンを抜く。
	スピーカーが正しく接続されていない。 ➔ スピーカーコードを正しく接続し直す（11ページ）。
音がおかしい	左右のスピーカーの高さ、距離が極端に違う。 ➔ 高さ、距離をできるだけ対称にする。
	付属のスピーカー以外のスピーカーをつないでいる。 ➔ 付属のスピーカーをつなぐ。
雑音が多い	テレビやビデオなど、ノイズを出す機器の近くに設置している。 ➔ 離れたところに設置する。
	冷蔵庫など、ノイズを出す機器と同じ電源コンセントにつないでいる。 ➔ 別の電源コンセントにつなぐ。 ➔ 電源ラインのノイズフィルター（市販）を使用する。
タイマーが設定できない	• 時計が設定されていない。 • 停電などにより、時計の設定が解除された。 ➔ 時計を設定し直す（16ページ）。
タイマーが働かない	電源を切る前にタイマーが働くように設定していなかった。 ➔ 時計/タイマーの選択ボタンを押して、表示窓に「◷PLAY」または「◷REC1〜3」を点灯させる（102、104ページ）。
	誤った時間が設定されている。 ➔ 設定内容を確認し、正しい時間を設定する（102、104ページ）。
	スリープタイマーが働いている。 ➔ スリープタイマーを解除する（100ページ）。
リモコンで操作できない	リモコンとDVDレシーバーの間に障害物がある。 ➔ 障害物を取り除く。
	リモコンとDVDレシーバーの距離が離れすぎている。 ➔ 近寄って操作する。
	リモコンの発光部がDVDレシーバーの方を向いていない。 ➔ リモコンをDVDレシーバーに向ける。
	リモコンの乾電池が消耗している。 ➔ 乾電池（単3）を交換する。
	DVDレシーバーの近くにインバーター方式の蛍光灯がある。 ➔ DVDレシーバーと蛍光灯を離して設置する。

次のページへつづく

症状	原因と対応のしかた
ボタンが働かない	Net MD機能がオンになっている。 → Net MDを使わないときは、NET MDボタンを押してオフにする。
電源が自動的に切れる	スリープタイマーが働いている。 → スリープタイマーを解除する（100ページ）。
	DVDを再生中に一時停止またはDVDトップメニュー、DVDメニューを表示したままで約1時間が経過すると、自動的に電源が切れます。
電源が切れてI/⏻（電源）インジケーターが点滅している	保護回路が作動している。 → 電源コードを抜いて本機の接続を確認し、しばらくしてから電源コードを入れ直す。 それでもI/⏻（電源）インジケーターが点滅するときは、お買い上げ店またはお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

DVD・ビデオCD・CD・スーパーオーディオCD・MP3・JPEG

症状	原因と対応のしかた
「LOCKED」と表示され、ディスクが出てこない	ディスクが固定されている。 → お買い上げ店またはお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
ディスクが出てこない	レンタルディスクや中古ディスクなどで、シールなどからのりがはみ出したり、のりが付着したディスクを入れたため、ディスクが内部に貼り付いている、または貼りついたディスクが内部に落ちて挟まっている。 → お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
	ディスクを入れたまま、本機を移動するなどの振動を与えたため、ディスクが内部に挟まった。 → お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
	シンクロ録音をしている。 → ■を押してシンクロ録音を止めてから、DVDレシーバーの⏏DVDを押す。
再生が始まらない	ディスクが入っていない。 → DVDレシーバーの⏏DVDを押して、ディスクが入っているか確認する。
	ディスクの汚れ（油膜、指のあとなど）がひどい。 → 汚れを拭き取る（141ページ）。
	ディスクの傷がひどい。 → ディスクを交換する。
	再生しようとしているディスクが規格外の大きさ、形状、記録方式である（6ページ）。 → ディスクを交換する。

症状	原因と対応のしかた
再生が始まらない	本機で再生できないディスクを入れている（6ページ）。 →ディスクを交換する。
	ディスクがずれて入っている。 → ディスクを正しく入れ直す。
	ディスクが裏返しに入っている。 → 印刷面を上にして、ディスクを入れ直す。
	本機内部のレンズ、または入れたディスクが結露している。 → ディスクを取り出してディスクの水分を拭き取り、本機の電源を入れたまま数時間待つ。
	ディスクが再生状態になっていない。 → SA-CD/DVD►を押し、再生状態にする。
	本機で再生できない地域番号のDVDを入れている。 → 地域番号に「All」または「2」が含まれているDVDのみ再生できます。
	カスタム視聴制限が働いている。 → カスタム視聴制限を解除する（40ページ）。
カスタム視聴制限を設定したのに暗証番号入力画面が表示されない	ハイブリッドディスクのスーパーオーディオCDで、異なるレイヤーにカスタム視聴制限を設定している。 → 制限をかけたい方のレイヤーで、カスタム視聴制限を設定する。
マルチチャンネルのスーパーオーディオCDを再生しているのにサラウンド効果が得られない	2チャンネルエリア、またはCDレイヤーが選択されている。 → 音声切り換えでマルチチャンネルエリアを選ぶ（32ページ）。
	SPEAKER OUT MODEが「2CH」または「2.1CH」になっている。 →「5.1CH」にする（95ページ）。
MP3が再生できない	ISO9660レベル1、レベル2、Joliet、マルチセッションに準拠して記録されていない。 → 準拠しているディスクを使用する。
	MP3（MPEG1 Audio Layer3）形式で記録されていない。 → 本機はMP3PROで記録されたファイルには対応していません。
	MP3ファイルに拡張子が付いていない。 → 記録した機器で拡張子「.MP3」を付ける。
	MP3ファイル以外に拡張子「.MP3」を付けている。 → MP3形式のファイルを使用する。
	設定画面の「視聴設定」の「データCD優先モード」で「JPEG」が選ばれている。 → ディスクを取り出して、「データCD優先モード」で「MP3」を選ぶ（36ページ）。
	ディレクトリレベルが8階層を超えている。 → サポートされるディレクトリの深さは、8階層までです。

次のページへつづく

症状	原因と対応のしかた
MP3が再生できない	アルバムまたはトラック数が本機で再生できる数を超えている。 ➔ 本機で再生できるアルバムの最大数は99、トラックの最大数は250までです。
JPEGが再生できない	ISO9660レベル1、レベル2、Joliet、マルチセッションに準拠して記録されていない。 ➔ 準拠しているディスクを使用する。
	JPEGファイルに拡張子が付いていない。 ➔ 記録した機器で拡張子「.JPG」または「.JPEG」を付ける。
	JPEGファイル以外に拡張子「.JPG」または「.JPEG」を付けている。 ➔ JPEG形式のファイルを使用する。
	設定画面の「視聴設定」の「データCD優先モード」で「MP3」が選ばれている。 ➔ ディスクを取り出して、「データCD優先モード」で「JPEG」を選ぶ（36ページ）。
	ディレクトリレベルが8階層を超えている。 ➔ サポートされるディレクトリの深さは、8階層までです。
JPEGが再生できない	アルバムまたはファイル数が本機で再生できる数を超えている。 ➔ 本機で再生できるアルバムの最大数は99、ファイルの最大数は250までです。
	JPEGファイルが本機に対応していない。 ➔ プログレッシブJPEG形式のファイルは再生できません。 ➔ 縦が1ドットまたは縦（横）が4720ドット以上のJPEG画像は再生できません。
MP3のアルバム/トラック名やJPEGのアルバム/ファイル名が正しく表示されない	名前にアルファベットと数字以外の文字が使われている。 ➔ 本機ではアルファベットと数字以外の文字は正しく表示されません。
音とびがする	ディスクの汚れ（油膜、指のあとなど）がひどい。 ➔ 汚れを拭き取る（141ページ）。
	ディスクの傷がひどい。 ➔ ディスクを交換する。
	再生しようとしているディスクが規格外の大きさ、形状、記録方式である（6ページ）。 ➔ ディスクを交換する。
	本機に振動が加わっている。 ➔ 振動のない場所（安定した台の上など）に設置してみる。 ➔ スピーカーと本機を離す、または別々の台の上に設置してみる。低音の効いた曲を大音量でお聞きになっている場合、スピーカーの振動により音とびしている可能性があります。

症状	原因と対応のしかた
再生が1曲目から始まらない	プログラム再生、またはシャッフル再生になっている。 ➔ 停止中に再生モードボタンをくり返し押して、表示窓の「PGM」または「SHUF」を消し、ノーマル再生に戻す。
	リジューム再生になっている。 ➔ 停止中に、■を押してから再生を始める（21ページ）。
	自動的にタイトルメニュー、DVDメニュー、PBCのメニューの画面表示されるディスクが入っている。 ➔ メニューにしたがって、再生を進める。
左右の音のバランスが悪い、または逆転している	スピーカーが正しく接続されていない。 ➔ スピーカーコードを正しく接続し直す（11ページ）。
	設定画面の「スピーカー設定」の「バランス調整」で「センター」以外が選ばれている。 ➔「バランス調整」で「センター」を選ぶ（46ページ）。
サブウーファーから音が出ない	スピーカーが正しく接続されていない。 ➔ スピーカーコードを正しく接続し直す（11ページ）。
	オートデコーディング機能が働いていない。 ➔ SOUND FIELD ＋/－をくり返し押して、「A.F.D. AUTO」を表示させる（95ページ）。
	SPEAKER OUT MODEが「2CH」になっている。 ➔「2.1CH」または「5.1CH」にする（95ページ）。
サラウンドスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない	スピーカーが正しく接続されていない。 ➔ スピーカーコードを正しく接続し直す（11ページ）。
	SPEAKER OUT MODEが「2CH」または「2.1CH」になっている。 ➔「5.1CH」にする（95ページ）。
	サウンドフィールドが設定されていない。 ➔「C.ST.EX A（またはBかC)」を選ぶ（96ページ）。
	サラウンドスピーカーからの音が小さく記録されているディスクが入っている。 ➔ ディスクに付属の説明書もあわせてご覧ください。
センタースピーカーからしか音が出ない	センタースピーカーからしか音が出ないディスクが入っている。 ➔ ディスクに付属の説明書もあわせてご覧ください。
センタースピーカーから音が出ない	スピーカーが正しく接続されていない。 ➔ スピーカーコードを正しく接続し直す（11ページ）。
	サウンドフィールドが設定されていない。 「C.ST.EX A（またはBかC)」を選ぶ（96ページ）。
	SPEAKER OUT MODEが「2CH」または「2.1CH」になっている。 ➔「5.1CH」にする（95ページ）。

次のページへつづく

症状	原因と対応のしかた
ドルビーデジタルの音声トラックを再生しているのにサラウンド効果が得られない	サウンドフィールドが設定されていない。 → SOUND FIELD ＋/－をくり返し押して、「A.F.D. AUTO」以外のサウンドフィールドを選ぶ（96ページ）。
	ドルビーデジタルのディスクであっても5.1chすべてから出力されないもの（モノラルやL、Rステレオなど）もある。 → ディスクに付属の説明書もあわせてご覧ください。
ビデオCD、CD、MP3を再生したときに、音に奥行き感がなく、モノラルのように聞こえる	コントロールメニュー画面の「音声」で「1/L」または「2/R」が選ばれている。 →「音声」で「ステレオ」を選ぶ（32ページ）。

DVDのみ

症状	原因と対応のしかた
再生が自動的に始まる	自動的に再生が始まるDVDが入っている。 → ディスクに付属の説明書もあわせてご覧ください。
再生が自動的に止まる	オートポーズ信号が記録されているDVDを再生している。 → オートポーズ信号のところで自動的に再生が止まります。ディスクに付属の説明書もあわせてご覧ください。
ストップ、スキャン、スロー、リピート再生、シャッフル再生、プログラム再生などの操作ができない	操作を禁止しているDVDを再生している。 → ディスクに付属の説明書もあわせてご覧ください。
希望する言語で画面表示されない	設定画面の「言語設定」の「画面表示言語」で希望する言語が選ばれていない。 →「画面表示言語」で希望の言語を選ぶ（34ページ）。
音声言語を変更できない	再生しているDVDに複数の音声言語が記録されていない、または音声言語の切り換えを禁止しているDVDを再生している。 → ディスクに付属の説明書もあわせてご覧ください。
字幕を変更できない	再生しているDVDに複数の字幕が記録されていない、または字幕の変更を禁止しているDVDを再生している。 → ディスクに付属の説明書もあわせてご覧ください。
字幕を消すことができない	字幕表示を消すことを禁止しているDVDを再生している。 → ディスクに付属の説明書もあわせてご覧ください。
アングルを変更して見ることができない	再生しているDVDに複数のアングルが記録されていない。 → DVDコントロールメニューのアングルアイコンが緑に点灯している場面で、アングルを切り換える（36ページ）。
	アングルの変更を禁止しているDVDを再生している。 → ディスクに付属の説明書もあわせてご覧ください。
DVD-RWが再生できない	VRモードで記録されている。 → 本機ではVRモードで記録されたDVD-RWは再生できません。ビデオモードで記録されたDVD-RWは再生できます（6ページ）。

症状	原因と対応のしかた
映像が出ない	ファンクションが「DVD」または「VIDEO」になっていない。 ➔ FUNCTIONをくり返し押して、「DVD」または「VIDEO」に切り換える。
	映像接続コードのプラグがしっかり差しこまれていない。 ➔ 映像接続コードをしっかり接続し直す。
	映像接続コードが断線している。 ➔ 新しい映像接続コードと交換する。
	テレビの入力端子を間違えている。 ➔ 映像接続コードを正しく接続し直す（12ページ）。
	テレビの電源が入っていない。 ➔ 電源を入れる。
	テレビの入力切り換えで本機の映像が映るようにしていない。 ➔ テレビの説明書を見て、入力を切り換える。
	プログレッシブ（525p）方式に対応していないテレビとつないでいるときに、設定画面の「画面設定」の「コンポーネント出力」で「プログレッシブ」を選んでいる。 ➔ DVDレシーバーのTUNERスティックをー（マイナス）方向に長押ししながら、SPEAKER OUT MODEとSOUND FIELD ＋を同時に押す。「コンポーネント出力」設定が「インターレース」に戻ります。
	プログレッシブ（525p）方式に対応しているテレビでも、設定画面の「画面設定」の「コンポーネント出力」で「プログレッシブ」を選ぶと映像が乱れることがある。 ➔「コンポーネント出力」を「インターレース」にする（37ページ）。
	設定画面の「画面設定」の「コンポーネント出力」で「プログレッシブ」が選択されている。 ➔「コンポーネント出力」を「インターレース」にする（37ページ）。「プログレッシブ」が選択されているときは、MONITOR OUT S VIDEO端子から映像は出力されません。
映像が乱れる	本機に振動が加わっている。 ➔ 振動のない場所（安定した台の上など）に設置してみる。
	ディスクに汚れ（油膜、指のあとなど）がひどい。 ➔ 汚れを拭き取る（141ページ）。
	ディスクの傷がひどい。 ➔ ディスクを交換する。
	本機の映像出力を、ビデオデッキを経由してテレビにつないでいると、一部のDVDプログラムに使用されているコピープロテクション信号が画質に悪影響を及ぼす可能性がある。 ➔ 本機をテレビに直接つなぐ。それでも画質に問題が生じる場合は、テレビのS映像入力端子へ接続してください（116ページ）。

次のページへつづく

症状	原因と対応のしかた
設定画面の「画像設定」の「TVタイプ」で設定した画像の形で再生できない	画像の形が固定されているDVDを再生している。 ➔ ディスクに付属の説明書もあわせてご覧ください。
	本機をS映像入力端子と直接つないでいない。 ➔ 本機をテレビに直接つなぐ。
	画像の形を変更できないテレビをつないでいる。 ➔ テレビに付属の説明書もあわせてご覧ください。
再生中に電源が切れる	一時停止またはDVDトップメニュー、DVDメニューを表示したままで約1時間が経過すると、自動的に電源が切れます。

MD

症状	原因と対応のしかた
ディスクが入らない	ディスクの向きが違う。 ➔ 矢印の書いてある面を上にして、矢印の向きに挿入する。
操作を受け付けない	MDが汚れている、または破損している。 ➔ 新しいMDと交換する。
	「TOC」が点滅し、TOCを書き込み中である。 ➔「TOC」が消灯してから操作し直す。
	M-crewが起動中か、画面右下のタスクトレイに入っている。 ➔ M-crewを終了させてから操作する。
再生が始まらない	ディスクの汚れ（油膜、指のあとなど）、傷がひどい。 ➔ ディスクを交換する。
	ディスクに何も記録されていない。 ➔ 録音されているディスクと交換する。
	本機内部のレンズ、または入れたディスクが結露している。 ➔ ディスクを本機に入れ、本機の電源を入れたまま数時間待つ。
	MDが再生状態になっていない。 ➔ MD►を押し、再生状態にする。
	グループ登録された曲がないときに、グループ機能を働かせている。 ➔ MDグループボタンを押して、「GROUP ON」表示を消し、グループ機能を解除する。
音とびがする	ディスクの汚れ（油膜、指のあとなど）、傷がひどい。 ➔ ディスクを交換する。
	本機に振動が加わっている。 ➔ 振動のない場所（安定した台の上など）に設置してみる。 ➔ スピーカーと本機を離す、または別々の台の上に設置してみる。低音の効いた曲を大音量でお聞きになっている場合、スピーカーの振動により音とびしている可能性があります。
	本機内部とディスクの温度差がはげしい。 ➔ ディスクを本機に入れ、電源を入れたまま10～20分待つ。

症状	原因と対応のしかた
再生が1曲目から始まらない	プログラム再生、またはシャッフル再生になっている。 ➔ 再生モードボタンをくり返し押して、表示窓の「PGM」または「SHUF」を消し、ノーマル再生に戻す。
「OVER」が表示される	一時停止中に▶▶を押し続け、ディスクの最後まで達した。 ➔ ◀◀を押し続ける、または I◀◀ を押して再生位置を戻す。
録音中に「OVER」が点灯する	録音される音の大きさが大きく設定されている。 ➔ 録音レベルを設定し直す（67ページ）。
MDに録音したり編集を行ったのに、その情報が記録されていない	MDの録音や編集後、MDを取り出さないで電源コードを抜いた。 ➔ MDの録音や編集情報は、MDを取り出すときに記録されるため、録音や編集後は必ずMDを取り出してください（56、69ページ）。
曲が消えない	SonicStageを使ってMDにチェックアウト（転送）した曲を本機で消そうとしている。 ➔ SonicStageでチェックインして曲を消す（114ページ）。
録音できない	MDが誤消去防止状態になっている（「C11」と「Protected」が交互に表示されている）。 ➔ ディスクを取り出し、録音可能状態にする（57ページ）。
	別売りの機器が正しく接続されていない。 ➔ 別売りの機器を正しく接続し直す（116ページ）。
	ファンクションが「MD」または「PC」になっている。 ➔ FUNCTIONをくり返し押して、録音したい音源に切り換える。
	市販の再生専用のMDが入っている。 ➔ 録音用MDと交換する。
	MDの残り時間が足りない。 ➔ MD編集のERASE機能を使っていらない曲を消す（77ページ）か、別のMDと交換する。
	録音中に停電があった、または電源コードが抜かれた。 ➔ 初めから録音し直す。
録音したMDを再生すると音が小さい（または音が大きい）	録音された音の大きさが小さく（または大きく）設定されている。 ➔ 録音レベルを調節し直す（67ページ）。
シンクロ録音ができない	DVDをシンクロ録音しようとしている。 ➔ DVDではシンクロ録音ができません。
LP4ステレオで録音すると音がもれる	片方のチャンネルだけに音楽や音声が録音されているCD、テープ、または別売り機器の音をLP4ステレオ録音したときは、音が録音されていないチャンネルにも音がもれることがある。 ➔ ステレオ録音またはLP2ステレオ録音する。
録音したMDに曲番が付かない	雑音が多い音を録音している。 ➔ レベルシンクロの検出レベルを変更する（64ページ）。

次のページへつづく

チューナー（ラジオ）

症状	原因と対応のしかた
雑音が入る/受信できない（「TUNED」または「STEREO」が点滅する）	放送局のバンド（FM/AM）、周波数が合っていない。 ➔ バンドと周波数を正しく設定する（87ページ）。
	アンテナが正しく接続されていない。 ➔ 正しく接続し直す（9ページ）。
	• アンテナが受信状態のよい場所に設置されていない。 • 電波が弱い。 ➔ 受信状態のよい場所（窓の外など）や方向を探し、設置し直す（13ページ）。 鉄筋、鉄骨造りのマンションなどの場合、付属のFM簡易アンテナでは十分に受信できない場合があります。窓の外に設置しても受信状態がよくならない場合は、市販の外部アンテナをつなぐことをおすすめします（118ページ）。
	アンテナの一部分を折りたたむ、束ねる、巻き取るなどしている。 ➔ 付属のFM簡易アンテナは全体で受信しているため、余分に感じる部分もそのまま垂らしておく（13ページ）。 ➔ 付属のFM簡易アンテナの先は、テープなどで壁にとめる（13ページ）。
	アンテナの一部分をスピーカーコードといっしょに束ねている。 ➔ スピーカーコードからできるだけ離す。
	付属のAMアンテナのアンテナ線がプラスチックスタンドからはずれている。 ➔ お近くのソニーサービス窓口へご相談ください。
	電気器具の影響を受けている。 ➔ 電気器具の電源を切ってみる。
ステレオにならない	モノラル受信の設定になっている。 ➔ FMモードボタンをくり返し押して「MONO」を消灯させる。
	AM放送を受信している。 ➔ 本機ではAM放送をステレオ受信しません。
	受信状態が悪い。 ➔ 症状「雑音が入る/受信できない」を参照し、アンテナの状態を確認する。
MDに録音中、ザーザーという雑音が周期的に入る	アンテナの設置位置が適切でない。 ➔ 雑音が消える位置までアンテナを動かす。

テープ

症状	原因と対応のしかた
再生音や録音した音が小さい	ヘッドが汚れている。 ➔ ヘッドのお手入れをする（142ページ）。
	ヘッドが磁化している。 ➔ ヘッドを消磁する（142ページ）。
前の録音が完全に消えない	ヘッドが磁化している。 ➔ ヘッドを消磁する（142ページ）。
音がとぎれる	内部のピンチローラーなどが汚れている。 ➔ 市販のクリーニングカセットを使って、お手入れする。
雑音が多い	ヘッドが磁化している。 ➔ ヘッドを消磁する（142ページ）。
録音できない	テープが入っていない。 ➔ テープを入れる。
	テープのツメが折れている。 ➔ ツメの部分だけ穴をふさぐ（141ページ）。
	テープが最後まで巻きとられている。 ➔ テープを巻き戻す。

パソコン接続

症状	原因と対応のしかた
ドライバが見つからないというメッセージが出る	パソコンにUSBドライバがインストールされていない。 ➔ ドライバをインストールし直す。
M-crewまたはSonicStageが起動しない	パソコンに搭載されているUSBホストコントローラーによっては、正常に動作しない場合があります。 2003年10月現在、該当するものは、SiS7001 PCI to USB Open Host Controllerです。

別売り機器

症状	原因と対応のしかた
音が出ない	本機が正しい状態になっていない。 ➔ 共通「音が出ない」を参照し、本機の状態を確認する。
	別売りの機器が正しく接続されていない。 ➔ 以下の点を確認しながら正しく接続し直す（116ページ）。 • 接続コード/ケーブルが正しい位置に接続されているか。 • 接続コード/ケーブルのコネクターがしっかり奥まで差し込まれているか。
	つないだ機器の電源が入っていない。 ➔ 電源を入れる。
	つないだ機器での再生が始まっていない。 ➔ つないだ機器の取扱説明書を見て、再生を始める。

次のページへつづく

症状	原因と対応のしかた
音が出ない	ファンクションが「VIDEO」になっていない。 ➔ FUNCTIONをくり返し押して「VIDEO」を表示させる（117ページ）。
音が歪む	VIDEO/SAT IN端子につないだ機器からのアナログ録音中に、規定以上の大きな信号が入ってきた。 ➔ FUNCTIONをくり返し押して「VIDEO」を表示させた後、MENU/NOを押して「SAT?」を表示させ、決定ボタンを押す（117ページ）。
レコードプレーヤーからの音が小さい	レコードプレーヤーを直接つないでいる。 ➔ つないでいるレコードプレーヤーに、イコライザーが内蔵されているか確認する。内蔵されていないときは、本機とプレーヤーの間に、イコライザー（別売り）をつなぐ。

これらの処置をしても正常に動作しないときは ― リセット

1 電源コードを抜く。
2 電源コードを入れる。
3 I/⏻を押して電源を入れる。
4 DVDレシーバーのSPEAKER OUT MODEとSOUND FIELD ＋を押すと同時に、SA-CD/DVDスティックでDVD■を選ぶ。

DVD以外の設定がリセットされてお買い上げ時の状態に戻ります。ラジオ局のプリセットや時計合わせ、タイマー設定をやり直してください。

DVDの設定をお買い上げ時の状態*に戻すときは ― リセット

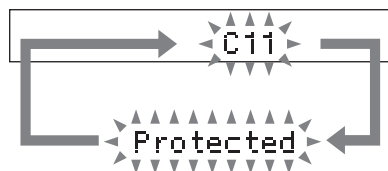
1 停止中にDVD設定ボタンを押す。
2 ▲/▼で「リセット」を選び、決定ボタンを押す。
3 ▲/▼で「はい」を選び、決定ボタンを押す。

リセットが完了するまで数秒かかります。リセット中はI/⏻（電源）を押して、電源を切らないでください。

* 視聴年齢制限は除く

自己診断表示機能

（3桁または5桁の表示とメッセージが交互に出たら）

本機には自己診断表示機能がついています。これは、本機が正しく動作していないとき、表示窓に3桁または5桁の表示とメッセージを交互に表示してお知らせする機能です。
表示によって、本機の状態がわかるようになっています。以下の表をご覧になり、表示に合った対応をしてください。2、3度くり返しても正常に戻らないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

表示番号/メッセージ	原因と対応のしかた
C11/Protected	ディスクが誤消去防止状態になっている。 → ディスクを取り出し、録音可能状態にする（57ページ）。
C12/Cannot Copy	本機で録音できないフォーマットで記録した音声を録音しようとしている。 → 本機で録音できるフォーマットで記録した音声を録音する。
	本機につないだ別売り機器から、AACなど本機でデジタル録音できない音声を録音しようとしている。 → 別売り機器のデジタル音声出力をPCMに切り換える。
C13/REC Error	正しく録音できなかった。 → 振動のない場所に本機を設置し、録音をやり直す（「故障かな?と思ったら」のMDの項目にある「音とびがする」（124ページ）をご覧ください）。
	ディスクにひどい汚れ（油膜、指のあとなど）や傷がある、またはディスクが規格外である。 → ディスクを交換して、録音をやり直す。
C13/Read Error	ディスク情報を正しく読み取れなかった。 → ディスクを入れ直す。
C14/TOC Error	ディスク情報を正しく読み取れなかった。 → 他のディスクを入れてみる。 → ディスク上の内容をすべて削除してよいときは、MD編集のAll Erase機能を使って記録されている内容をすべて削除する（78ページ）。
C41/Cannot Copy	録音しようとした音源が市販の音楽ソフトのコピーになっている。またはCD-Rを録音しようとしている。 → シリアルコピーマネージメントシステムにより、コピーできない（143ページ）。また、CD-Rは録音できない。
C71/Check OPT-IN	一瞬表示されて消えるときは、録音中のデジタル放送の信号によるものです。録音内容に影響はありません。

次のページへつづく

表示番号/メッセージ	原因と対応のしかた
C71/Check OPT-IN	VIDEO/SAT DIGITAL IN OPTICAL端子につないだ機器やCDからのデジタル録音中に、光デジタル接続ケーブルが抜かれた、またはつながっているデジタル機器の電源が切られた。 ➔ ケーブルをつなぐ、またはデジタル機器の電源を入れる。
	DVDレシーバーとMDデッキが光デジタル接続ケーブルで正しく接続されていない、またはVIDEO/SAT DIGITAL IN OPTICAL端子につないだ機器やCDからデジタル録音をするときに、録音一時停止状態からすぐに録音を開始した。 ➔ 光デジタル接続ケーブルを正しく接続し直す、または録音一時停止状態で数秒待ってから録音を開始する。
E0001/MEMORY NG	本機を動作させるために必要な内部情報に問題が生じた。 ➔ お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
E0101/LASER NG	光ピックアップに問題が生じた。 ➔ 故障の可能性があります。お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
E0201/LOADING NG	ローディングに問題が生じた。 ➔ お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

メッセージ一覧

使用中、状況によって英語のメッセージを表示します。意味は以下の通りです。

DVD・ビデオCD・CD・スーパーオーディオCD・MP3・JPEG

メッセージ	原因と対応のしかた
Cannot Play	本機で再生できないディスクを入れている（6ページ）。 ➔ディスクを交換する。
	本機で再生できない地域番号のDVDを入れている。 ➔ 地域番号に「All」または「2」が含まれているDVDのみ再生できます。
Data Error	JPEGファイルが、本機で再生できない形式になっている。
DVD No Disc	ディスクが入っていない。
Eject	ディスクを排出中。
No Disc	ディスクが入っていない。
Not in Use	使用できないボタンを押した。
PASSWORD	カスタム視聴制限/視聴年齢制限が働いている。 ➔ カスタム視聴制限/視聴年齢制限を解除する（40、42ページ）。
Play Limit	MP3ファイルが、本機で再生できない形式になっている。
Please Wait	ファンクションがDVDに切り換わっている。 ➔ しばらくお待ちください。
Push STOP!	再生中に再生モードボタンを押した。 ➔ 再生中は再生モードの変更はできない。■を押して再生を停止させてから、再生モードボタンを押す。
Reading	ディスクの情報を読み取っている。 ➔ 表示が消えるまで、しばらくお待ちください。
RESUME	リジューム再生が働いている状態で再生を停止した（21ページ）。
Step Full!	26曲（ステップ）以上プログラムしようとした。 ➔ 26曲以上はプログラムできない。不要な曲を消してから、プログラムし直す。

MD

メッセージ	原因と対応のしかた
Analog REC	アナログ録音を開始した。
Assign None	すべての曲がグループ登録されている。

次のページへつづく

メッセージ	原因と対応のしかた
Auto Cut	録音中、無音状態が約30秒以上続いたため、オートカット機能が働き、無音部分（曲間）を約3秒に短縮した後、録音一時停止状態になった。 → 録音を始めたいところでMD►を押し、録音を再開する。曲間をつめたくないときは、スマートスペース機能を解除して録音し直す（67ページ）。
Blank Disc	挿入されたMDには何も録音されていない、またはMD編集のERASE機能を使って録音内容がすべて削除されている。
Cannot Edit	市販の再生専用MDが入っている。 → 再生専用MDは編集できない。
	プログラム再生、またはシャッフル再生になっている。 → 再生モードボタンをくり返し押して、表示窓の「PGM」または「SHUF」を消し、ノーマル再生に戻す。
	MDLP録音されている。 → MDLP録音した曲の録音レベルは変更できない。
Cannot REC	市販の再生専用MDが入っている。 → 再生専用MDへは録音できない。
	ファンクションがMDになっている。 → FUNCTIONをくり返し押して、録音したい音源に切り換える。
Cannot SYNC!	ディスクが入っていない、または誤消去防止状態になっているため、シンクロ録音できない。 → 録音可能状態にし（57ページ）、ディスクを入れる。
	録音可能時間が残り少なく、シンクロ録音できない。 → 新しいディスクと交換する。
Complete!	MD編集作業が、正常に終了した。
Disc Full!	録音可能時間が残り少なく、録音できない。 → 新しいディスクと交換する。
Eject	ディスクを排出中。
Group Full!	グループ数の上限を超えて新たにグループを作成しようとした。または、グループ管理情報の更新に必要な文字数が不足している。 → 不要な文字（ディスク名または曲名）を消す。

メッセージ	原因と対応のしかた
Impossible	MD編集操作で、不可能な編集内容が指定された。 ➔ 編集操作をやり直す。
	つなごうとした（COMBINE）または一部分を消そうとした（A-B Erase）曲が、MDのシステム上の制約で、つなげないまたは消せない状態になっている。 ➔ 指定のとおりに編集することはできません。 MDでは、ひとつの曲が連続で録音されるわけではありません。ディスク上の空いている場所を探しながら、効率よく録音されていきます。この録音方式により、MDは手軽に録音、編集がくり返せるのです。しかし、録音や編集を何度もくり返したMDでは、ひとつの曲がディスクのあちらこちらに、少しずつ記録されている状態ができてしまうことがあります。そのような状態で記録されてしまった曲は、MDのシステム上の制約により、他の曲とつなぐことまたは一部分を消すことができません。
Incomplete!	本機の振動やディスクの傷、汚れなどにより、録音後の録音レベルの変更やフェードイン・フェードアウトの操作が正しく行われなかった。 ➔ 本機を振動のない場所に置く、または傷や汚れのないディスクを使用する。
Initialize	長い間電源を入れていなかったため、初期化を行っている。
Name Full!	入力可能な文字数（約1,700文字、カナ文字のみで800字）がすでに記録されている。 ➔ 不要な曲名などを削除してから、入力し直す。
No Change	録音後に録音レベルを変更するときに、録音レベルを変更しないで決定ボタンを押したため、書き換えをせずに終了した。
No Disc	ディスクが挿入されていない。
OVER	一時停止中に▶▶を押し続け、ディスクの最後まで達した。 ➔ ◀◀を押し続ける、または⏮を押して再生位置を戻す。
Push STOP!	MD再生（一時停止）中または録音（一時停止）中に使用できないボタンを押した。 ➔ 再生を停止させてから、操作する。
Reading	ディスクの情報を読み取っている。 ➔ 表示が消えるまでしばらくお待ちください。 表示が消えるまで、本機に振動を与えないでください。正しく情報が読み取れなくなります。
－Rehearsal－	MD編集A-B EraseまたはDIVIDEの操作中、曲を分ける場所の指定終了後、確認のために再生中。 ➔ 再生される内容を聞き、分ける部分を確認する（78、82ページ）。
S.F Edit!	S.F EDIT（録音後の録音レベルの変更、フェードイン・フェードアウト）を実行中に他の操作をしようとした。 ➔ S.F EDITの実行中は他の操作はできない。

次のページへつづく

メッセージ	原因と対応のしかた
S.F Edit NOW	S.F EDIT（録音後の録音レベルの変更、フェードイン・フェードアウト）の実行中にI/⏻（電源）を押した。 ➔ S.F EDITの実行中に電源を切ると、書き換えが正常に終了しない。 書き換え終了後に電源を切る。それでも書き換え中に電源を切るときは、メッセージ表示中に再度I/⏻（電源）を押す。
Smart Space	録音中、約3秒以上、約30秒未満の無音状態が続いたため、スマートスペース機能が働き、無音部分が約3秒に短縮された。 ➔ 曲間をつめたくないときは、スマートスペース機能を解除する（67ページ）。
Step Full!	26曲（ステップ）以上プログラムしようとした。 ➔ 26曲以上はプログラムできない。不要な曲を消してから、プログラムし直す。
TOC Writing	録音、編集された情報を、ディスクに書き込んでいる。 ➔ 表示が消えるまでしばらくお待ちください。 表示が消えるまで、本機に振動を与えないでください。正しく情報が書き込めなくなります。
Tr Protected	Net MD機器でチェックアウトした曲などは、曲が保護されているため、一部のMD編集機能は使用できません。
Track End	MD編集DIVIDEの操作中、曲を分ける位置の調節中に曲の最後まで達した。 ➔ ⏮ または◀◀を押して、位置を変える（82ページ）。

テープ

メッセージ	原因と対応のしかた
Cannot SYNC!	テープが入っていない、または誤消去防止ツメが折れているため、シンクロ録音できない。 ➔ A、B両面のツメの部分だけ穴をふさぎ（141ページ）、テープを入れる。
Eject	ディスクを排出中。
No Tab	誤消去防止ツメが折れているため、録音できない。 ➔ A、B両面のツメの部分だけ穴をふさぐ（141ページ）。
No Tape	テープが入っていない。

タイマー

メッセージ	原因と対応のしかた
OFF TIME NG!	タイマー設定で、終了時刻と開始時刻を同じに設定した。 → 終了時刻を設定し直す。
OVERLAP!	タイマー設定またはタイマー録音設定が、他のタイマーの設定時刻の一部または全体と重なっている。 → タイマーを設定し直す。
PUSH SELECT!	タイマー動作中に時計またはタイマーの設定を行おうとした。 → タイマーを解除する（102、104ページ）。
SET CLOCK!	時計が設定されていない状態でタイマーを選択しようとした。 → 時計を設定する。
SET TIMER!	タイマーが設定されていない状態でタイマーを選択しようとした。 → タイマーを設定する。

パソコン接続

メッセージ	原因と対応のしかた
Buffer＞＞＊＊＊%	WEB RADIOでストリーミングデータをパソコンにバッファリングしている。
Busy NOW!	Net MD機能を使用中に、チェックイン/チェックアウトの途中でNET MDボタンを押した。 → 接続が終了してからNet MD機能を終了させる。
Cannot Pause	MUSIC LIBRARY、WEB RADIOで一時停止できない曲や放送を一時停止しようとした。
Cannot Play	MUSIC LIBRARYで再生できない曲を再生しようとした。
Check USB	USBケーブルが正しく接続されていない。 → 接続を確認する。
CONNECT	チェックイン/チェックアウト中。
Connecting	WEB RADIOでインターネットラジオ局への接続を開始している。
Disconnect	WEB RADIOでインターネットラジオ局への接続が切断された。
Net MD	Net MD機能が働いている。
No Track	MUSIC LIBRARYに曲が登録されていない。 → 曲を登録する。
No URL	WEB RADIOにURLが登録されていない。 → URLを登録する。
Not Found	WEB RADIOでインターネットラジオ局への接続ができなかった。
PC Soft Off	M-crewが起動していない。 → M-crewを起動させる。

その他

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。
- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。

（チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

設置時のご注意

- オーディオ機器は、密閉した場所に置いて使用しないで、温度上昇を防ぐために風通しの良い所でお使いください。
- スピーカーの近くに磁気を発生するもの（健康器具、玩具など）を置くと、相互作用でテレビ画面に色むらが起こりやすくなります。設置場所にご注意ください。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている場所に、本体およびスピーカーなどを置くときは、変色、染みなどが残ることがあります。
- DVDレシーバー／MDデッキには、それぞれ操作用のスティックが付いています。小さなお子様がいるご家庭では、お子様がつまずいて怪我をされないよう、設置場所には十分ご注意ください。

使用時の放熱について

- 使用中、本機の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。
- 大音量で鳴らし続けると、本機キャビネットの天板や側板、底板、通風孔はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットなどに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。
  また、動作中の温度上昇を避けるために空冷ファンを搭載している機器では、大きな音を出したときなどにファンが回転します。ファンの通風孔付近を塞いで使用すると、機器の温度が上昇して故障の原因になります。
- 電源を切っているにもかかわらず、本機の天板があたたかくなることがありますが故障ではありません。電源コードがコンセントに差し込まれている限り、電源を切っているときでも本機の一部には電流が流れています。それらは、リモコンでの操作の待ち受けや、タイマー動作などのために使われています。

テレビの色むらについて

本機のスピーカーは防磁型*1（JEITA*2）のため、テレビのそばで使うことができますが、テレビの種類により色むらが起こる場合があります。色むらが起きたら、いったんテレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残る場合は、スピーカーをさらにテレビから離してください。

*1 防磁型は、フロントスピーカー、センタースピーカー、サブウーファーのみです。
*2 電子情報技術産業協会の略称です。

残像現象（画像の焼きつき）のご注意

DVDメニューやタイトルメニュー、ビデオCDのメニュー、本機の設定画面などの静止画をテレビ画面に表示したまま長時間放置しないでください。画面に残像現象（画像の焼きつき）を起こす場合があります。特にプロジェクションテレビではこの現象が起こりやすいのでご注意ください。

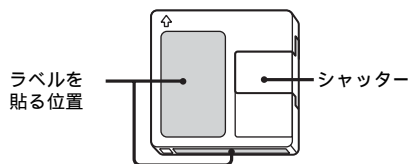
結露について

部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、ディスクを取り出しておいてください。
結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約30分放置し、再び電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

移動時のご注意

- 必ずDVD、CDなどのディスクや、MD、テープを取り出してください。中に入れたまま動かすと、取り出せなくなることがあります。
- 移動する前に、電源が切れ、すべての動作が終了していることを必ず確認してください。

MDの取り扱いかた

- シャッターを無理に開けようとすると、壊れることがあります。シャッターが開いてしまった場合は、内部のディスクに直接触れずに、すぐに閉めてください。
- ディスクに付属のラベルはシャッターの周りなど所定以外の場所には貼らないでください。必ずラベル用のくぼみに貼ってください。くぼみの形はディスクによって異なります。

- 定期的にカートリッジ表面についたほこりやゴミを乾いた布で拭き取ってください。
- 直射日光が当たる場所、車やトランクの中など、高音になるところには置かないでください。

ディスクの取り扱いかた

- 紙やシールなどを貼ったり、傷つけたりしないでください。
- 本機でお使いいただけるDVDやCDは、円形ディスクのみです。円形以外の特殊な形状（星型、ハート型、カード型など）をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。汚れがひどいときは、少し湿らせた布で拭いた後、乾いた布で水気を拭き取ってください。ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは使わないでください。
- 直射日光が当たる場所、車やトランクの中など、高音になるところには置かないでください。
- 中古ディスクやレンタルディスクで、シールなどののりがはみ出したり、付着しているディスクは使用しないでください。プレーヤー内部にディスクが貼り付いて取り出せなくなったり、プレーヤー本体の故障の原因となります。

お手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤溶液を少し含ませた柔らかい布などで拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので、使わないでください。

クリーニングディスクについて

市販のCD/DVDレンズ用のクリーニングディスクは、本機では使わないでください。故障するおそれがあります。

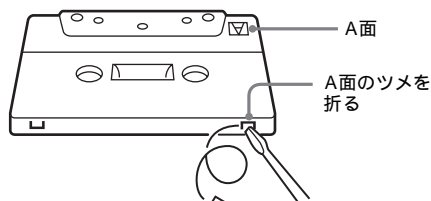
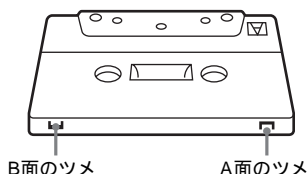
カセットテープを入れる前に

テープのたるみをとってください。たるんでいるとテープが巻き込まれて使えなくなることがあります。

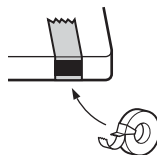
長時間テープの使用は避けてください

90分を超える長時間テープは、テープ自体が薄く伸びやすい性質となっています。そのため機械に巻き込まれ、本機の故障の原因となる場合があります。ご使用をお避けください。

テープの録音内容を消したくないときは

消したくない面の誤消去防止ツメを折ります。

ツメを折っても、折ったツメの部分だけ穴をふさげば再び録音できます。

その他

次のページへつづく

ヘッドのお手入れ

ヘッドはおよそ10時間使うごとにクリーニングしてください。
汚れがひどくなると、音が悪い、音が小さい、音がとぎれる、前の音が消えないで残る、録音ができない、などの症状が出ます。
また、特に大切な録音をする前や古いテープを使用した後には、かならずクリーニングしてください。
別売りのクリーニングカセット（乾式）C-1KN、または、クリーニングカセット（湿式）CHK-1をお使いください。詳しくはそれぞれのクリーニングカセットの取扱説明書をご覧ください。

ヘッドを消磁する

ヘッドやテープのあたる金属部分は、20〜30時間使うごとに別売りのカセットタイプのヘッド消磁器で消磁してください。詳しくはヘッド消磁器の取扱説明書をご覧ください。

MDのシステム上の制約

MDではいくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

最大録音時間に達していなくても、「Disc Full!」が表示される

255曲録音されると、それ以上の録音はできません。さらに曲を追加するには、不要な曲を消して録音するか、別のMDを使ってください。

曲数（最大255曲まで）にも録音時間にも余裕があるのに「Disc Full!」が表示される

エンファシス情報などが頻繁に変化する曲を録音したり、録音や編集をくり返し行うと、曲の区切りと同じ扱いになり、時間や曲数に関係なく「Disc Full!」が表示されます。

編集時に「Group Full!」が表示される

- グループ機能が働いているときに編集操作を行うと、「Group Full!」と表示されることがあります。この場合、グループ管理に必要な文字数が不足しています。ディスク名やグループ名などの不要な文字を削除してください。
- グループ機能が働いていないときでも、MOVE、DIVIDEなどの編集操作を行うと、グループ管理情報が更新されるため、「Group Full!」と表示されることがあります。

曲を消しても、ディスクの録音できる残り時間が増えない

ディスクの録音できる残り時間を表示するとき、12秒*以下の部分は無視します。このため、短い曲を何曲消しても、録音できる残り時間が増えないことがあります。

* ステレオ録音時。（モノラル、LP2ステレオ録音時は約24秒、LP4ステレオ録音時は約48秒）

曲を消したりつなごうとしたときに「Impossible」が表示される

何度も編集をくり返すと、「Impossible」が表示され、曲の一部分を消すことができなくなる場合や2曲を1曲につなげなくなる場合があります。これはミニディスクのシステム上の制約なので故障ではありません。

ディスクに録音した時間と残り時間の合計が、最大録音可能時間と一致しない

通常、録音は約2秒*を最小単位としてディスクに記録します。2秒*に満たない場合でも、実際には2秒*分のスペースを使います。このため、実際に録音できる時間は少なくなります。また、MDに傷があるとその部分を自動的に削除するので、その分の時間が減ります。

* ステレオ録音時。（モノラル、LP2ステレオ録音時は約4秒、LP4ステレオ録音時は約8秒）

編集した曲を再生しながら早送り、巻戻しすると音が途切れる

再生しながら早送り、巻戻しするときは通常より高速で再生します。このため、短い曲がディスクの上に分散していると探すのに時間がかかり、音が途切れることがあります。

曲番が曲の頭に付かない

レベルシンクロ録音中でも、次のときは曲番が曲の頭に付かないことがあります。

- 曲の間が短くて一定レベル以下になるのが2秒未満のとき
- 曲の途中でも2秒以上一定レベル以下になるとき
- 4秒*以下の曲を録音したとき

* ステレオ、モノラル、LP2ステレオ録音時。（LP4ステレオ録音時は8秒以下）

余分な曲が作られる

CDの曲間が長い場合、余分な曲が作られることがあります。

録音したトラック数が異なる

CDに短い曲が含まれている場合、録音しても曲番が付かず、CDとMDで曲数が異なることがあります。

デジタル録音の制約 ― シリアルコピーマネージメントシステム

デジタルオーディオでは、音声信号をデジタルでやりとりします。コンパクトディスク（CD）、ミニディスク（MD）、デジタルオーディオテープ（DAT）、衛星デジタル音楽放送などがこれに当たります。これらは音楽を手軽に、劣化の少ない状態でコピーできます。このため、音楽ソフトの著作権を保護するコピー規制が必要になりました。それが「シリアルコピーマネージメントシステム」です。本機の設計はこのシステムに準拠しています。概要は以下の通りです。

原則1

デジタル録音したものから、さらに他のデジタル録音機器（MDやDATデッキなど）へのデジタル録音はできない。

原則2

アナログ録音したものは、他のデジタル録音機器へ1度だけデジタル録音できる。

ご注意

- BSデジタル/デジタルCSチューナーからはデジタル録音できないことがあります。これは、放送局側で放送チャンネルや番組のデジタル録音を、禁止または制約する場合があるためです。
- 機器のアナログ入出力端子同士を接続してアナログ録音するときは、上記の原則にあたりません。
- 著作権を保護するためのコピーコントロール信号を除去、改変してコピーを作成することは、個人として楽しむ目的であっても法律で禁止されています。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
また、MD/テープデッキ（MDS-SE9）の修理が必要になったときは、DVDレシーバー（HCD-SE9）もあわせてお持ちください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：CMT-SE9
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 自己診断機能の状況：
- 故障したときに再生していたディスク：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

DVDレシーバー（HCD-SE9）

アンプ部

実用最大出力　フロント部：25W＋25W
センター部：25W
サラウンド部：25W＋25W
（JEITA* 6Ω負荷）
サブウーファー部：50W（JEITA* 3Ω負荷）

音声入力端子　（ANALOG）
VIDEO/SAT：250/450mV、47kΩ
MD/TAPE：250mV、47kΩ
（DIGITAL OPTICAL）
MD、VIDEO/SAT：対応サンプリング周波数32kHz、44.1kHz、48kHz

音声出力端子　（ANALOG）
MD/TAPE：250mV
PHONES：ステレオ標準、8Ω以上
（DIGITAL OPTICAL）
MD：サンプリング周波数44.1kHz
（CDのみ）

ビデオ入力端子
VIDEO/SAT：1.0Vp-p、75Ω

モニター出力端子（VIDEO）
最大出力レベル：1.0Vp-p、
負荷インピーダンス：75Ω同期負

モニター出力端子（S VIDEO）
最大出力レベル
輝度信号1.0Vp-p、負荷インピーダンス75Ω同期負
色信号0.286Vp-p、負荷インピーダンス75Ω終端

モニター出力端子（COMPONENT D2 VIDEO）
最大出力レベル
Y：1.0Vp-p、負荷インピーダンス75Ω同期負
CB/B-Y、CR/R-Y：0.7Vp-p、負荷インピーダンス75Ω終端

DVDプレーヤー部

形式　DVD/CD/スーパーオーディオCDプレーヤー
信号方式　JEITA*標準、NTSCカラー方式
周波数特性　DVD：2Hz〜22kHz
CD：2Hz〜20kHz
スーパーオーディオCD：2Hz〜50kHz

チューナー部

受信周波数　FM：76〜90MHz
AM：531〜1,602kHz
アンテナ端子　FM：75Ω不平衡型F型
AM：外部アンテナ端子

MD/カセットデッキ（MDS-SE9）

MDデッキ部

サンプリング周波数
44.1kHz
周波数特性　5Hz〜20kHz

カセットデッキ部

トラック方式　4トラック2チャンネルステレオ
周波数特性　ソニー TYPE Iカセット
50〜13,000Hz

スピーカーシステム

フロント（SS-FSE9）

方式　バスレフ型、防磁型（JEITA*）
形状　コーン型90mm、バランスドーム型25mm
定格インピーダンス
6Ω
最大外形寸法（幅×高さ×奥行き）
120×285×280mm
質量　約4.0kg

センター（SS-CSE9）

方式　密閉型、防磁型（JEITA*）
形状　コーン型70mm
定格インピーダンス
6Ω
最大外形寸法（幅×高さ×奥行き）
120×90×120mm
質量　約0.8kg

サラウンド（SS-RSE9）

方式　密閉型
形状　コーン型70mm
定格インピーダンス
6Ω
最大外形寸法（幅×高さ×奥行き）
90×120×120mm
質量　約0.7kg

次のページへつづく

サブウーファー（SS-WSE9）

方式　バスレフ型、防磁型（JEITA*）
形状　コーン型150mm
定格インピーダンス
　3Ω
最大外形寸法（幅×高さ×奥行き）
　175×285×280mm
質量　約4.5kg

その他

電源　AC100V、50/60Hz
消費電力　115W：通常動作時（JEITA*）
　0.3W以下：スタンバイ（節電モード）時
最大外形寸法（幅×高さ×奥行き、最大突起部含む）
　アンプ/DVDプレーヤー /チューナー部：
　　155×120×345mm
　MDデッキ/カセットデッキ部：
　　155×120×345mm
質量　アンプ/DVDプレーヤー /チューナー部：
　　5.3kg
　MDデッキ/カセットデッキ部：
　　4.0kg
付属品　リモートコマンダー（1）
　単3形乾電池（2）
　映像接続コード（1）
　スピーカーコード（6）
　FM用簡易アンテナ（1）
　AMループアンテナ（1）
　デジタル接続ケーブル（2）
　オーディオ接続コード（2）
　USB接続ケーブル（1）
　はじめにお読みください（1）
　取扱説明書（1）
　M-crew/Net MD対応SonicStage CD-ROM（1）
　安全のために（1）
　ソニーご相談窓口のご案内（1）
　保証書（1）
　カスタマー登録のお願い（1）
別売りアクセサリー
　スピーカースタンド WS-MC1
　本機に対応する別売りアクセサリーは、予告なく変更することがあります。詳しくはお買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

本機は「高調波ガイドライン適合品」です。

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

* JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。

- 待機時消費電力0.3W以下
- 主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません
- 主なはんだ付け部に無鉛はんだを使用
- キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません
- システムの本体キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません
- 包装用緩衝材に100%再生発泡スチロールを使用

言語コード一覧表

詳しくは32ページ、35ページをご覧ください。
言語名表記はISO639:1988（E/F）に準拠

コード	言語	コード	言語	コード	言語
1027	Afar	1245	Inupiak	1489	Russian
1028	Abkhazian	1248	Indonesian	1491	Kinyarwanda
1032	Afrikaans	1253	Icelandic	1495	Sanskrit
1039	Amharic	1254	Italian	1498	Sindhi
1044	Arabic	1257	Hebrew	1501	Sangho
1045	Assamese	1261	Japanese	1502	Serbo-Croatian
1051	Aymara	1269	Yiddish	1503	Singhalese
1052	Azerbaijani	1283	Javanese	1505	Slovak
1053	Bashkir	1287	Georgian	1506	Slovenian
1057	Byelorussian	1297	Kazakh	1507	Samoan
1059	Bulgarian	1298	Greenlandic	1508	Shona
1060	Bihari	1299	Cambodian	1509	Somali
1061	Bislama	1300	Kannada	1511	Albanian
1066	Bengali; Bangla	1301	Korean	1512	Serbian
1067	Tibetan	1305	Kashmiri	1513	Siswati
1070	Breton	1307	Kurdish	1514	Sesotho
1079	Catalan	1311	Kirghiz	1515	Sundanese
1093	Corsican	1313	Latin	1516	Swedish
1097	Czech	1326	Lingala	1517	Swahili
1103	Welsh	1327	Laothian	1521	Tamil
1105	Danish	1332	Lithuanian	1525	Telugu
1109	German	1334	Latvian; Lettish	1527	Tajik
1130	Bhutani	1345	Malagasy	1528	Thai
1142	Greek	1347	Maori	1529	Tigrinya
1144	English	1349	Macedonian	1531	Turkmen
1145	Esperanto	1350	Malayalam	1532	Tagalog
1149	Spanish	1352	Mongolian	1534	Setswana
1150	Estonian	1353	Moldavian	1535	Tonga
1151	Basque	1356	Marathi	1538	Turkish
1157	Persian	1357	Malay	1539	Tsonga
1165	Finnish	1358	Maltese	1540	Tatar
1166	Fiji	1363	Burmese	1543	Twi
1171	Faroese	1365	Nauru	1557	Ukrainian
1174	French	1369	Nepali	1564	Urdu
1181	Frisian	1376	Dutch	1572	Uzbek
1183	Irish	1379	Norwegian	1581	Vietnamese
1186	Scots Gaelic	1393	Occitan	1587	Volapük
1194	Galician	1403	(Afan)Oromo	1613	Wolof
1196	Guarani	1408	Oriya	1632	Xhosa
1203	Gujarati	1417	Punjabi	1665	Yoruba
1209	Hausa	1428	Polish	1684	Chinese
1217	Hindi	1435	Pashto; Pushto	1697	Zulu
1226	Croatian	1436	Portuguese		
1229	Hungarian	1463	Quechua	1703	無指定
1233	Armenian	1481	Rhaeto-Romance		
1235	Interlingua	1482	Kirundi		
1239	Interlingue	1483	Romanian		

用語解説

アルバム

MP3音声またはJPEG画像を記録しているデータCDの中の単位の1つ。

インターレース（飛び越し走査）

映像の1フレーム（コマ）を2つのフィールド画像で半分ずつ表示する方式で、従来のテレビの表示方式。奇数フィールドでは奇数番号の走査線、偶数フィールドでは偶数番号の走査線を交互に表示するようになっている。

インデックス（CD/スーパーオーディオCD）/ビデオインデックス（ビデオCD）

再生したい部分を見つけやすいように、1つのトラックをいくつかの部分に区切って番号を付けたもの。インデックスが記録されていないディスクもある。

視聴年齢制限（39ページ）

国・地域ごとの規制レベルに合わせて、視聴年齢制限に対応したディスクの再生を制限する、というDVDの機能。制限のしかたはDVDによって異なり、全く再生できない場合や過激な場面をとばしたり、別の場面に差し替えて再生する場合などがある。

シーン

PBC（プレイバックコントロール）対応のビデオCDで、メニュー画面や動画、静止画の区切りのこと。シーンごとに順に付けられた番号をシーン番号という。

スーパーオーディオCD

現行のCDなどに用いられているPCM方式とは異なるDSD（ダイレクトストリームデジタル）方式で記録された、新しい高音質オーディオディスクの規格。DSD方式は、CDの64倍にあたるサンプリング周波数で、1ビットの量子化の採用により、現行のCDをはるかに超える広い再生帯域と可聴帯域における十分なダイナミックレンジを確保し、原音をより忠実に再現する。

スーパーオーディオCDには、以下のような種類がある。

- スーパーオーディオCD（シングルレイヤーディスク）
  HD（ハイデンシティ）レイヤー（スーパーオーディオCD用の高密度信号層）単層のみのディスク。
- スーパーオーディオCD（デュアルレイヤーディスク）
  長時間再生を可能にした、HDレイヤーが2層になっているディスク。2層構成になっているが片面読み出しのため、ディスクを裏返す必要はない。
- スーパーオーディオCD+CD（ハイブリッドディスク）
  HDレイヤーとCDレイヤーとが2層になったディスク。2層構成になっているが片面読み出しのため、ディスクを裏返す必要はない。また、CDレイヤーの内容は通常のCDプレーヤーでも再生できる。
- 2チャンネル＋マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク
  スーパーオーディオCDのHDレイヤーに2チャンネルのエリアとマルチチャンネルのエリアの両方が記録されているディスク。

タイトル

DVDに記録されている映像や曲のいちばん大きな単位。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚（または1曲）にあたる。タイトルに順に付けられた番号をタイトル番号という。

地域番号（リージョンコード）（43ページ）

著作権保護を目的に設けられた制度。販売地域によって、DVDプレーヤーやDVDディスクには地域番号が割り当てられていて、プレーヤー本体やディスクのパッケージに、それぞれの地域番号が表示されている。プレーヤーとディスクの地域番号が一致していると再生できる。ALL の表示のあるディスクは、どのプレーヤーでも再生できる。なお、地域番号の表示がないDVDでも、地域制限されている場合がある。

チェックアウト/チェックイン

チェックアウトとは、パソコン上の音楽データをMD機器へ高速転送すること。チェックインとは、チェックアウトした曲を転送元のパソコンに「戻す」こと。転送元とは異なるパソコンにチェックインすることはできない。

チャプター

DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルよりも小さい単位。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成される。チャプターに順に付けられた番号をチャプター番号という。チャプターが記録されていないディスクもある。

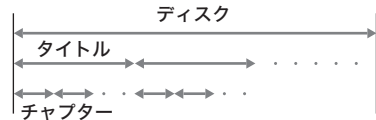
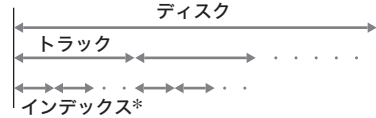
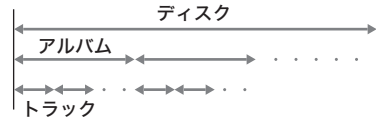
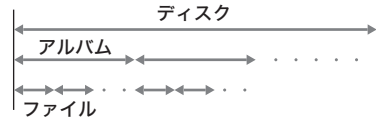
デジタルシネマサウンド（DCS）

映画館での迫力あるサウンドを家庭で楽しむために、ソニーがデジタル信号処理技術を駆使して開発したサラウンドサウンドの総称。音楽演奏用の空間をベースにした従来の音場再現と違い、あくまで映画を楽しむために開発された。

トラック

ビデオCD、CD、MP3、JPEG、MDに記録されている映像や曲の区切り（1曲分）。トラックに順に付けられた番号をトラック番号という。

ディスクに関する用語の説明

DVD

ビデオCD/CD/スーパーオーディオCD/MD

MP3

JPEG

* MDにインデックスはありません。

ドルビーサラウンド（プロロジック）

ドルビーラボラトリーズ社がサラウンド音声のために開発した音声信号の処理技術。入力信号にサラウンド信号があるとき、プロロジック処理をして、フロント、センター、リアに信号を出力する。リアチャンネルはモノラルになる。

ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。リアチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

次のページへつづく

ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIは2チャンネルソースを5チャンネルで全帯域再生する。それを行うのが、ソースにない音や音の色付けを加えることなく、オリジナル録音の空間的特質を引き出す先進的で高音質のマトリックスサラウンドデコーダである。

- ムービーモード
  ムービーモードはステレオTVショーやドルビーサラウンドでエンコードされたすべてのプログラムに向いている。その効果はディスクリート5.1チャンネルサウンドの質に迫る音場指向性の改善である。
- ミュージックモード
  ミュージックモードはあらゆるステレオ音楽録音で用いられ、広く深く音場を確保する。ミュージックモードはサウンドをリスナーの希望どおりに操作できる制御を持っている。

ビデオCD

動画の記録されているCD。ビデオCDでは、デジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG1」（エムペグ1）を使うことにより、映像情報を平均約140分の1に圧縮している。これにより、12cmのディスクに最大74分までの動画を記録できる。また、音声情報についても、人間には基本的には聴こえない音声を圧縮して記録し、従来の音楽用CDと比較すると、音声情報も約6分の1に圧縮している。ビデオCDには、動画や音声の再生だけが可能なバージョン1.1と、高精細の静止画の再生やPBC（プレイバックコントロール）機能を持ったバージョン2.0がある。

ファイル

JPEG画像を記録しているデータCDの中の単位の1つ。

プレイバックコントロール（PBC）（ビデオCD）

ディスクのタイプによって、次の2種類の再生ができる。

- PBC対応でないビデオCD（バージョン1.1）
  音楽用CDと同じように操作して、音声と映像（動画）を再生する。
- PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）
  PBC対応でない場合に加え、テレビ画面に表示されるメニュー画面（選択画面）を使って、対話型のソフトや検索機能のあるソフトを再生する（PBC再生、23ページ）。また、高精細の静止画も再生できる。

プログレッシブ（順次走査）（38ページ）

映像の1フレーム（コマ）を2つのフィールド画像で半分ずつ表示するインターレース方式に対して、1フレームを1つの画像で表示する方式。従来のインターレース方式が1秒を30フレーム（60フィールド）で構成するのに対して、はじめから1秒を60フレームで構成するため、静止画や文字、横線の多い場面などで高品質な映像を再現できる。
本機は525プログレシップ（525p）方式に対応しています。

マルチアングル

DVDの機能のひとつで、同じ場面が視点を変えて複数のアングル（カメラの位置）で記録されていること。

マルチランゲージ

DVDの機能のひとつで、同じ映像に対して音声や字幕が複数の言語で記録されていること。

AAC

BSデジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式。「アドバンスド・オーディオ・コーディング（Advanced Audio Coding）」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現する。

D映像信号

D端子付きデジタルテレビと1本のケーブルで簡単にコンポーネント映像信号を接続できるため、より高画質な画像となる。D端子には対応する信号フォーマットによってD1、D2、D3、D4端子がある。

- D1端子：525i（480i）の信号に対応
- D2端子：525i（480i）と525p（480p）の信号に対応
- D3端子：525i（480i）と525p（480p）、1125i（1080i）の信号に対応
- D4端子：525i（480i）と525p（480p）、1125i（1080i）、750p（720p）の信号に対応

本機はD2端子に対応しています。

* iはインターレース、pはプログレッシブの略。カッコ内の数字は有効走査線数で数えたときの別称。

DTS

デジタルシアターシステムズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。リアチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

DVD

CDと同じ直径で最大8時間までの動画が記録できるディスク。
片面1層で4.7GB（GigaギガByteバイト）とCDの7倍の情報が記録でき、片面2層で8.5GB、両面1層では9.4GB、両面2層では17GBが記録できる。
画像の記録はデジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG2」（エムペグ2）を採用し、映像データを約1/40（平均）に圧縮して記録する。また画像の状態に合わせて割り当てる情報量を変化させる可変レート符号化技術も採用されている。音声情報はPCMの他、ドルビーデジタルを用いて記録でき、より臨場感のある音声が楽しめる。
またマルチアングル、マルチランゲージ、視聴年齢制限などさまざまな付加機能も用意され、より高度な楽しみかたができる。

MDLP

1枚のMDの録音時間を2倍長（LP2）、4倍長（LP4）にすることができる技術。MDLPロゴの付いていないMD機器（MDLP非対応機器）では再生することができない。

Net MD

パソコン上の音楽データをMD機器へ高速転送することができるMDの拡張規格。

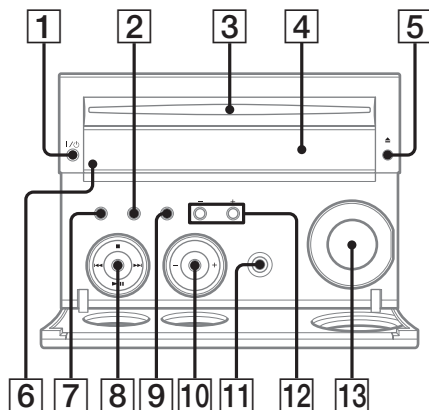
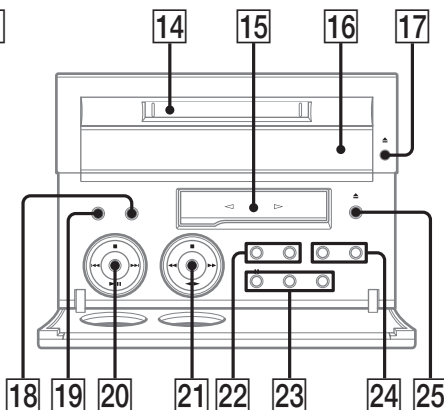
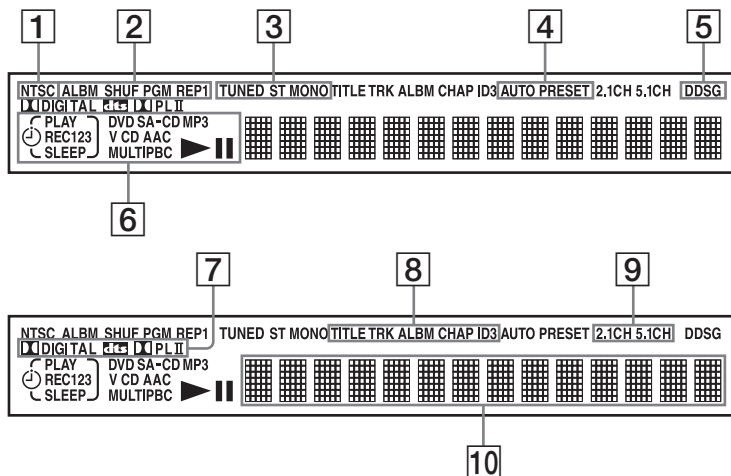
TOC

MDの曲番（曲順）や曲の開始/終了点などの情報を管理している領域のこと。音楽領域とは別になっている。

各部のなまえ

本体

DVDレシーバー

MDデッキ

1 I/⏻（電源）スイッチ
2 FUNCTIONボタン（20、51、61、72、92、94、113、117ページ）
3 ディスクスロット（19ページ）
4 DVDレシーバー表示窓
5 ⏏DVD（ディスク取り出し）ボタン
6 リモコン受光部（15ページ）
7 DISPLAYボタン（105ページ）
8 SA-CD/DVD スティック
9 SPEAKER OUT MODEボタン
10 TUNERスティック
11 PHONES端子
12 SOUND FIELD＋/－ボタン（96ページ）
13 VOLUMEつまみ
14 MDスロット（51ページ）
15 TAPEスロット（91ページ）
16 MDデッキ表示窓
17 ⏏MD（MD取り出し）ボタン
18 NET MDボタン（114ページ）
19 DISPLAYボタン（54、62、107、113ページ）
20 MDスティック
21 TAPEスティック
22 MD録音用ボタン
REC MODEボタン（57、58ページ）
REC/REC ITボタン（61ページ）
23 TAPE用ボタン
❚❚（一時停止）ボタン
DIRECTIONボタン（60、92、93ページ）
RECボタン（94ページ）
24 SYNC REC用ボタン
MODEボタン（58、93ページ）
ENTER/STARTボタン（58、93ページ）
25 ⏏TAPE（テープ取り出し）ボタン

表示窓（DVDレシーバー）

エヌティーエスシー
1 **NTSC表示（5ページ）**

アルバム
2 **ALBM表示（20、108ページ）**

シャッフル
SHUF表示（20、108ページ）

プログラム
PGM表示（20、27ページ）

リピート　リピートワン
REP/REP1表示（24ページ）

チューンド
3 **TUNED表示（87ページ）**

ステレオ
ST表示（87ページ）

モノラル
MONO表示（90ページ）

オート
4 **AUTO表示（87ページ）**

プリセット
PRESET表示（88ページ）

デジタルダイナミックサウンドジェネレーター
5 **DDSG表示（99ページ）**

6 **タイマー表示**

ディーブイディー
DVD表示

スーパーオーディオシーディー
SA-CD表示

エムピースリー
MP3表示

ビデオシーディー
VCD表示

シーディー
CD表示

エーエーシー
AAC表示

マルチ
MULTI表示

プレイバックコントロール
PBC表示（23ページ）

►表示

❚❚表示

ドルビーデジタル
7 **Dolby Digital表示**

デジタルシアターシステムズ
dts表示

ドルビープロロジック　ドルビープロロジックツー
Dolby PL / Dolby PL II表示

タイトル
8 **TITLE表示**

トラック
TRK表示

アルバム
ALBM表示

チャプター
CHAP表示

アイディースリー
ID3表示

チャンネル
9 **2.1CH表示（44、95、96ページ）**

チャンネル
5.1CH表示（95ページ）

ディーブイディー
10 **DVDレシーバー操作状況表示**

次のページへつづく

表示窓（MDデッキ）

1 TOC表示（56、69ページ）

2 SHUF表示（52、69ページ）

PGM表示（52、53、69ページ）

REP/REP1表示（52ページ）

3 L-SYNC表示（64ページ）

4 DISC表示

GROUP表示

TRK表示

5 MONO表示（57、58ページ）

LP2表示（57、58ページ）

LP4表示（57、58ページ）

6 MDデッキ操作状況表示

7 MUSIC LIB 表示（113ページ）

WEB RADIO表示（113ページ）

8 GROUP ON表示（59、74ページ）

9 録音表示

PC表示

TAPE表示

MD表示

►表示

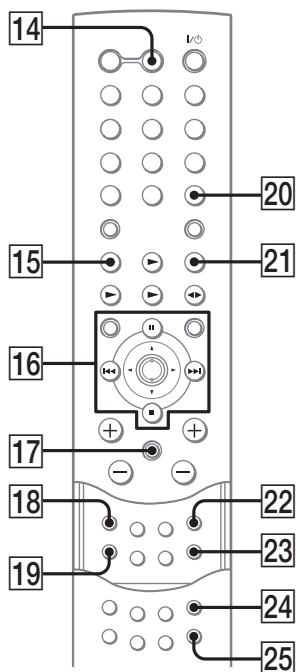
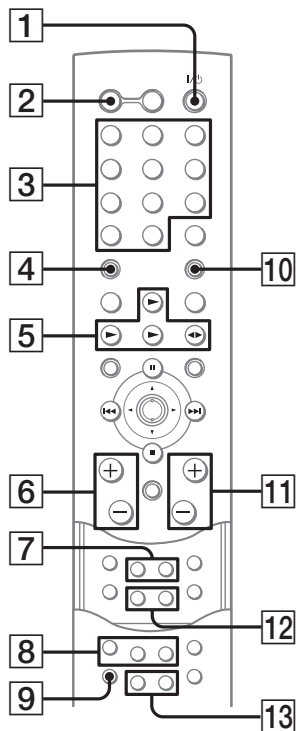
◄表示

❚❚表示

10 DIRECTION設定表示（60、92、93ページ）

◄► （再生面/録音開始面）表示

OVER表示（68、85ページ）

リモコン

1 I/⏻（電源）スイッチ

スリープ
2 SLEEPボタン（100ページ）

3 アルファベット/数字/カタカナ入力ボタン（22、37、52、73、89、114ページ）

メニュー　ノー
4 MENU/NOボタン（65、69、87、117ページ）

ピーシー
5 PC►（再生）ボタン

スーパーオーディオシーディー　ディーブイディー
SA-CD/DVD►（再生/セレクト）ボタン

エムディー
MD►（再生）ボタン

テープ
TAPE◄►（再生）ボタン

サウンドフィールド
6 SOUND FIELD＋/－ボタン（96ページ）

エムディー
7 MDグループボタン（54、59、70ページ）

グループスキップボタン（54、59、72ページ）

8 アングルボタン（37ページ）

字幕ボタン（34ページ）

音声ボタン（33ページ）

ディーブイディー
9 DVD画面表示ボタン（25、32、110ページ）

ネームエディット　セレクト
10 NAME EDIT/SELECTボタン（72、90ページ）

ボリューム
11 VOLUME ＋/－ボタン（46、101、114ページ）

12 時計/タイマー用ボタン

選択ボタン（102ページ）

設定ボタン（16、101ページ）

13 トップメニューボタン（22ページ）

アルバム－ボタン（21ページ）

ディーブイディー
DVDメニューボタン（22ページ）

アルバム＋ボタン（21ページ）

その他

次のページへつづく

14 DDSG（デジタルダイナミックサウンドジェネレーター）ボタン（99ページ）

15 TUNER BAND（チューナーバンド）ボタン（87ページ）

16 ◀◀/▶▶（早戻し/早送り）ボタン

◀I/I▶（スロー）ボタン

II（一時停止）ボタン

I◀◀/▶▶I（頭出し）ボタン

＋/－ボタン

■（停止）ボタン

▲/▼/◀/▶/決定ボタン

17 SPEAKER OUT MODE（スピーカーアウトモード）ボタン（44、95ページ）

18 再生モード/チューニングモードボタン（20、52、69、87ページ）

19 FUNCTION（ファンクション）ボタン（20、51、61、72、92、94、113、117ページ）

20 クリアボタン（25、44、54、73、91ページ）

21 PC LIB（ピーシーライブラリー）ボタン（113ページ）

22 リピート/FM（エフエム）モードボタン（24、52ページ）

23 スクロールボタン（73、109ページ）

24 DVD（ディーブイディー）設定ボタン（22、34ページ）

25 リターン⤺ボタン（24、40ページ）

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

A-Z

次のページへつづく

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

ホームページ　● http://www.sony.co.jp/SonyDrive/

「ソニードライブ」は、ソニーの商品情報とライフスタイルをご提案するホームページです。
「良くあるご質問」「修理情報」「ショッピング情報」は、ホームページをご活用ください。

お客様ご相談センター

● ナビダイヤル*……………………… 0570-00-3311
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

● 携帯電話・PHSでのご利用は*……… 03-5448-3311
（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）

● FAX…………………………………… 0466-31-2595

受付時間：月〜金曜日 9:00〜20:00　土・日・祝日 9:00〜17:00

*お電話は自動音声応答にてお受けし，内容に応じて専門の相談員が対応します。
はじめにご用件を下記より、次に音声案内にそって商品カテゴリーの番号を押してください。
選択番号は変更になることがありますので、ご容赦願います。

1：修理受付
2：使用方法や故障と思われるご相談
3：お買物相談
4：業務用・プロ用商品に関するご相談全般
5：その他のご相談

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川 6-7-35

Printed in Korea